

第 2 章 市民意見交換会結果

1 市民意見交換会の概要

(1) 開催趣旨

令和4年5～6月に実施された「内港地区の将来像の検討」と「山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定」に向けた市民意見交換会では、全市から集まった幅広い年齢層の市民の皆様が「内港地区の将来像のイメージ」「山下ふ頭のまちづくりのテーマ」「導入施設のイメージ」を議論し、様々なご意見・ご提案をいただきました。

今回、これらのご意見等を踏まえ、より具体的な再開発のイメージや導入機能等を伺うため、改めて市内各所において、市民等の皆様による意見交換会をワークショップ形式で開催しました。意見交換にあたっては、再開発のイメージや導入機能のアイデア等の背景にある理由や期待される効果などを引き出し、ご意見を深掘りすることを目的としました。

(2) 実施概要

今回は全5回計 172 名で、前回同様、幅広い年齢層が参加し、計 30 グループによる意見交換会が実現しました。

《募集期間》 令和4年 11 月 22 日(火)～5年1月 19 日(木)

《実施期間》

開催回	開催日	開催場所	募集人数	参加者数	グループ数
第1回	令和4年 12 月 17 日(土) 14:00～17:30	横浜市庁舎	64 人	44 人	8 グループ
第2回	令和5年1月 14 日(土) 14:00～17:30	横浜ビジネスパーク	64 人	38 人	6 グループ
第3回	令和5年1月 21 日(土) 14:00～17:30	山内地区センター	64 人	21 人	4 グループ
第4回	令和5年1月 28 日(土) 13:00～16:30	神奈川県労働文化センター	64 人	26 人	4 グループ
第5回	令和5年2月 5 日(日) 14:00～17:30	横浜市庁舎	64 人	43 人	8 グループ

合計 172 人 30 グループ

《ファシリテーター》 ※()内数字は参加回

大木 淳(統括ファシリテーター／1・2・3)

林 一則(1・2・3・4・5)

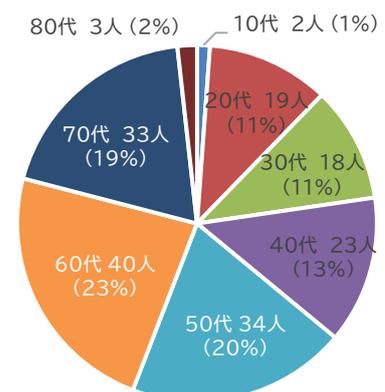
岡村 竹史(1・2・3・4・5)

角野 渉(1・2・3・4・5)

高橋 慧一(2・5)／小泉 瑛一(1・2・4・5)

佐藤 宜章(1・5)／相澤 くるみ(1)／小林 春美(1)

片岡 公一(5)／山口 雄之(5)



参加者の年代別割合

(3) 当日の流れ

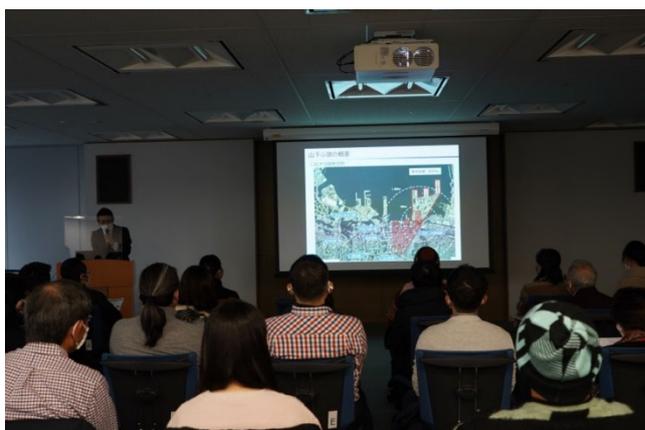
ア 開会・ご挨拶

冒頭、横浜市港湾局より、ご挨拶申し上げます。前回の市民意見募集等で多くのご意見いただいたことに感謝を述べるとともに、その結果を踏まえて山下ふ頭の再開発について意見交換を行っていただきたい旨をお話させていただきました。



イ 横浜市からの説明

横浜市港湾局より、「山下ふ頭及び周辺地区の概要」「これまでの検討状況」「前回の市民意見募集等の結果概要」等の説明を行いました。また、今回のワークショップの目的である「前回の市民意見募集等の結果を踏まえ、より具体的な再開発のイメージや導入機能などを深掘りする」ことを共有するとともに、グループワークの流れについて説明しました。



ウ 統括ファシリテーターからの事前説明

統括ファシリテーターより、当日のスケジュールやグループワークの進め方、話し合いにあたっての注意点等について説明しました。



エ グループワーク

各グループのファシリテーターによる進行に従ってグループワークを行いました。

前半は「再開発のイメージ(大切にしたいこと)」について考え、その理由も述べていただいた上で、「グループ内で話し合うテーマ」を決めていただきました。

後半は「具体的な導入機能」について考え、その導入機能が「なぜ山下ふ頭であるべきなのか?」「その効果は?」等についてご意見を述べていただきました。



オ 各グループからの発表

各グループでまとめていただいた成果を、グループ内で選出した発表者に約5分で発表をしていただきました。



カ 統括ファシリテーターからの総評

統括ファシリテーターより、各グループの発表を聞いた感想と、当日参加した方からのご意見の傾向について総評を述べました。



キ 閉会

横浜市港湾局より、閉会のご挨拶を申し上げます。ご参加いただいたお礼を申し上げますとともに、ワークショップでいただいたご意見を委員会の場で活用させていただく考えをお伝えしました。再開発に関するご意見を受け止めながら検討を進めることをお話させていただきました。



2 当日の記録

グループワークの結果を模造紙に書かれた文言や付箋を基本に、発言趣旨が伝わるようにファシリテーターがまとめました。

(1) 第1回 (12/17) 市民意見交換会 各グループとりまとめ

A グループ (ファシリテーター 大木 淳)

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
エンタメ・スポーツ	○人を集めることがこれからのまちづくりに必要 ○eスポーツ、集客スペース、無人電動車などで話題性をつくる
歴史・文化	○IRには反対していた。そもそも事業が中心となったまちづくりに反対 ○横浜中央図書館の映像が見れなくなった。市民の誇りを育てていく意味で、歴史・文化を重んじたまちづくりを望む
先進性	○今の横浜はこれといった産業が弱い ○IT、エコなどの先進的な産業を育てていく必要がある
国際性・非日常性	○横浜にはかつて今も様々な国々の歴史・文化が感じられる国際性が必要
緑・環境	○海があって公園がある今の環境を大事にしたい
海・みなと	○海があって公園がある今の環境を大事にしたい
市民のための再開発	○大阪、名古屋、福岡などの大都市と同じことをやるのではなく、横浜らしさを大切にしたい ○市民に目を向けたまちづくりをしてほしい ○開発プロセスに市民が参加できる仕組みをつくってほしい

《グループで話し合うテーマ》

<p>次の世代に何が残せるかということを考えたい 人を集めること⇔市民が楽しむこと。これらを両立できることが理想 「エンタメ・スポーツ」×「歴史・文化」をグループのテーマとして話し合いを進める</p>
--

イ 方向性・再開発のイメージ

方向性	再開発のイメージ
<p>「海を活かす」 ○海を活(生)かす ○海(風)がきもちいい 「のびのびできる」 ○ワクワク、のびのびできる ○身体をのびのび動かせる</p>	<p>「第2山下公園」 ○市民のための広間 ○大きく余裕をもった敷地、公園 ○自然を大きく取り入れる ○明るい広場 ○緑を大切に</p>
<p>「歴史・文化を残す、伝える」 ○歴史・文化を残す、伝える ○若い人に継承する</p>	<p>「文化を尊重」 ○文化を尊重し、人を選ばない場所 ○ふ頭の先端に文化的な施設、倉庫で残せるものは残す</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○輝き、知性 「市民が利用する、楽しむ」 ○市民自らが楽しめるもの ○音楽、演劇、市民グループが利用できる ○企業の思惑に引っ張られないもの ○世界市民の視点
「先進的なエンタメ・スポーツ」 <ul style="list-style-type: none"> ○先進性、教育 ○幅広い世代が楽しめる ○利益第一ではない再開発に 	「多様性、多様な文化が感じられる」 <ul style="list-style-type: none"> ○多様な文化やエンタメが楽しめる(ex.シンガポール・セントーサ島) ○お金を払わなくても楽しめる場所 「展示場、緑」 ○展示場のような大型複合施設を緑の中に

ウ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？
「憩いの場～公園の延長として」 <ul style="list-style-type: none"> ○山下公園の延長として憩いの場をつくる ○未来の森(無人電動カーで回遊できるなど) ○商業施設の上も庭園に(空中庭園) ○サッカーなどの芝生練習場 ○憩いの波止場 	「山下公園との連続性を大事にしたい」 <ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭を水際線の終端に(連続性と回遊が大事) ○連続しつつ、大さん橋や象の鼻、山下公園との違いも出していきたい
「大野外劇場」 <ul style="list-style-type: none"> ○野外劇場(できるだけ大きいもの) 「ドーム施設」 <ul style="list-style-type: none"> ○神奈川にはない ○コンサートホールも 「コンベンションセンター」 <ul style="list-style-type: none"> ○パシフィコだけでは足りない 「文化を発信する場」 <ul style="list-style-type: none"> ○世界中の書籍を集めた大図書館 ○ここに来れば横浜の歴史が分かるという歴史館 ○市民の歴史を集めた資料館 	「横浜が輝くために」 <ul style="list-style-type: none"> ○地域を問わず、いろいろな人が来られる ○横浜から文化を発信する＝横浜が輝く 「地域をつなぐ」 <ul style="list-style-type: none"> ○関内と関外、海をつなぐ ○空港や他県からのアクセスも考えれば全国あるいは国際的なハブとなる
「先端技術による体験型施設、イノベーションの場」 <ul style="list-style-type: none"> ○VR、メタバース等による体験、教育施設 ○震災体験 ○先端技術、IT産業の人材育成、そうした研究所等の誘致 ○eスポーツの研究所、教育機関、ベンチャー企業の誘致 	「ゼロベースのまちづくりに市民が参加できる仕組みを」 <ul style="list-style-type: none"> ○今回の開発はゼロベースからのまちづくり ○市民の意志があふれるまちづくりを

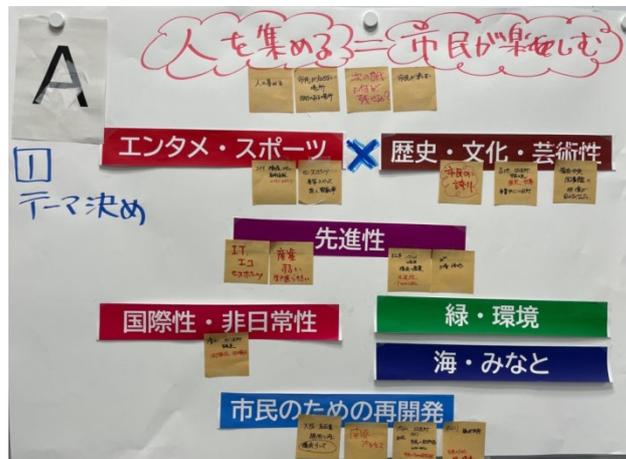
《施設配置・空間イメージ等》

※時間切れのため、模造紙なし

エ ファシリテーターからのコメント (大木 淳)

- 参加者の指向性が完全にバラけたことによって、テーマ決めに相当な時間を有しました。共通の指向を導き出すためにディスカッションを行いました。他者の意見を聞いてグループとしての指向を深めるには至りませんでした。
- 今回選択したテーマでは、集客や経済波及効果、歴史・文化の維持創造などに関心が集まり、大まかな機能や施設が印象として語られる一方、配置や空間イメージにそれほど意見が集まりませんでした。
- とはいえ、個人が大切にしたいことを言えたことで、参加者の満足度はそれなりにあった印象です。

《模造紙》



B グループ（ファシリテーター 岡村 竹史）

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
海・みなと	<ul style="list-style-type: none"> ○船関係(練習船)の仕事をしているので、関心がある ○横浜港は船が入って来られる数に限りがあるので、山下ふ頭に期待したい ※グループで話し合うテーマは何でも良い
歴史・文化・芸術性	<ul style="list-style-type: none"> ○昔に比べ横浜の魅力が薄らいでいる。もっと歴史・文化を遡り、世界 No.1 を目指す ○トリエンナーレにも興味があった
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○VRシステム開発を行っている。海外に比べ技術は劣っていないので、山下ふ頭で研究等ができるが良い ○ICT関連のメーカーに勤務している。新規事業やエコシステムに興味がある

《グループ内で話し合うテーマ》

「歴史・文化・芸術性」と「先進性」をグループのテーマとして話し合いを進める

イ 方向性・再開発のイメージ

方向性	再開発のイメージ
<p>「他にない先進的な未来都市」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○残す価値のある未来 	<p>「先進技術に触れられる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先進技術の開発施設を見学できる ○完成形だけでなくプロセスを知る機会とする ○例えば、アニメの制作過程を知らない。ハリウッドは充実している ○常に人がいるようにしたい ○日常が展示場となる
<p>「終わらない実験エリア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○常に工事中の横浜駅のように 	<p>「ロボットエリア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産・官・学によるスタートアッププロジェクト ○ゼロレギュレーションによる社会実装の加速 ○デジタルネイティブ ○ロボットフレンドリー <p>「移動実験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭内は自動運転の車が移動する(実験)
<p>「先進技術による環境対策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先進技術を環境分野に活用する ○エネルギーの自給自足 ○グリーントランスフォーメーション 	<p>「海をテーマとした技術の開発／実験／活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海水が茶色のときがある。海水をきれいにする場所にする ○環境に関する先進性として、「海」+「環境」でカーボンニュートラルを推進

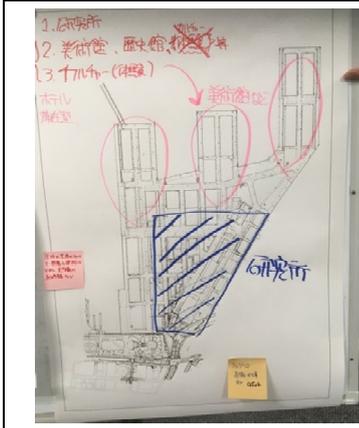
<p>「芸術がある」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○芸術にも触れ、先進技術にも触れられる 	<p>「世界のアイコン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界一美しいと言われる箱(建物)を作る ○中身は時代に合わせる ○横浜のシンボルになるようなもの ○山下ふ頭のアイコンになる建物 ○山下ふ頭といえば△△といった、国際的に有名になる何か他にないもの
<p>「歴史・文化、Meet World」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜から日本全国へ歴史・文化を知る！伝える！活かす！ ○世界から横浜へ ○歴史・文化を技術で活かす 	<p>「芸術体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作現場を見学できる ○昔の国際美術館では、絵を描いているところが見られるなどの体験ができた ○トリエンナーレの小規模版 <p>「横浜のすべてが見える、世界の文化に触れられる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜発祥の歴史を体験できる ○日本文化の強みを世界に発信する ○世界文化の紹介(食、民族、言語) <p>「海をテーマに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海をテーマとした歴史・文化の発信、魅力化

ウ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？
<p>「オープンな開発施設エリア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プレゼンテーションエリア ○開発エリアを見学して回れるトラム(例:ユニバーサルスタジオ・ハリウッド) 	<p>「新しい文化は港から生まれる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜は新しい文化を取り入れてきた、時代の最先端の街 ○文明開化の街ヨコハマにふさわしい ○何もないゼロ・エリアで新しい文化を ○宇宙分野は最先端のテーマ
<p>「先端技術をテーマにしたエンタメ施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界最大のプラネタリウム ○バーチャル宇宙旅行体験 	<p>「実験の適地」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○何もないゼロ・エリアなので、トライ&エラーができる ○広大なスペースがある ○ロボット開発等に必要な直線的な距離が確保できる ○海外とのハブとなる港である(船のアクセス性が良い)
<p>「実験施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開発者と体験者がリアルタイムにフィードバックできる(サイネージ、移動ロボ) ○トレーサビリティがとれるセンシングデバイス 	<p>「そこに海があるから」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海を最大限に利用できる
<p>「EV自動運転」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自動運転車 ○オールEV 	
<p>「環境対策の「見える化」ができる施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○洋上発電設備 	

○船の陸上電源施設 ○発電床	○船をつけることができる
「教育機関」 ○海に関する新しいコトを学び、体験できる教育機関	
「芸術施設」 ○有名建築家による美術館、コンサートホール、オペラハウス ○日本のグッゲンハイム美術館(ビルバオ) ○バーチャル美術館:IT技術を活用し、世界の有名美術館を見学できる	「HUB PORT」 ○世界と日本を結ぶ港 ○船が入港できるから。芸術・文化を船が運ぶ ○港なので、外国クルーズ客船が入港したときに、海外の人を対象としたイベントができる ○横浜の景観、ブランドが形成できる立地、広さがある ○ふ頭からMMへの眺めも良い
「体験施設とメニュー」 ○体験、学び、レジャー(書道、花道、伝統工芸、IT、アニメ等) ○アーティストや学芸員によるワークショップ施設(コミュニケーション) ○アートフェア、アートオークション	
「モノ・コト・体験」 ○歴史博物館 ○ミニチュア街、ジオラマ ○横浜発信のモノ・コト展示(ガス燈、あいすくりんほか) ○日本文化、横浜の文化を体験できるスペース(ワークショップ)	「西洋文化発祥の地」 ○横浜は西洋文化発祥の地
「集客施設」 ○世界最大の水中水族館(規模、深さ) ○海に関する歴史・文化・芸術を学ぶことができる教育機関 ○海を最大限に使った、教育・訓練・体験スペース	「そこに海があるから」 ○今も昔もそこに海があることに変わりはない ○横浜=海のイメージ
○荷物、貨物を運ぶ商船ではなく、多目的な船が入港できる岸壁(客船、練習船、その他)	○多目的な海上利用
○LGBTQに関するミュージアム	○外国人が来るので
○商業施設	○多くの人があるので、付随する施設が必要

《施設配置・空間イメージ等》

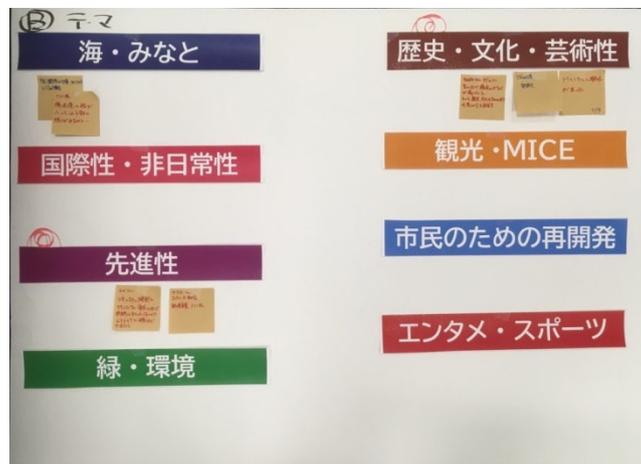


- 突端部分の3箇所を、歴史・文化・芸術ゾーンにする
- ・上野公園のように、広いエリアに、歴史・文化・芸術機能が点在するイメージ
- 南東側を研究ゾーンにする

エ ファシリテーターからのコメント (岡村 竹史)

- テーマ決めは、参加者の指向が共通しており、スムーズに2つ(「先進性」、「歴史・文化・芸術」)に絞ることができました。ただ、実際のディスカッションでは、「海・みなど」のテーマに関する意見が出されるなど、各テーマの深掘りとともに、3つのテーマの掛け合わせのような内容となりました。3つのテーマの親和性が良かったと感じました。
- ディスカッションでは、各人が作成したワークシートの紹介にとどまり、他者の意見を聞いてグループとしての指向を深めることができませんでした。

《模造紙》



C グループ（ファシリテーター 林一則）

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
先進性 (大学、文化)	<ul style="list-style-type: none"> ○羽田アクセスの交通の便を活かしたい ○本社機能を集めるべき ○大学や研究機関がほしい ○イノベーション偏重ではなく、文化としての大学を考えたい ○環境まちづくりをリードする国立環境総合研究所の立地を提案する
緑・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○緑、環境を大事にしたい ○周囲の地形を意識したビルの高さの街、高層ビルでない街づくりを ○運河チャレンジの活動などに注目している ○ハマロードサポートや公園愛護会など市民の活動もある ○脱炭素をリードするまちづくり
歴史・文化・芸術性	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜都心は歴史的建造物を活かし、国際性を伝えるまち ○ブラタモリに見るようなまちの風土や歴史を大事にしたい ○大学は文化であり、利益追求でない大学のあり方を重視
ヨコハマ市全体の中での山下ふ頭開発 (追加したテーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ○他のまちの先進事例を参照しての意見交換が必要だろう ○まちづくりの視点をしっかりとつべき ○市全体を見ての都市デザインの中で考える ○公募方式で事業を進めるやり方を見直すべき ○公共哲学が大事である ○税金の市外への流出、すすむ高齢化、人の流出に対しての取り組みを考えるべき

《グループで話し合うテーマ》

「先進性」と「緑・環境」に加えて、第3のテーマとして「市全体の中での山下ふ頭開発」のあり方を検討する
 先進性では、大学のあるまちづくりや企業立地について検討したい
 あわせて、歴史・文化の観点も上記のテーマと関連して取り入れたい

イ 方向性・再開発のイメージ

方向性	再開発のイメージ
(先進性) 「知的文化活動の盛んなまち」 ○知的文化の活動の場	「健康・環境系の研究の拠点」 ○環境先進都市、再生可能エネルギーの世界的頭脳が集まる ○魅力的な inovative city ○持続可能、カーボンニュートラルの研究開発／実験施設 ○トヨタが東富士で実施している実験都市 ○研究、グローバルを支える多文化／多様な環境づくり

	<ul style="list-style-type: none"> ○美容や老化予防で海外からも人を呼ぶ ○未病、医療を絡めた海外からのツーリズムを呼び込む
<p>(緑、環境)(海・みなと)</p> <p>「海に面した開放感を味わえるまち」</p>	<p>「遊歩道、木陰、風の道」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○憩いの場、緑、遊歩道のあるまち ○海風の流れを考えた建物配置 ○災害時、避難の生活場所にもなる ○日陰が多くなるような周辺の緑地帯 ○羽田に直結する高速船
	<p>「横浜らしい街並み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国産木材を多用した建築 ○レンガやガス灯で街並みを統一 ○みなとみらいのようなホテル、レストランは一部でよい。県内企業で進める
<p>(ヨコハマ市全体の中での山下ふ頭開発)</p> <p>「市全体の都市デザインに横断的に位置づけた取り組みに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜市全体の中での山下ふ頭の位置づけを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○内港地区を文化の街にするという位置づけをする。その上で山下ふ頭を位置づける
<p>「地元文化を大事に」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜の古くからの文化を大事にする ○港湾都市横浜にふさわしい都市像、歴史を踏まえて未来につなぐイメージ ○みなとみらいとは違う「地元っぽい文化の街」 	<ul style="list-style-type: none"> ○金太郎飴の開発にしない ○横浜の歴史的風土に合致した都市計画、都市デザインを市全体にわたる規模で紡ぎ出していく
<p>「企業＋周辺住民＋来街者にとってのメリットのあるものに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○積極的に行きたい街に ○企業にも住民にも来訪者にもどういったメリット魅力があるのかを考える 	

ウ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？
<p>「総合大学のあるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学と研究所 ○市大と国大を統合した総合大学に ○横浜市大の移転拡充 ○国立環境総合研究所 ○環境先進性ある防災機能をもつ施設・センター(災害時の避難、資材備蓄調達、給食) 	<p>「ゆったりとした環境をつくれる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知的文化的活動にふさわしいゆったりした場をつくれる ○海と空の環境を活かす実験ができる ○大学とイノベーションなら海外から人を呼べる

<p>「新しい環境に配慮した交通」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新世代海上交通 ○空中交通システム、ドローンなど ○陸も海もアクセス可能 ○船で通勤したい(日本橋とかの再開発) 	<p>「羽田と結ぶアクセスを重視すべき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○羽田は将来ハブ空港になる ○羽田からのアクセスがとれる、大黒埠頭と直接結ばれる ○高速道路へのアクセス、スマート入場口を用意 ○海外から人を呼び外貨を稼ぐ ○港の玄関口に位置しており横浜の象徴的な役割を果たすことになる
<p>「緑の広場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑の空地広場 10ha を目標 ○緑以外に何も無い公園、広場 ○セントラルパークのような緑地 ○例えばメタセコイアの並木道 ○竹芝のウォーターフロントのような緑化、親水空間、干潟 	<p>「緑は大切」</p>
<p>「アウトドア、健康＋避難場所にもなる施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヨガ、木陰で体操、グランピング、テント設営 ○サイクリングロード ○子供プレイパーク ○災害時に千人以上がテント設営 ○海水から淡水にできる施設 	<p>「防災と緑オープンスペースを一体で考えるべき」</p> <p>「健康づくりを進めたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民に配布される万歩計とのリンク
<p>「建物の緑化、発電」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○屋上緑化、外壁緑化 ○施設内の電力を賄う(人が発生するエネルギー) <p>「高さ抑えた街並み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最大10階建ての高さ制限 	<p>「古き良き横浜」「はじめての横浜」を活かした景観づくりをしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内企業を活かすまちづくりをしたい
<p>「横断的に進める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内横断の取り組みにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○デベロッパーの草刈り場にしない ○開発目線のまちづくりのにおいが強い
<ul style="list-style-type: none"> ○県内の企業に文化を体験できるものの開発を依頼する(ジャズ、アイスクリーム、スカーフなど横浜発のもの) ○若い人がダンスをできる(バイトが減った) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域経済循環率 100%以上を目指す(富士通総研令和3年調査では 82.8%) ○横浜に若い人が移ってきて、人口流出を歯止めするためには、文化をアピールすべき
<p>企業(研究開発機関や外資系企業、本社機能)にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アフターファイブも楽しめる(エンタメ、ジムなど、飲食店) <p>周辺住民にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜の店が集約したショッピング ○気軽に使える体育館やプール(近くにない) <p>来訪者にとって</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模に開発できることを生かし、中途半端なものはいらない ○テーマパークでは人が集まらない ○大学だけできても学生街にならないと楽しい街にならない

- テーマパークは今更らない
- 大学周辺にはキャンパスタウンとしてまちづくりを

《施設配置・空間イメージ等》

※時間切れのため、模造紙なし。

エ ファシリテーターからのコメント (林一則)

- 市全体の都市デザインの取り組みの中でこの地区を位置づけることや、民間と連携する開発事業の進め方についての意見が複数の方よりあり、新たにテーマとして「ヨコハマ市全体の中での山下ふ頭開発」について追加で話し合うことにしました。そのこともあって、導入施設のゾーニングなどの検討はできませんでした。
- 用意したテーマのうちでは「先進性」「緑・環境」の二つを中心に話し合い、「歴史、文化」の観点からこの二つに絡めての意見も多く出されました。互いに意見交換を深めるまでにはなりませんでしたが、三つのテーマがクロスするようなどころに可能性があることは共有されたと思います。「環境や健康に関する大学や研究開発の場、緑豊かで環境への先進的取り組みがあるまち、地元文化や地元経済を発展させるまち」といった方向です。
- 大学や研究開発はすぐに経済的利益を生むようなものでなくとも、全人格的な文化を育てる環境づくりこそが大事との意見や、民間デベロッパーに頼る開発に対する疑問も投げかけられました。地元企業活動を大事にしたいとの声もあったものの、ではどのような民間との連携が望ましいかという検討までには至りませんでした。

《模造紙》



D グループ（ファシリテーター 佐藤 宣章）

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
海・みなと	○「海」は立地特性なので、考慮しないわけにはいかない
国際性・非日常性	○国際性・異移民、多文化に触れる（触れる機会が少ない） ○様々な国の人たちが集まる、世界の人たちと触れ合える
緑・環境	○樹木やみどりを大切にしたい
歴史・文化・芸術性	○BankART のような文化・芸術性、共通の民主性を育むものが良い ○海外にあるような多機能図書館、絵本の図書館などがあると良い
市民のための再開発 （再開発の前提）	○住み続けたい、横浜で楽しみたい ○お金を稼ぐ手段（平日/平時）→稼働率の高いもの、時代も読んで
エンタメ・スポーツ	○滞在できる、お金を使える ○スケールの大きさを活かす、ディズニーランド・シーの横浜バージョン

《グループで話し合うテーマ》

「みどり・環境」「エンタメ・スポーツ」「市民のための再開発」「国際性・非日常」「海・みなと」「歴史・文化・芸術性」といった6つのテーマを総合して意見交換
--

イ 方向性・再開発のイメージ

方向性	再開発のイメージ
市民のための再開発×歴史・文化・芸術性	「子どものうちから芸術や文化に触れられるような機会をつくる」 ○市民が最も活用できる施設（観光客はその次） ○子どもがのびのび遊べる施設、高齢者がゆとりをもって時間を過ごせる施設 ○青山にある子どもの城、アートエデュケーションMOMA ○子ども連れでも気兼ねなく楽しめるアート施設、音楽、演劇、造形 ○自由な発想ができる子どもアート施設 ○現代アートの美術館や多機能図書館
エンタメ・スポーツ×国際性・非日常性「世界から多様な人をよべる」 ○世界から人を呼ぶ ○金持ちだけではない、広い層の海外の人々が来られる ○ベースは庶民が楽しめるもの。それは質のいいもので外からも来客が来るようなもの ○多様な人	「宿や働く場があると良い」 ○高級から Guests house 的な滞在 ○宿は高級からゲストハウス ○日雇いからプロまで働ける場
エンタメ・スポーツ×国際性・非日常性「多様な世代	○子どもからお年寄りが楽しめる施設

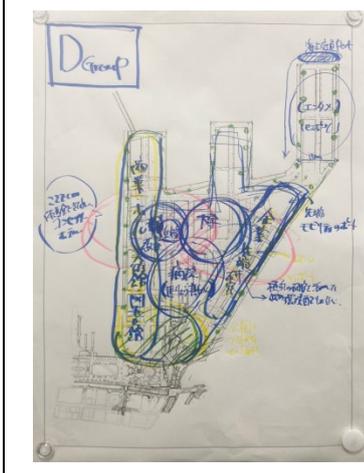
<p>の参加」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て世代や中高生から老人まで何度も訪れたい施設 ○幅広い世代が楽しめる ○子育てファミリー層が楽しめる場 	
<p>エンタメ・スポーツ×国際性・非日常性「世界にもない、横浜にない新しいカルチャーをつくる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しいカルチャーをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜でしか楽しめない施設
<p>先進性「DX、先進都市、モビリティ先進都市」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○DX先進都市化 ○モビリティ先進化 ○先端技術の実験場 ○LAB、実験場 	<p>「空とぶ車や船」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飛ぶ車、船。富士山まで行ける <p>「先端企業の拠点化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○GAFAM等拠点化
<p>市民のための再開発「社会課題や横浜の課題に対応できる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在の課題について多くの人が認識して考える ○人々が交流できるワークショップ、講演会 	
<p>市民のための再開発</p> <p>「市民の生活に還元される」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民に還元する 	
<p>市民のための再開発</p> <p>「周辺地域、周辺都市との連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周辺地域と連携する 	<ul style="list-style-type: none"> ○新施設の建設による周辺地域の活性化 ○周辺で稼げる
<p>市民のための再開発</p> <p>「市の財政に配慮する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の財政に配慮する 	<p>「税収アップのための収益性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○税収UP(安定的に)のための恒常的な収益が見込めるソフト、ハード
<p>海・みなと</p>	<p>「海の広がりを感じる、海が見えて憩う場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海を眺めながら憩う場 ○海に広がる世界を感じられる ○市民交流の場、陸からも海からも ○環境(緑地化)が豊かなところ

ウ 具体的な導入機能

<p>具体的な導入機能など(施設・機能・取組)</p>	<p>なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？</p>
<p>「文化交流できるコミュニティハウス、集会所、交流拠点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティハウス(ワークショップができる) <p>「現代アートの美術館、子ども向けのアート教養施設」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○国際性もあり、観光資源としても活用できる。コレクターのコレクションを利用する施設も！倉庫業も活発な地域施設 ○アーティストは作品に現代の課題を込めるため、そ

<p>設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代アートの美術館 ○図書館 ○子ども、ファミリー層が楽しめる。文化、アートに触れられる ○文化施設、市民の教養が高められる ○ヘルシンキ中央図書館のような多機能図書館。屋上からの眺望も考える。海から世界を考えるイメージ 	<p>の作品を通して、多様化している課題を考える機会が生じると思うから。市民や子どもの自治へのいざない</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化芸術を楽しみ続ける人を育てることが市の今後につながる ○勉強したり、先端技術も体験できることが横浜の長い目で支えてくれると思うから ○大人から子どもまで市民が何度も訪れたい施設。横浜の歴史を感じる場所で、考えをめぐらせることが重要だと思う ○せっかく海に開けた施設は未来や希望を感じる施設が必要だと思うから
<p>「コンセプトホテル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホテル。文化施設と融合。(ex.泊まれる図書館、美術館)。特徴がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○大消費地／人口地／日本の玄関施設から近い ○リゾート気分も味わえる施設をつくれるロケーション
<p>「YDP、ディズニー誘致」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○YDP(横浜ディズニーポータルランド) 	<ul style="list-style-type: none"> ○海上交通が利用できる(食、海外クルーズ船) ○住民への騒音問題回避可 ○土地の広さ、世界から人を呼び財政をうるおす ○インフラを一から用意できる。更地だから ○広大な空き地
<p>「企業・大学の誘致」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最新技術が体験できる、企業、大学の研究施設 <p>「環境配慮型建物、モビリティ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境配慮した交通機関、施設 <p>「地下に発電、CO2、エネルギー循環できるものを埋める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○深度地下利用(CN)→発電施設、CO2 貯蔵機能、全てが自前 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境問題も考え、再生可能エネルギーなどを利用した建物とし、横浜のエネルギーを考える視点もある
<p>「先進医療もある総合施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院もある総合施設(アリーナ、ホテル) ○先進医療を提供できる病院(世界中から患者を呼べる) 	
<p>(交通アクセス・景観)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○海からのアクセス、開発可能 ○交通が便利 ○街の眺望、海の眺望

《施設配置・空間イメージ等》

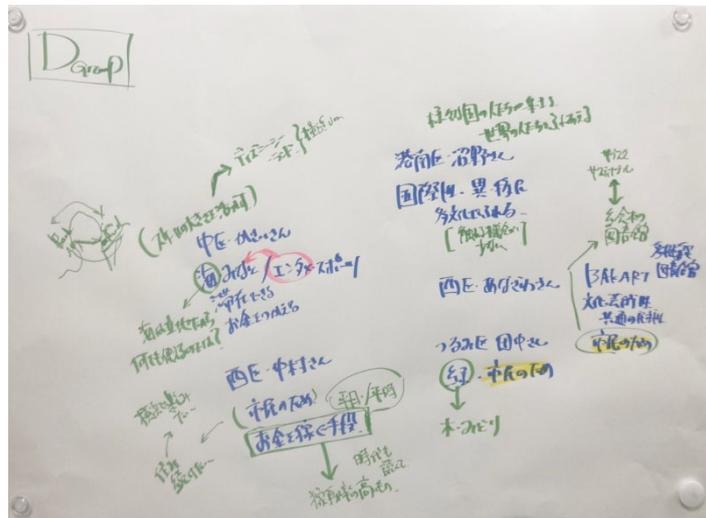


- 低層の建物を中心に、エリア・レイヤーごとに多様な機能を配置
- 堤防の先端には海上交通を推進するポートを配置
- 敷地の東側に企業や先進性のある研究施設などを誘致し、環境に配慮した特別な棟を配置
- 敷地の中央に大学や病院など、融和性の高い機能を配置
- 敷地の西側には、内港地区の眺望を活かし、商業・美術館・図書館・この場所でしか体験できないコンセプトホテルなどを配置
- 敷地の入り口には、山下公園と連続するに広場を配置

エ ファシリテーターからのコメント (佐藤 宣章)

- テーマ決めの段階では、参加者それぞれの関心ごとが多岐にわたり、「みどり・環境」「エンタメ・スポーツ」「市民のための再開発」「国際性・非日常」「海・みなと」「歴史・文化・芸術性」といった6つのテーマを総合して意見交換することになった
- 意見交換のなかでは、「市民のための再開発」ということがベースに語られ、多様な世代が利用できる、参加できることや、市の財政に着目し、収益性の高い機能を誘致することが求められた反面、子どもたちを中心とした市民への、文化・芸術的な教養を育む機能を求める意見が見られた
- また、DX やモビリティなどの先進性から、横浜ブランドを形成していくような意見も見られた

《模造紙》



Eグループ（ファシリテーター 小林 春美）

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
海・みなと	○国際性や水まわりのことは他のことと切り離せない。それを考えつつ話を進めていきたい ○海・歴史を大切に市民の参画を進めていきたい
国際性・非日常性	○国際性や水まわりのことは他のことと切り離せない。それを考えつつ話を進めていきたい ○国際性という観点では神戸に負けているのでは？ ○外国人観光客の満足度ではダブルスコアで負けている
歴史・文化・芸術性	○海・歴史を大切に市民の参画を進めていきたい
観光・MICE	○MICEというならパシフィコ横浜の稼働率はどれくらいか ○神戸との比較データなど、深掘りする前にデータの共有が足りないのでは？
市民のための再開発	○とにかく横浜の魅力をアップする場所にしてほしい
エンタメ・スポーツ	○現在の横浜には行って楽しい場所が少ない

《グループで話し合うテーマ》

<p>○テーマというより何が欲しいかでは？ ○8つのテーマに分けて話したくない →比較的関心の高かった「歴史・文化・芸術性」×「海・みなと」×「市民のための再開発」をグループのテーマとして話し合いを進めた →「エンタメ・スポーツ」や「市民のための再開発」の意見も出ていたので、分けて記載した</p>

イ 方向性・再開発のイメージ

方向性	再開発のイメージ
<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発 「新しい歴史・文化を育てていこう」 ○横浜からの新しい歴史 ○横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ</p>	<p>「市民の文化を育てていく」 ○大衆文化を育てるインキュベーション ○新しい文化の窓口 ○オンリーワン ○音楽をやる人が駅前ライブからメジャーデビューするように(キーワード・愛称として『はまたまご』)</p>
<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発 「他地域との差別化」 ○他地区との差別化 ○2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をもとに、転換期に</p>	<p>「新しい海上交通などをつくる」 ○新しい交通手段 ○横浜への新しい入り口 ○都心臨海部で唯一残された空間 ○海の最大限活用、海上交通、運河チャレンジと結びつける</p> <p>「パーク&ライドの拠点に」 ○山下埠頭をパーク&ライドの拠点に(地下など)そこから歩き or 自転車</p>

<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発</p> <p>「開国や埋立の歴史を伝える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史を伝えていきたい ○開国や埋め立ての歴史、京浜工業地帯へ 	
<p>エンタメ・スポーツ</p> <p>「夜も楽しいヨコハマに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜に魅力をプラスする！ ○全てある横浜 	<p>「リゾートみたいにしたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜の魅力を増やす ○横浜全体を玉手箱に
<p>市民のための再開発</p> <p>「再開発の進め方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのように構想を策定するのか？ ○カジノ施設も教訓に市民が策定に主体的に関われる。 ○そのために、有識者はアドバイス・支援する 	<p>「市民・企業が協働する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民、地元企業中心の共同商品としてつくりあげる。

ウ 具体的な導入機能

<p>具体的な導入機能など(施設・機能・取組)</p>	<p>なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？</p>
<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発</p> <p>「子どもたちの感性を育む」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの感性を育む施設 <p>「市民が表現・発信ができ、それに対する支援がある場所に」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種団体等の支援施設 ○市民の文化芸術活動の発信拠点をつくる。YBT（横浜ボートシアター）の動きもある <p>「子育て支援・就労支援・研究開発などの施設を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援施設 ○各種就労の支援施設 ○テレワーク ○ICT教育 ○研究、開発などのクリエイティブな施設 	<p>「立地や面積の面から可能性がある」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民が愛着を持てるスペースになり得る ○あれだけのまとまった土地はもうない ○集客（駅近、アクセス） ○唯一残された場所だから ○港の中でも飛び出している場所という地の利
<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発</p> <p>「海上からの交通があるとよい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海上からのアプローチ（川へも？） ○インフラとしての充実 ○港らしさ ○海上交通、運河の起点に！ 	<p>「海を活かす・観光客にも喜ばれる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○唯一残された空間を横浜の都市づくりに活用できるから。 ○シーバスなどをもっと通勤手段に活用する。 ○エンタメとしてはいいが公共交通としては課題もありそう→しかし観光客にも喜ばれる。

<p>○羽田空港や千葉などと結ぶ航路 「はしけ的な機能があるとよい」 ○船が接岸して客の乗降ができる</p>	
<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発 「車の利便性が高い」 ○駐車場 「自転車道やウォーキング道路も」 ○自転車道と歩行者道、自転車の回遊性、海との触れ合い</p>	<p>「車のメリットを活かす」 ○市内全体から来やすい ○しかし渋滞が心配！</p>
<p>歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発 ○横浜(みなとみらい地区)開発の道筋を伝える博物館 ○博物館というよりチームラボのような子どもも楽しめるコンテンツ</p>	
<p>エンタメ・スポーツ ○リゾートホテルのようなプール ○クラブのような交流の場に(スペインのイビザ島のよう うに) ○集い、遊べる場所 ○テーマパーク</p>	<p>○そこが目的となるような施設があると良い ○横浜の市街地と近い</p>

《施設配置・空間イメージ等》

※時間切れのため、模造紙なし

エ ファシリテーターからのコメント (小林 春美)

- 最初にテーマを絞ることに対して、山下ふ頭をどんな場所にしていくかは複合的に考えるべきだと、グループ全員の方から抵抗がありました。そこで、比較的関心の高かった「歴史・文化・芸術性」×「海・みなと」×「市民のための再開発」を仮にグループのテーマとし、それにとらわれず自由にご意見を出して下さい、ということを進めました。
- 施設配置までは話す時間はありませんでしたが、導入したい機能としては、市民の文化を育むインキュベーション機能や、海上交通、大人が夜遊べる場所といったところに意見が多く出ました。

《模造紙》

Eグループのテーマ決め

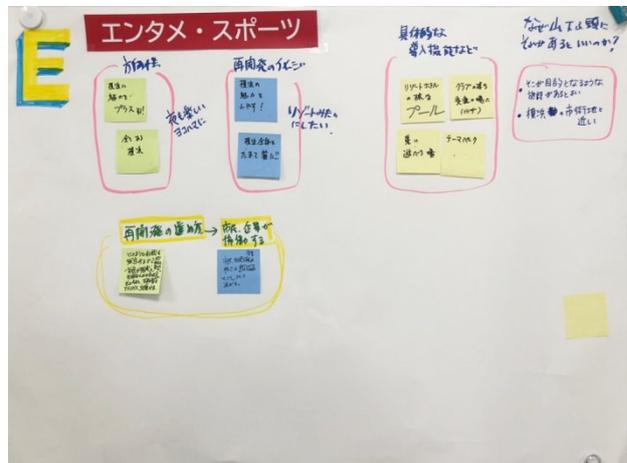
	第1希望	第2希望
海・みなと		
国際性・非常性		
先進性 (研究開発・先端精神) DXなどの話		
緑・環境		
歴史・文化・芸術性		
観光・MICE		
市民のための有向港 (2階建前庭の館)		
エンタメ・スポーツ		

国際性や水素利用に他国のことを参考にしたい。その上で、**8つに順位を絞りたい**。

海・歴史を切り分けて市民の施設を並べてほしい。

国際性の高さは、**観光・MICE**にどう関係しているか？
海外からの観光客の誘致は、MICEの誘致にどう関係しているか？

とくに、**観光の先行とTPOの整備**は関係しているか？
何故か？



Fグループ（ファシリテーター 相澤くるみ）

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
海・みなと	○海洋、港は横浜のアイデンティティー ○青葉区にいたときは臨海部にあまり来ない
先進性	○先進性、技術力も必要
歴史・文化・芸術性	○使える建造物が良い ○ノスタルジック、ロマンを感じるもの(例:鹿鳴館などを復元できたら) ○若いアーティストが表現できる場所
観光・MICE	○東京じゃなくて横浜

《グループ内で話し合うテーマ》

<ul style="list-style-type: none"> ○次の世代に何を残すのか ○今なにかよりも世の中の先がどうなるかを考えられるとよい ○他のグループにないものがよい ○“誰が、誰に”を考えていきたい ○他のまちの計画を山下ふ頭に変更してはどうか(例)三ツ沢公園:アクセスよくない
--

イ 方向性・再開発のイメージ

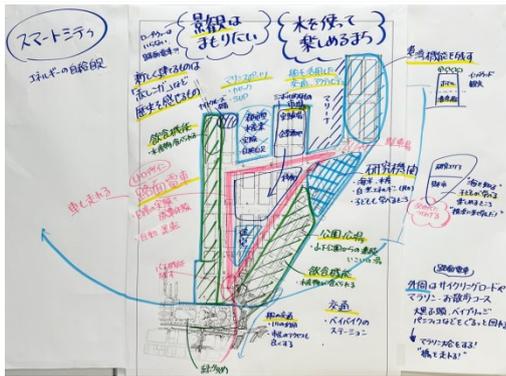
方向性	再開発のイメージ
テーマに限らず全体に共通すること 「つくって終わりじゃなく、維持することも考える必要がある」 ○市の財政も考える、無茶なものはつくらない	○ハコものはつくらない
緑・環境 「海と連続した自然の創成や生物の多様性」 ○海と連続した自然の創成 ○生物多様性を考える、生み出す環境を作る ○湾全体を見た時の山下埠頭の活用の仕方、海に囲まれた立地 ○水辺空間のネットワーク	
緑・環境 「脱炭素に取り組む」 ○脱炭素に取り組む ○脱炭素(カーボンニュートラル)に取り組む ○持続可能なエネルギー供給システムの実現 ○水と緑とエネルギーのネットワーク	○水素、海洋、自エネなどの最先端の技術、研究機関 ○太陽光パネルで景観が悪くなるのはイヤだ ○サステナブルに即した研究所? ○エネルギー供給
緑・環境 「自然と人の共存」 ○自然と人間の共存、緑と海を主体	○緑地 ○海をのんびり眺める

<p>○人の営みがバランスよく存在する場</p> <p>○自然との共生、緑のネットワーク</p>	
<p>緑・環境</p> <p>「常に新しいモノを提供する」</p> <p>○常に新しいモノを提供</p> <p>○世界最先端の技術・研究機関</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「歴史と緑の融合」</p> <p>○歴史的建造物、緑豊か</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「外国人を呼び込むインバウンド」</p> <p>○外国人を呼び込むインバウンド</p>	○海に囲まれた立地を活かして海洋リゾート
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「富裕層を呼ぶホテル」</p> <p>○富裕層を呼ぶようなホテル</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「大規模なMICE」</p> <p>○より大規模なMICE国際会議場</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「住居機能」</p> <p>○住居機能</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「新しい交通、エンタメ(観光)、船の利用」</p> <p>○船の利用</p> <p>○市民が船を利用した新しい交通</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「若いクリエイターの発表の場応援」</p> <p>○若いクリエイターの発表の場</p> <p>○力のあるものが力のない若者を応援する様な</p>	
<p>観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ</p> <p>「子どもたちも楽しめる場」</p> <p>○子どもたちも楽しめる場所</p>	

ウ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？
○何もつからない、次世代にまかせる	
○波止場	
○スマートシティのプロトタイプ的な ○自然エネルギー施設、風力潮力など ○太陽光、地熱、海洋風力発電施設の研究 ○水素発電施設 ○自然エネルギーのイルミネーション	○横浜のイメージが良くなる(シンボリックな場所) ○環境や先端技術などの実現や人を呼び込むようなもの ・東京でもできていないこと ・横浜にも行ってみたいと思ってもら ○全体にも言えること
	○文明開花で日本の先端都市としての横浜アピール
	○人が集まりやすい
	○横浜でお金を使う人が増える
○ゼロカーボン船の運航 ○自転車やマラソンコースになる水辺沿いの道路	○電車の車庫(上は緑の広場)
○洋館で人目を引き若者たちの作品をシェアしながら展示販売 ○ワークショップ、多種にわたって体験できる	
○球技場(三ツ沢の移転) ○市民のための競技場 ○公園、スケボーなど多種の競技ができる	
○水産研究所+横浜産フードコート ○実験農場、漁場	「都市型水産業」 ○多くの観光客に食糧自給を伝える+都市型水産業に触れる ○研究所はへんぴな場所に多いため海・都市に近い横浜ならではの

《施設配置・空間イメージ等》



「スマートシティー」

○エネルギー自給自足

「景観はまもりたい」

○ロープウェーはいらない、路面電車の方が良い

○新しく建てるものは「赤レンガ」など歴史を感じるもの

「水を使って楽しめるまち」

○マリンスポーツ(カヤック、SUP)

○船を活かした交通、アクティビティー

「公園・広場」

○飲食機能、水産物食べられる

○山下公園からの連続(緑を多く)

○いこいの場

「レトロデザインの路面電車が走っている」

○車も走れる

○日産の実験場、試乗体験

○自動運転

「船やバス、自転車など、複数の交通アクセスができる」

○バス機能残す

○船の交通、川の利用

○市民のアクセスも良くする

○ベイバイクのステーション

「都市型水産業」

○実験

○自給自足

「シンボリックなものや市場がある」

○実験場

○企業誘致

「港湾機能を残す」

○ホテルと港湾展示、インバウンド観光

「研究機関」

○海洋水産

○自然エネルギー(風力)

○子どもも学べるところ

○研究エリアと見本市に分ける

○”海を知る”ことができる、子どもが学べる、楽しめるところ

○”横浜に来て学んだ!”という体験をし、次世代につなげる

○外周はサイクリングロード、路面電車、マラソン、お散歩コース

○大黒埠頭、ベイブリッジ、パシフィコなどをぐるっと回れる

	→マラソン大会をする！”橋を走れる” ○ナイトクルーズ発着 ○マリーナ
--	---

エ ファシリテーターからのコメント (相澤くるみ)

- テーマ決めでは、それぞれの思いや考えがはっきりある方が多かったため、提示されたテーマから選ぶよりも、ご意見を聞きながら、どれが近いものかを話し合いながら確定させた。
- 個人ワークからグループワークにかけてでは、一部意見の対立なども見受けられたが、概ね各参加者がそれぞれの意見に共感したり、発見があったりという時間になった
- 最後の地図に記載するワークでは、スケールがあったことで、実際の大きさや機能の規模感などを想像しながら、対話ができた

《模造紙》

Step1 グループ内で話し合うテーマ決め

前回の意見発表時で最も多かったテーマ

	第1希望テーマ	第2希望テーマ
海・みなと		
国際性・非日常性		
先進性		
緑・環境		
歴史・文化・芸術性		
観光・MICE		
市民のための再開発		
エンタメ・スポーツ		

非日常性(国際性) 自然との共存 歴史・文化・芸術性 観光・MICE 市民のための再開発 エンタメ・スポーツ

緑・環境

観光・MICE
歴史・文化・芸術性
エンタメ・スポーツ

外国人への呼びこみインバウンド

歴史と緑の融合

自然との共存

新しいMICEの提供

市民のための再開発

エンタメ・スポーツ

緑・環境

自然との共存

歴史と緑の融合

外国人への呼びこみインバウンド

市民のための再開発

エンタメ・スポーツ

G グループ（ファシリテーター 角野 渉）

ア グループ内テーマ設定

区分・テーマ	大切にしたい理由
エンタメ・スポーツ (観光)	○特定の誰かではなく、みんなが楽しめる ○外国人が魅力を感じる、今までにないコンセプトのまちづくり
環境・緑	○海に囲まれた環境を生かす ○フランス山や山下公園など、周辺の緑との連続性
歴史・文化	○山下ふ頭の歴史資産 ○産業遺産として山下埠頭を残す、ユネスコ登録 ○利用できる既存施設は活用する
先進性	○横浜を日本の最先端都市にする ○世界の技術者が憧れるような、先端技術を生み出す場所にしたい ○シンギュラリティ(人工知能が人間の知能を上回る時点)以降の世界を見据えた未来志向の社会を作らなければならない ○先進的なまちづくりでは、都市の中にしっかりと緑がある ○世界にここだけの個性的なエリアにしたい ○特区を形成し、最先端の研究がしやすい環境づくり

《グループで話し合うテーマ》

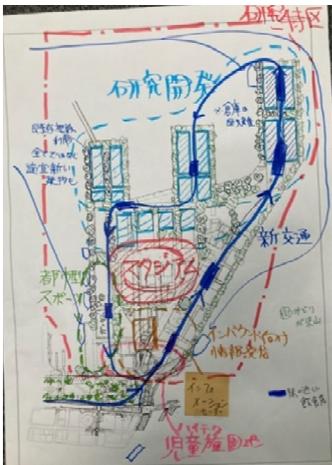
「先進性」のある場所という中心テーマのもと、「エンタメ・スポーツ」という具体的なコンテンツも考えることにより、山下埠頭に最先端の環境と人が集まる魅力的な場所とするための方策について考える。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
みんなが楽しめるスポーツパーク ○サッカー専用スタジアム、ライブ会場など ○外国人が楽しめる ○都市型スポーツの集まる場所(スケートパーク、DMX など) ○24 時間楽しめるエリア	賑わいを持たせるためには集客力のあるものが必要 住宅地から遠いので、騒音問題をクリアできる	集客力 外国人も集まる
市民のためのエンタメ施設 ○児童遊園地	子どもたちが楽しめる場所	子どもたちが喜ぶ、横浜を好きになる 子育てしやすい環境
環境を生かした憩いの場 ○公園のように自由に市民が出入りできる緑化された場所 ○埠頭全体を緑化	これだけ大きなボリュームの緑地が横浜にはない 山下公園やフランス山と連続させる	市民が気持ちよく過ごせる場所になる 自然環境、生態系にとって良い
交通システムの充実	国内外からの交通の便が良い	陸海空の全ての交通と繋がる場所

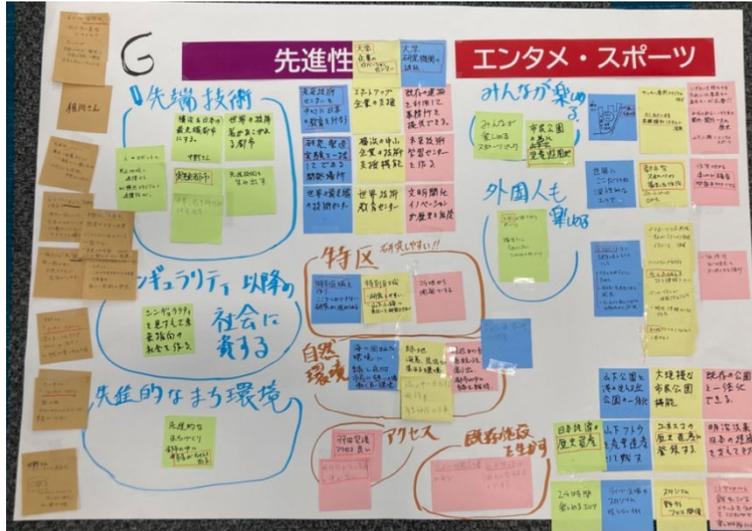
○新交通により埠頭の奥にまで行ける ○水上交通で横浜やみなとみらい、羽田空港と接続	羽田空港からのアクセスが良い 広いから	となる
最先端技術の活用 ○AI などによる混雑緩和システムの活用	集客施設があるため、混雑が生まれる	混雑の解消
メタバースによるエンタメ ○e スポーツ大会 ○漫画体験 ○メタバース体験	最先端の技術集積と、広大な敷地を使うことで魅力を生み出すことができる	世界中に存在する巨大な競技人口にとっての中心的なエリアとなる
研究環境整備 ○最先端研究のための特区を形成	研究しやすい環境づくり	最先端の技術が集まる
伝統文化の体験 ○寄せ木細工体験コーナー ○陶芸体験 ○和紙づくり	最先端の技術と対比あるいは掛け合わせを行うことで伝統文化の魅力を伝える	外国人にアピールできる

《施設配置・空間イメージ等》

	<ul style="list-style-type: none"> ○ふ頭中央にスタジアム ○山下公園側にハイテク児童遊園地、都市型スポーツエリア ○突端側に研究開発施設 ○外周を新交通で巡れる ○ふ頭全体を研究開発特区に
---	---

ウ ファシリテーターからのコメント (角野 渉)

<ul style="list-style-type: none"> ●関心のある議論の種類には少し幅がありましたが、議論を通じて「先進性」が最も重要であるという共通した意識があることがわかりました。 ●最先端技術が集積するというイメージのもと、「エンタメ」施設、メタバースの拠点による集客と、市民の憩いの場である緑地公園というイメージが交差するような具体的な埠頭開発のイメージが描かれました。 ●児童から外国人まで、全ての人にとって開かれた場所になること、それによって新しいことが生まれることを望むようなイメージが共有されていたと思いました。



Hグループ（ファシリテーター 小泉瑛一）

ア グループ内テーマ設定

テーマ	意見
国際性・非日常性	-
緑・環境	-
市民のための再開発	-

《グループで話し合うテーマ》

全員から議論したいテーマを3案だしてもらい、多かったものから3つ選択したため個別のテーマについての意見はなし
--

イ 方向性・再開発のイメージ

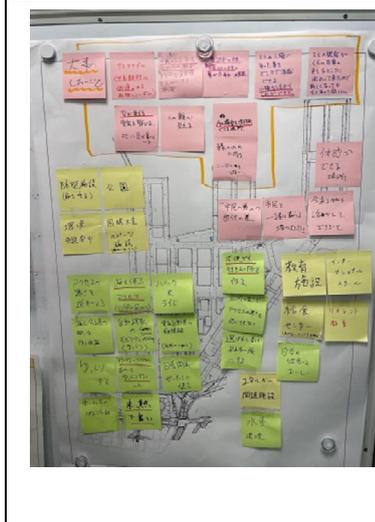
方向性	再開発のイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の命を守る街にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活から遊びの日などで発生する命に関わることから命を守れる色々が体験できる ・災害が起きた際に避難場所として使用する
<ul style="list-style-type: none"> ・世界から人を呼ぶ ・交流を深め競争力を高める ・市民が利用しやすい ・子どもたちの教育になる ・周囲には緑がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会が開催できる施設 ・市民に優遇がある施設 ・横浜市内からのアクセスをよくする ・緑に囲まれたインターナショナルスクール
<ul style="list-style-type: none"> ・山下ふ頭だけでなく横浜一円で考えたい ・立ち寄れる、行きやすい、給食、宇宙体験 ・ゆっくりしたい、おしゃれとかかっこいいはもういらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の整備、羽田・成田とのアクセス強化。アクアラインの延長 ・自動運転、外国の人が働いていたら行きやすい ・スポットで人が集まるのではなく、一定にしたい
<ul style="list-style-type: none"> ・日常、市民 ・緑のある場所、散歩、歩いて楽しい ・非日常、他県から来る ・非日常(国際) 	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性を高める ・緑、海、風を楽しめる、家族で歩ける ・東京→横浜→山下ふ頭→関内→石川町→大船→鎌倉 船や電車のアクセス ・すごく豪華じゃないモノ→お金がかかりすぎる場所はみんなが楽しめない
<ul style="list-style-type: none"> ・国際競争力を高める(グローバル) ・幅広い世代が学べる(リカレント・リスキリング) ・持続可能性は配慮(サステイナブル) ・市の財政に中長期的に配慮する ・エンタメ、インバウンドに依存しすぎない 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境先進都市 ・自動運転、EVの実験空間 ・再生可能エネルギーの研究開発一大拠点 ・環境先進都市、関連技術が学べる

ウ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ山下ふ頭で取り組むと良いのか？
<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る体験は、気軽に参加できるものからヘビー 	<ul style="list-style-type: none"> ・元々の機能、立地の特性を活用できる

<p>なもので、たくさん用意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムを買ってもらふ。施設を買ってもらふ ・ビル、一軒家、川、公園などがある。そこにある備品はすべて命を助けてくれるのに役立つものとする ・医療関係は必要ときに自衛隊の舟型病院に来てもらふ ・具体的な災害を体験できる色々を集める。水素発電所を作る。水素はタンカーで運ぶ ・食料水の備蓄を用意して防災食レストランで試食ができるようにして、どんどんローテーションする ・色々な町やフィールドが再現されているので、警察消防でのシミュレーションに使ってもらふ ・命を守るプログラムとして小中高や企業に実施するように売り込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かあった際にアクセスしやすいし、日常的には少し距離があるので防災関連の色々に取り組みやすい
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模でも国際大会が開催できるスポーツ施設(特にテニス) ・国際大会で使っていないときは市民が優先、優遇して使える ・森に囲まれた市立のインターナショナルスクール ・市民は学費などが割引 	<ul style="list-style-type: none"> ・野球、サッカー施設はすでにある ・空港からもアクセスが用意 ・エンタメ、MICE、観光はみなとみらい地区などにすでにあるため
<ul style="list-style-type: none"> ・給食センター ・イメージに合った撤去や移転も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜の顔だから
<ul style="list-style-type: none"> ・公園、釣り堀、キャンプ、お花畑 ・シーバスの拠点を増やす。横浜駅、ふかりさん橋、石川町、新港ふ頭 ・JR東海道線湘南新宿ラインの京浜東北線への乗り入れ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・環境先進都市は関連する事業のスタートアップ支援募集、補助金が必要 ・環境先進技術学べる、感じられる教育施設、公園(科学館、大学、植物園) ・勤め人、学生など行かなければならない人のためのものを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・山下ふ頭でなければならぬ理由は無し。(港にとらわれすぎない) ・山下ふ頭のアクセスの悪さを考慮する(学生・勤め人など来なければならぬ人、文化の対象)

《施設配置・空間イメージ等》



- ・防災施設／環境先進都市／国際大会(スポーツ施設)／公園
- ・体感ができる場所／今あるモノを活かしてできること／市民と一緒に考える場所の大切さ／市民のため、の世代の差
- ・アクセスの悪さを逆にとる／海を使ったアクセス(日常の足として)／パークアンドライド／海上交通の駅は作り放題／自動運転のモビリティ／電気自動車の専用道路／ゆっくりする／「行けない」ではなくあえて「ゆっくり行く」／時間を贅沢に使う／歩いたほうが健康的／未熟で良い
- ・不便でも行きたいところをつくる／空間の良さでアクセスの悪さを感じさせない／選ばれし者しか来れない所にする／教育施設／国際スクール／給食センター／リカレント教育／エネルギー関連施設／水素環境

※参加者のみなさんに「大事にしたいこと」を追加で質問した。

- ・サステイナブル 中長期的に価値のある取り組みのシンボル
- ・空が見える、空気を感じる。地に足が着いている
- ・人の顔が見える
- ・横浜市の未来、子どもたちの未来につながる場所や再開発
- ・元々のふ頭であったことをどこかで体感できる、ふ頭だったからこそこれができた(と言える開発を)
- ・元々の機能が人々の日常のいろいろなところに関わってきたので、新しくなってもそうあってほしい
- ・今の横浜を活性化できる場所
- ・縁の下の力持ち。シンボル化しない

エ ファシリテーターからのコメント (小泉瑛一)

- テーマ選びは参加者一人一人から希望するテーマを出してもらい、その中から多かったものを3つ選んだことで、そこで議論する時間を多く取りませんでした。
- 一方で、方向性や再開発のイメージのワークシートを全員で作っていくことは難しく、個々人で書いてもらうものをグループ内発表をしてもらいました。●前回 WS の繰り返しにならないように、参加者が今回の再開発において「大切にしてほしいこと」を聞いたことにより、具体的な施設案ではなく、抽象度が高い普遍的な答えをもらうことができました。

《模造紙》



(2) 第2回 (1/14) 市民意見交換会 各グループとりまとめ

Aグループ (ファシリテーター 大木 淳)

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
緑・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○自然にふれて心を落ち着かせたい ○緑が少なくなっている時代なので ○エコ・脱炭素は時代に必須。国や世界の目標に貢献する
エンタメ・スポーツ (観光・MICE)	<ul style="list-style-type: none"> ○ファミリー層や若い人を増やすためには、スポーツの出来る場所や家族で楽しめるエンタメ施設が必要 ○まちに人を増やすこと＝活性化 ○子どものために税収アップにつなげたい
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○研究開発など、新しいことを生み出す場にしたい ○サステイナブルなまちにするためには、消費だけではダメだと思う
歴史・文化・芸術性	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜村から発展した歴史を伝えたい ○そこにしかないもの、経済で単純に測りにくいものの方が競争力があると思うから
海・みなと (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○カジノを止めた現在の市民が、50年後、100年後に伝えられるものをつくりたい ○日本一のみなとまちとして第二の開港を目指したい ○横浜の強み・らしさ＝海・みなと。さすが横浜と思われたい ○価値の高い資産を活かせていない ○横浜からアジア諸国へ、そして世界の港湾都市の将来像(＝平和であること)を発信したい ○世界の中での横浜の立ち位置は何かを考えたい ○世界の港町と連携したい ex.オランダ(バルト海)
市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○市民が楽しめないものは外部から関心が持たれない ○市民が港に近づけない、入れない

《グループで話し合うテーマ》

「海・みなと」をテーマとして、「世界の中での横浜の立ち位置」を高めるとともに、「市民が楽しめる港」とするための方策について考える
--

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
「山下ふ頭“区”にする」 ○人が集まり、楽しみ、学べる、情報の発信ができる平和都市 ○大切にしたいと思えるまちにしたい	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な価値観を認め合えるまち。出島のような囲まれたエリアである方が良いから ○それにより市民自治、主権者意識を育てやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ここに来ることで交流の大切さを学び、発想の転換が出来ること
「よこはまループ」 ○YCAT、大さん橋、山下ふ頭を	<ul style="list-style-type: none"> ○陸海空、海外からのアクセスのしやすさを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ○海外から来た人のコミュニケーションのハードルを下げる

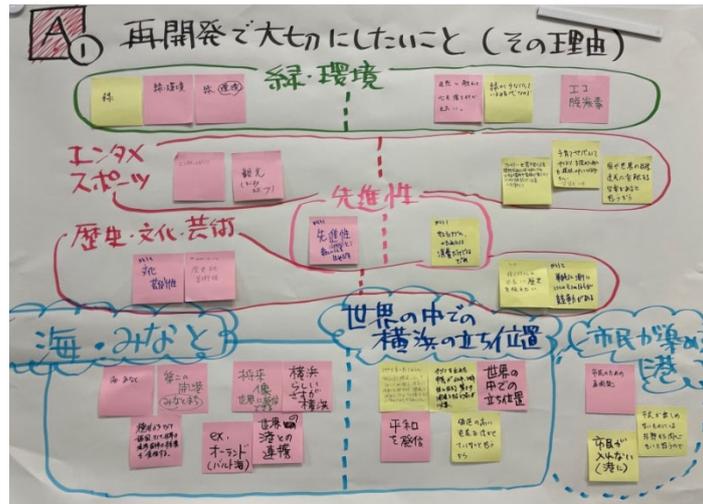
<p>結ぶ路面電車や専用バスと、ふ頭内は自動運転や翻訳ロボットなどを回遊させる</p> <p>○ウォークアブルなまちに</p>		<p>○回遊やにぎわいを創造、促進する</p>
<p>「異国を感じる、学べる場や機会をつくる」</p> <p>○開港～昭和以前の街並みを再現し、実際に市民が生活する</p> <p>○異国を感じる、学べる(料理、雑貨、文化、言葉など)</p> <p>○世界の港を知るための図書館、美術館、市民の広場</p>	<p>○海に面した横浜らしい場所だから</p> <p>○昔から海外の様々なものが入ってくる場所だから</p>	<p>○実際に暮らしている人を見て、交流して、自分も暮らしてみたいと思える</p> <p>○若い人に歴史を知ってもらいたい</p> <p>○横浜を通じて様々な国、文化を体験できる</p> <p>○エンタメ施設として収益が見込める</p>
<p>「海洋生物の研究施設」</p> <p>○先進性</p> <p>○海洋資源の維持と活用</p>	<p>○画一的ではない、新しい港になる</p>	<p>○ここにしかない情報が集まる、特殊なタッチポイントとなる</p>
<p>「にぎわいを生むエンタメ・スポーツ施設」</p> <p>○水族館</p> <p>○スタジアム(世界の一流選手が集うスポーツの聖地に)</p> <p>○宿泊施設</p> <p>○税制の優遇、規制緩和も必要なのではないか</p>	<p>○周囲が海に囲まれている、横浜を代表する立地</p> <p>○横浜はプロスポーツが多い。テニスやラグビー発祥の場所でもある</p>	<p>○世界中から観光客、誘客が可能</p>
<p>「ナイトタイムの活性化＝夜景が大切」</p> <p>○港の特長を生かした開放感のある公園</p> <p>○夜景が見られるスポット(そのために、周辺地区の景観を良くしていく取り組みは不可欠)</p>	<p>○東京や千葉からも近く、海からアクセスできることが強み</p> <p>○夜景は若い人からお年寄りまで需要があり、マリンスポーツや海水浴場などあれば幅広い層が集まりやすい</p> <p>○ここに来るまでにも様々な観光地がある</p>	<p>○夜も楽しめるものがあれば周辺も含めて活性化できる</p> <p>○夜の活性化は夜の安全性を高めることもできる</p>

※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

ウ ファシリテーターからのコメント (大木 淳)

- それぞれが持ち寄った(あるいはその場で思いついた)アイデアが、「海・みなと」という共通テーマを設定したことでまとまりのあるものとなったように思います。
- 結果、国内外から人を呼び、交流したいというイメージが共有できたと思います。山下ふ頭の立地がそれを可能にしてくれるのではないかと参加者の期待を強く感じました。
- その背景には、水際線の開発が進み、観光地化されてにぎわいが生まれる一方、港と呼ぶにはその印象が薄れてきた、現在の港には近づけない、入れないといった現状があると思われます。

《模造紙》



B グループ（ファシリテーター 角野 渉）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の意見を元にした事業計画が大事。今回のワークショップで市民の代表的な意見とするのはどうなのか。応募してない人の意見はどうやって反映されるのか →武蔵野市取組では無作為抽出した市民が議論して決めた ○若者、女性の視点を含めた中で再開発が必要 ○横浜市民に還元するようなものである必要がある ○少人数でも楽しめるような場所にしたい ○市民の意見交換が行われるような場所にしたい 既存の市役所アトリウムなどは使いにくい ○住み続けたいランキングが低いため、子育て支援、若者支援 ○観光に関してはみなとみらいにたくさんある
環境・緑	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の憩いの場、散歩できる場所 ○市民の文化の森 ○子どもが走り回れる場所がほしい ○埠頭マラソン ○緑化と文化的コンテンツを掛け合わせた場所にしたい ○横浜には緑が少ないから
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ○文化の交流拠点にしたい ○文化発信の象徴となるものがほしい ○港の歴史を大切にしたい
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○防災に配慮した施設

《グループで話し合うテーマ》

「先進性」のある場所という中心テーマのもと、「エンタメ・スポーツ」という具体的なコンテンツも考えることにより、山下埠頭に最先端の環境と人が集まる魅力的な場所とするための方策について考える。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
文化施設 ○図書館を中心とした文化発信地（建物は有機的なデザインに）	情報が集まり、交わる場所にしたい	人と情報の循環
環境を生かした憩いの場 ○ふ頭の中央に大きな丘を作り、その上を森にする ○森と一体化した海沿いのデッキを整備 ○子供のための広場	これだけ大きなボリュームの緑地が横浜にはない	市民が住み続けたい場所になる

○緑化地帯 ○市民の憩いの場所		
交通システムの充実 ○シーバスによる水上移動 ○場内カートによる陸上移動	既存の交通を生かす 新しい技術を体験できる	埠頭内外の移動がスムーズ
観光スペース ○イベントスペース ○グランピング施設 ○動物園	敷地の広さを生かす	観光集客に止まらない発展 住み続けたいと思える街になる
研究環境の整備 ○研究系の中小企業 ○企業間交流	情報が集まり、交わる場所にした い	企業間交流

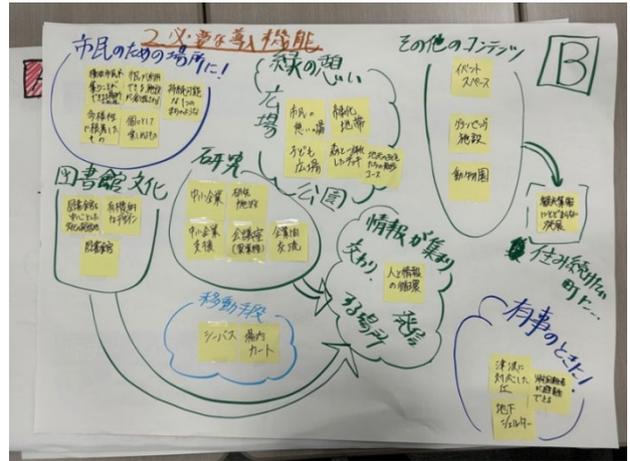
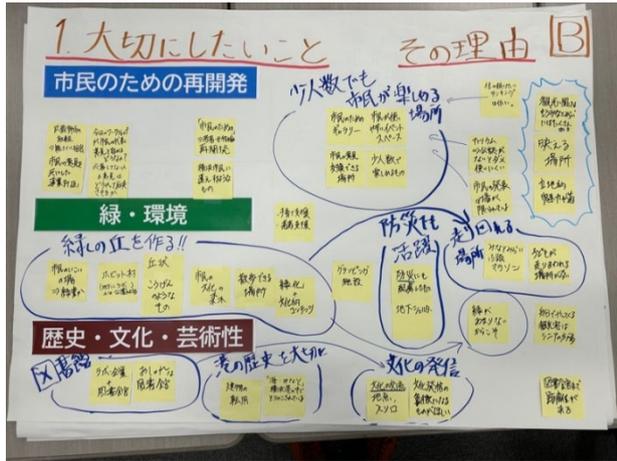
《施設配置・空間イメージ等》

	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を丘に(山下公園から丘が連続する) ○丘の下にラボや図書館(文化発信拠点)、パーキングなどを配置(ラボや図書館は横穴式) ○外周部はランニングや散歩コース、丘の中を巡って様々な交流が生まれる
--	--

ウ ファシリテーターからのコメント (角野 渉)

- 今回のグループの傾向としては、「市民のため」に「文化的」なコンテンツによる開発を望むという点で意見が共通していました。
- 具体的な全体イメージを元に議論が進みましたが(MAP 参照)、それぞれのメンバーが望むコンテンツのスケールと実際のスケールとの差が共有できたことは、メンバーの認識の変化にも繋がりました。
- 観光コンテンツにも話は及びましたが、あくまで「住み続けたい」と思えるような市民にとっての魅力づくりに貢献することが要求されていました。

《模造紙》



C グループ（ファシリテーター 高橋 慧一）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
緑・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○港付近の緑は海の風を防いでくれて、憩いの場にもなる ○緑と水辺をつなげる場所として、山下公園から繋げていきたい ○まちの中でのんびり過ごせる場所が少ないため、緑と水のある場所は活かしていきたい ○まちの近くにある緑は貴重なため残していきたい
エンタメ・スポーツ (観光)	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーターフロントを走れることが魅力 ○水辺のレジャーはまちと海を繋ぐきっかけとなる
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○次世代のレガシー、市民として関わられる場所としていきたい ○次世代のアジアの結節点として、世界に誇れる場所にしていきたい ○広い世代に使ってもらえる場所にしていきたい
歴史・文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ○港と海により発展した横浜の景色を残したい ○横浜の入り口、海の入入口、歴史的な船の入入口としての立ち位置を残していく
海・みなと	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜の顔である港らしい景色や地形を残したい ○港町としての憧れの場所を残していきたい ○港町らしい船の行き来や入港する様子 ○コンテナが並ぶ風景は港ならではの景色 ○ウォーターフロントとしての広い空間を残す ○ベイサイドブルーの終点としての立ち位置 ○水辺の景色、海と街をつなぐ
市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○市民が関わられる場所として、投資や開発に介入していきたい ○市民で作り上げる場所にしていきたい

《グループで話し合うテーマ》

港らしさを残し、緑と水辺を活かした景観により、まちとの繋がりを生んでいく

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p>「教育普及・芸術」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森を作り、海と森の両面で生態系を学べる場所を作る ○芸術系の教育施設と展示ができる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ○森、海、都市が隣接し、まとまった土地があるため、研究、教育に適している ○各エリアからアクセスできる位置にふ頭があるため 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域全体が教育エリア、研究場所として維持管理される ○新しい学校の在り方が生まれる
<p>「休憩・のんびりできる場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心がリラックスできる場所 ○雨の日ものんびりできる場所 ○休憩できる、滞在できるホテル(豪華客船を使ったホテルなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ○都市から少し距離があり、海や港の景観が活かせる ○コンテナや豪華客船を使い、非日常的な場所を作ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○都市の中の憩いの場所となる ○外からの来訪者が来るきっかけとなる ○横浜市内の人も外からくる人も使える場所となる

<p>「サイクリングコース・歩く回廊」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○港を一周できるサイクリングコース ○景観を眺めながら走れる回廊 ○港を巡る終着点 	<ul style="list-style-type: none"> ○海沿いに面しており、まとまったある程度の距離のコースを確保できる ○水辺、緑、港を堪能できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜市民が日常的に使うことができる
<p>「民間活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次の世代へ投資できるモノ・場所 ○市民として投資をしたくなる事業創造 ○屋上活用・市民の複合施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○各区の真ん中に位置しており、色々な地域の住民が関わる事ができる ○様々な施設を建てることのできる広大な土地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民と行政で結託して維持管理、開発が進められる ○市民のニーズに合わせた開発が可能
<p>「目的のポイントをつくる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭にしかない観光スポット、ランドマークを作って集客を行う ○映えるスポット、写真スポット ○SNSの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜らしい港の景観 ○横浜ならではの魅力的な港の夜景 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNSを通した集客効果 ○ビジュアル的な宣伝効果が期待できる

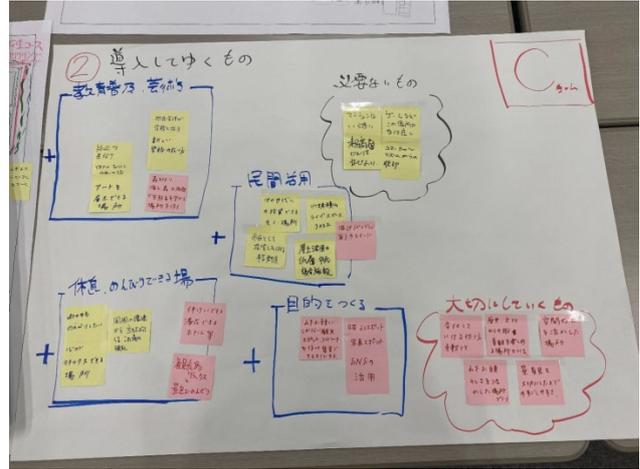
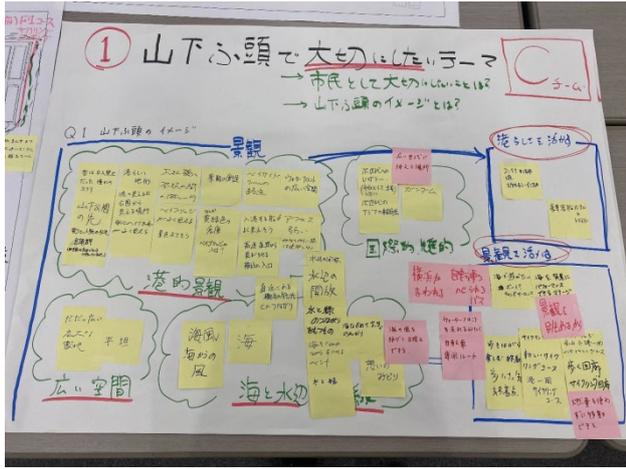
《施設配置・空間イメージ等》

※時間切れのため、模造紙なし

ウ ファシリテーターからのコメント（高橋 慧一）

- 商業施設や新しい大規模施設は必要ないという意見がグループ内で一致していました。それに伴い、緑や水辺の憩いの空間、水辺のレジャーなどが重要視されるアイデアが多く上がる流れとなりました。
- 外部からの観光客だけでなく、横浜市民も日常的に利用していける施設や機能を設置していくことを前提に導入機能や今後の開発の指針を決めていく形で話し合いが進みました。
- 港のイメージを最大限生かすことが山下ふ頭らしさに繋がっていくという認識がグループ全体での総意といった感じで、横浜＝港町ということに対しての憧れや誇りのようなものは全面的に出していきたいというのが話し合いの中からも伝わってきました。

《模造紙》



D グループ（ファシリテーター 小泉瑛一）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	○大切にしたいこと→▲大切にしたい理由→★譲れないこと
観光	<ul style="list-style-type: none"> ○職住一体の観光地に ○エンターテイメント ○MICEの要素を取り入れた新しい観光地 ○海外からのマネーを期待 ▲宿泊による収益 ▲低層部住居、高層部オフィス ▲ヴェネチアをモデルに(住んでいる人) ▲お金が大事、収益を得る ★市民のためのお金を生み出す→持続可能性へ ★みんなが行きたいなと思える場所 ★持続的な経済の循環 ★市の土地は市民に還元されてほしい ★三浦・箱根等観光のハブになる(オール神奈川意識) ★海外からのお客さんに頼らない
全世代の参加	<ul style="list-style-type: none"> ○笑顔でみんなが参加 ○全世代の人が笑顔になれる空間 ▲全世代コミュニケーション(知見の共有) ▲誰も取り残さない
持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能なまちづくり(住み続けたい街) ○脱炭素化や緑環境を守るまちづくり ○今後 50～100 年に向けた事業 ○SDGs ○クリーンエネルギーの拠点となる施設 ▲自然エネルギーの可能性を追求してほしい ▲循環するシステム ▲コミュニティがあることが大事
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○先進性 ○日本から世界へ 例)芸術ならパリ、のように ▲実験的(実証実験特区) ▲若いアーティストへの支援(継続性) ★日本の芸術家等 コンテンツ力を海外からも集積
命と暮らし優先	<ul style="list-style-type: none"> ○弱い人に寄り添う街 ○命と暮らしを優先、教育も ▲社会包摂 ▲年齢、障害、宗教 ▲未来への投資 ▲子どもが参加できる場をつくる

	<ul style="list-style-type: none"> ★次の世代の人たちがイイね！と思えること ★人の優しさ、暖かさを大事にする ★どんな人でも移動しやすい社会
収益性	<ul style="list-style-type: none"> ○税の増収となる事業 ▲山下ふ頭だけでなくオール横浜で税収アップ
海	<ul style="list-style-type: none"> ○海洋 or 海洋生物に関わる ▲水族館、海に触れられる場
公園や緑地	<ul style="list-style-type: none"> ○公園や樹木のある市民が自由に集えるところ ▲安心して憩える ▲自然にやさしい、人の集える、緑のある空間 ★公共性 集まれる場、話し合える場 課題解決 ★分断を乗り越える ★人が集まるための熱環境 コントロールのための緑
港	<ul style="list-style-type: none"> ○港(何かを発信できる場) ▲港の施設を活かす ▲港のイメージ、ウォーターフロント、景観、発信
歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史を大切にする ▲何万年の歴史を大事に→未来につながる ★歴史は資産 ★先人の歴史に学びながら積み重ねる ★山下ふ頭の歴史 語り継ぐ大切さ ★今残っていること→いいものだから残ってきた
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ 主に大きなスタジアム ▲避難施設 ▲ユーティリティの高いスポーツ施設

《グループで話し合うテーマ》

※このグループでは、統一したテーマを絞り込むのではなく、それぞれが大切にしたいテーマを上げてもらい、それらが「なぜ大切か？」という問いを二度繰り返した。それによって最終的に「譲れないこと」が明らかになり、漠然としたイメージからより重要なエッセンスが見いだせた。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<ul style="list-style-type: none"> 「エンターテインメントのための施設」 ○劇場、アーティスト付き ○イベント会場的機能 ○横浜あるいは日本の文化発信地 ○利用しやすいコンサート場 	<ul style="list-style-type: none"> ○面積の広さ ○船で来やすい ○海外からのアクセスが面白い ○都心からのアクセスが良い ○(海で囲まれているのと、陸地と一点でしか通行できないので) 	<ul style="list-style-type: none"> ○人が集まる効果 ○文化を次世代につなげる効果 ○MICE+ホテル 1日中おもてなし ○レストランやバーが生まれる

<input type="checkbox"/> ホール <input type="checkbox"/> 国際交流センター、国際会議場 <input type="checkbox"/> コンパクトスタジオ	セキュリティが高い、有事の際に 隔離しやすい	
「宿泊施設」 <input type="checkbox"/> リゾート的機能 <input type="checkbox"/> 観光用ホテル <input type="checkbox"/> ホテル	<input type="checkbox"/> 横浜はホテルが少ない <input type="checkbox"/> リゾートホテル(都市型)がない から	
「研究開発機能」 <input type="checkbox"/> 研究施設の機能 <input type="checkbox"/> 発表の場 <input type="checkbox"/> 実験特区機能 <input type="checkbox"/> スペースポート(宇宙港)	<input type="checkbox"/> セキュリティが高い <input type="checkbox"/> 何かあったとき隔離しやすい <input type="checkbox"/> 都心からのアクセスがいい <input type="checkbox"/> 国際的なイメージ、人権や人文 等に関する研究	<input type="checkbox"/> 研究者や学生が集まる効果 <input type="checkbox"/> 人権に関する施設 <input type="checkbox"/> 土地の得意性を活かす研究、 実験、発信ができるようになる <input type="checkbox"/> 宇宙に関する機能→JAXAとの 連携 <input type="checkbox"/> ハイクラス人材の所得税が入っ てくる
「海と触れ合う機能」 <input type="checkbox"/> 海で遊べる、海と触れ合う <input type="checkbox"/> 自然のある公園 <input type="checkbox"/> 海辺に触れる自然環境		
「コミュニティや集団の交流機能」 <input type="checkbox"/> 現在と過去と未来の繋がりがわ かる機能 <input type="checkbox"/> 山下埠頭の歴史を表現したスポ ット、または展示場		
「居住機能」 <input type="checkbox"/> 21世紀の町家 <input type="checkbox"/> 市民が長く住める住宅		
「防災機能」 <input type="checkbox"/> 津波に備えた人工地盤 <input type="checkbox"/> シェルター <input type="checkbox"/> 災害施設	<input type="checkbox"/> 支援物資の輸送、ストックとして の場	
「スポーツ施設」 <input type="checkbox"/> 国際競技場 <input type="checkbox"/> でかいスポーツ施設 <input type="checkbox"/> 市民利用のスポーツ施設		<input type="checkbox"/> シンボル(施設)が生まれる可能 性
「再生可能エネルギー」 <input type="checkbox"/> 自然エネルギーの施設 <input type="checkbox"/> エネルギーを作れる機能		<input type="checkbox"/> エネルギーインフラの整備

○水素ステーション(水素バス) ○土壌浄化施設(水辺の環境維持) ○水質浄化施設		
その他 ○介護施設 ○倉庫 ○交通インフラ ○ビニールハウス(果物や野菜) ○今、横浜にある施設の受け皿		○食糧生産 ○埠頭産の農産物(特産品)

《施設配置・空間イメージ等》

※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

ウ ファシリテーターからのコメント (小泉瑛一)

- 再開発にあたっての大切にしたいイメージを3段階にわたって聞いたことで、本当に大切にしたいものはないか、深く考えることができたと思います。それによって共通していたのは、「市民のための機能や利益」を求めるといことです。
- その上で、経済性や公益性などを追求し、市民に還元されるような施設をみなさん求められていました。
- 今回のグループでのディスカッションでは、文化芸術に関する施設や大規模スポーツ施設、それらに付随するホテルなど、今横浜にある機能を強化するような議論が多く出ました。一方で、現状ではあまりイメージが乏しい研究施設や実験特区という機能を求める声もありました。
- 全体的に、市の財政に危機感を持ち収益性を追求する方も、市民中心の公共的な機能を求める方も、大型の公共施設を更に作る方向に期待感を持っている人が多い印象です。
- 様々な主張の方がいたグループでしたが、ワークショップ終了後の参加者の満足度はとても高く、楽しかったと言ってくださった方が多かったです。

《模造紙》



Eグループ（ファシリテーター 岡村 竹史）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
場所の特性を活かす (海・みなと)	○海・みなと ・海に面した美しい空間とする。理想はシンガポール ・眺めの良さ、岸壁の良さを活かしたまちづくり ・横浜は外来、文化の最先端の港町
経済の活性化 (エンタメ・スポーツ、観光・MICE)	○日常的に楽しめるまちづくりとして、エンタメ・スポーツのメッカとする。 ・市民も集まる、日本中・世界中からも集まる ○儲けることが重要 ・IRは消滅したが、儲かるなら何でも良い ○宿泊客の誘致(観光・MICE) ・横浜は日帰り客が多く、東京等に宿泊客が取られている ・1日で観光が済んでしまわないように機能を充実させる ・パシフィコ横浜等と違うものを整備して、相乗効果を発揮させる
緑・環境	○開発と緑を共存する ・今の横浜のイメージは、先進的な開発であるが、そこに緑を共存させたい ・緑で経済は活性化しないが、緑で開発をアシストする
資金マネジメント※ (再開発の前提)	※「2.導入機能等」の議論が終わった後に追加されたテーマ ○雇用の継続的な拡大 ・雇用を増やせば、住民税などの財源が確保される ○維持費の低減 ・維持費にお金がかからないこと ・支出を減らし、収入を増やす

《グループで話し合うテーマ》

①場所の力を活かす(海・みなと)、②経済活性化(エンタメ・スポーツ、観光・MICE)、③緑・環境、について議論を行うことになった。

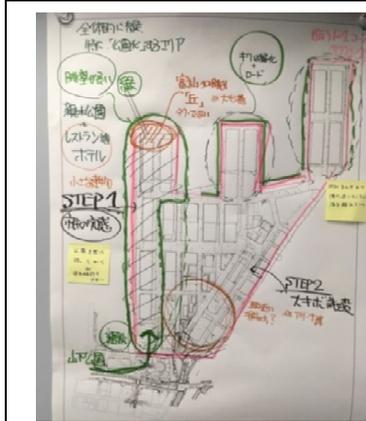
イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
「海・みなと」 ○客船ターミナル	「立地・岸壁が良い」 ○元町・中華街に近い ○既存の岸壁を利用できる ○海外の人を海から呼び込むことができる ・海外から横浜に人が来ない	「回遊性・相乗効果」 ○元町・中華街への回遊性を生む ・大黒ふ頭に接岸した大型客船から中規模のフェリーに乗り換えることもある
○飲食店・ホテル ・サンフランシスコやボストンのよう	「眺望が良い」 ○眺望が良い	○MMや中華街にはない商業を入れることで、住み分ける

<p>な街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手は近隣エリアに出店しているので、中小の会社が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・眺望の良い場所に人は魅力を感じる 	
<ul style="list-style-type: none"> ○日本文化の体験 ・羽田イノベーションシティでは、日本食、足湯等の日本文化が体験できる ※本物の日本文化は京都等に任せる。中途半端な日本文化は見せなくて良い 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人観光客を呼び込む 	
<p>「海×スポーツ＝マリンスポーツ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トライアスロン等 	<p>「大型イベントができる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大岡川で手軽なマリンスポーツは行われているが、大規模なものはこちらでしかできない 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界から注目される
<p>「建物のデザイン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シンボル施設が必要 ・シンガポール・チャンギ空港の複合施設 JEWEL には巨大な滝がある ○商業施設等は、個性的なデザインとする 	<p>「各所から眺められる場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭は、各所から眺められる場所である ○あちこちからこちらの景色が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ○シンボルがあれば集客効果がある
<p>「モータースポーツの街」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○街なかでのF1 ・山下ふ頭の外周をF1コースにし、中側に街を作る ・イメージはモナコ ・オフシーズンもホテル等で楽しめる街とする ・フォーミュラーレース、GTレース等もある 	<p>「場所が適している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふ頭では騒音問題が発生しない ○FIA(国際自動車連盟)が評価している ・コースの形が高評価 ・先端の出っ張りがシケインとなり、テクニカル ・平坦な場所なのでコースレイアウトをしやすい 	<p>「世界からの注目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の人が注目する 「地元企業との連携」 ○日産も盛り上がる
<p>「屋内アリーナ(球技専用)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(陸上トラック等がない)球技専用の屋内アリーナ・スタジアム ○東京ドームよりは少し小さめ 	<p>「既存施設は魅力がない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三ツ沢 ・三ツ沢はアクセスが悪い ・市民の憩いの場になっているので、潰さずに山下ふ頭に整備した方が良い ○使い勝手が悪い ・文化体育館、横浜アリーナは球技専用ではない 	<p>「集客」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際大会を開催し、国内外から人を集める ○ホテル等を整備し、スポーツ・ツーリズムを展開する 「防災施設」 ○非常時には防災施設にもなる 「ランドマーク」 ○山下ふ頭のシンボルとなる

	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜国際競技場は陸上トラックがあり、JFAも使いたがらない 	
<p>「開発と共存・融合する緑」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先進的な側面は東京の方が勝っているので、自然+先進性をキレイに融合させる 	<p>「海辺に緑がない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭にはもともと緑が全くない。緑を増やしたい ○横浜は緑が多いが、海辺の公園には緑・芝生が少ない 	<p>「環境をアピール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再開発やF1等はエネルギーを使うし、空気も汚れるから反対者もいるので、自然環境をアピールする
<p>「緑化のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エリアの外周に植樹する ○大木だけではなく、芝生、花なども混ぜて自然を演出する ○建築条件として、緑化率等を設定する(壁面緑化もある) 	<p>「海と緑の融合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○眺望が良い 	
<p>「海×緑＝親水公園」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての緑化する余力は横浜にはない ○山下公園から連続する親水公園 ○大通り公園のようなイメージ ○都市公園法にしばられない自由な場所とする ○入場料は無料 ○中層の建物屋上があって、コンサートができる ○ジョギング・サイクリングができる ○自転車ロードレース(普段は市民のサイクリング) 	<p>「市民が憩える、誰もが楽しめる場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民に開放 	<p>「税金を投入してもやる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰でも使用できる場所が一部でもあることで、開発に対する市民理解が得られる ○無料で入れるようにする、敷居を高くしない
<p>「段階的に整備する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○STEP1.左側から親水公園を整備する ・自然を整備してから再開発を行う ○STEP2.南東側の大規模施設を整備する ・整備が始まるまで開放する ・コンクリートのままではNG ・ガンダムを常設してもよい 	<p>「エリアが広い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エリアが広いので整備に時間がかかる。全ては一気にいかない 	<p>「市民の理解・楽しみ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民が楽しめる機能から整備することで、市民が少しずつ開発を実感できる ○楽しみながら、整備が進む

《施設配置・空間イメージ等》

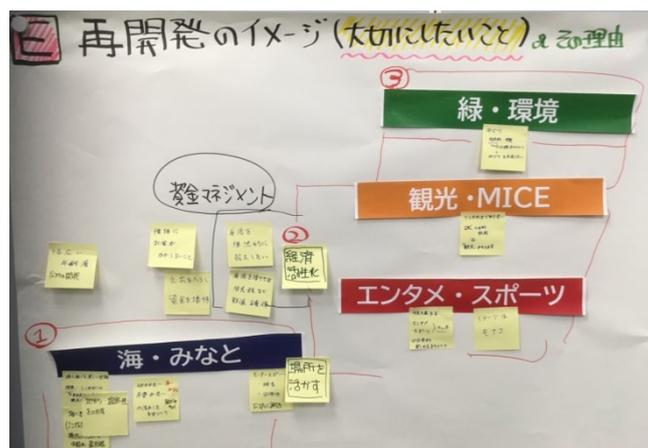


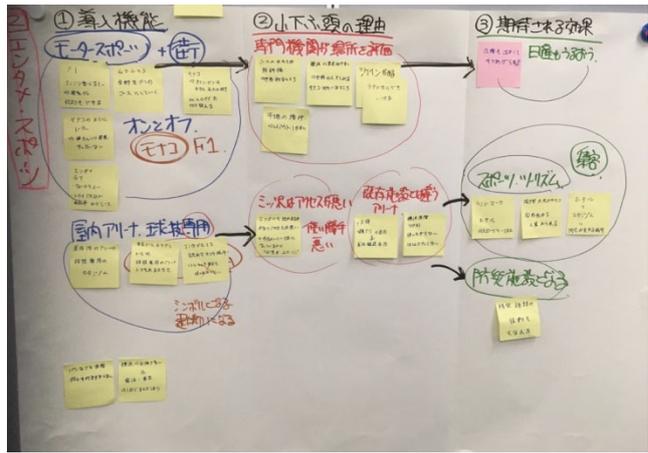
- 外周をF1コース、またはサイクリングコースとする。その外側は緑化する。
- 山下公園からの連続性として、眺望が良い左側を親水公園化し、レストランやホテル等を配置する。
- 特に左端の突端部分は、富士山への眺めも期待できるので、大さん橋のような「丘」を整備する。高所からの景色はマリンタワーに任せる。
※中央と右側の突端部分も緑地にするという意見もあり。
- 南東側は、大規模施設(アリーナ等)とする。
※なるべく駅に近い場所とする考え方と、拠点施設を少し離れた場所にして歩かせることで賑わいと回遊を生む、という考え方があった。

ウ ファシリテーターからのコメント (岡村 竹史)

- <1.再開発のテーマ>は、「大切にしたいこと」というよりは、導入機能を語る人が多く、次のプログラムと重複する感じになってしまいました。
- 一方で、<2.導入機能等>の議論が一通り終了した後に、改めて「大切にしたいこと」のコメントが幾つか挙げられたのが印象的でした。「大切にしたいこと」と「導入機能等」は行ったり来たりしながら考えを高めていくこともあると感じました。
- <2.導入機能等>は、自分の関心事以外のテーマでも前向きな発言がなされるなど、ワークショップらしい雰囲気がありました。例えば、緑に関して、「税金を投じてでも整備すべし」という意見は皆さん一致していたようです(程度の問題はありますが)。
- また、整備プログラムに関する提案が出てきたのは、新しい発見でした。

《模造紙》





Fグループ（ファシリテーター 林一則）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
検討の進め方 (再開発の前提)	○市民意見→事業者意見・提案という流れが大事 ○大企業主体のビジネス+タワマンとは違うまちづくりを考えたい
山下ふ頭のバリューを アピールする(1) 文化で集客を発信する まち (歴史・文化・芸術性)	○行き止まりの土地をカバーしていく ○駅から離れた立地をカバーする工夫がほしい ○わざわざ来てもらえるようにしたい ○そのためにはアニメ、文化などのアピールできるコンテンツがいる
山下ふ頭のバリューを アピールする(2) 多様な人を受け入れる 価値観をもったまち(パ ラ、ユニバーサル) (エンタメ・スポーツ)	○パラエンタメ、パラアート、Eスポーツ等で、ここでしか見れないメッカ、発祥の地 にしていく。スターを生み出す ○パラリンピックが楽しかった。生で見ると感動する ○企業や団体からの支援も得られるだろう。福祉を入り口に金を回すとよい ○水辺を使ったパラの活動も広げることができる
持続性のあるまちづくり (再開発の前提)	○10年後、20年後に横浜が横浜であるための取り組みを
持続性のあるまちづくり (1) 海・港を開くまち (海・みなど)	○都心部、みなとみらい、赤レンガなどの水際が立ち入れる場所になってきたこと をさらに発展させたい ○開港の歴史をもち古いものを大事にした関内のまちづくりとつないでいく
持続性のあるまちづくり (1) 内港全体で環境危機 の時代に安心をもたら すまちづくり (市民のための再開発)	○市民が安心安全に暮らすためにここを活かす ○迫る環境危機に対して食糧の備蓄や魚の養殖もできる ○今ある倉庫を備蓄に使っていくこともできる ○内港全体での役割分担を考えると、食は中央卸売市場にもっていくとよい
持続性のあるまちづくり (1) お金を生み出すまちづ くり (再開発の前提)	○お金を生み出し、税金は他に使うべきである ○持続したまちづくりのためにはお金の調達が必要 ○横浜市はふるさと納税の流出も大きく、それを補うことも考えたい

《グループで話し合うテーマ》

文化の発信や持続性のあるまちづくりに焦点をあてる。
みなとみらいと同じような街にしない。切り売りではないまちづくりを進めたい。
あわせて、障がい者など多様性を受け入れるインクルーシブなまちづくりを考えたい。

イ 具体的な導入機能

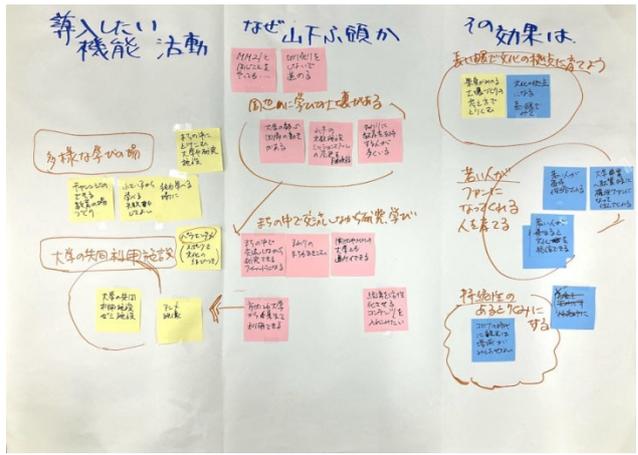
具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p>「多様な学びの場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちの中にとけ込む大学や研究施設 ○チャレンジのできる教育の場をつくる ○小さい頃から失敗も学べる環境づくり、親も学べる場に ○パラエンタメ、パラスポーツと文化とを結びつけた活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺に学びの土壌がある ・山手の文教地区、ミッションスクール集積の歴史を継承する。 ・周りには教育を支持する人がたくさんいる。 ・大学の都心回帰の動きがある ○まちの中で交流しながらの研究や学びが期待できる ・周りのまちもまきこんで活動していける ・関内やみなとみらいの大学とも連携していける 	<ul style="list-style-type: none"> ○長い眼で文化の拠点に育てよう ・果実を実らせる土壌づくりの考えで取り組むチャンスだ ・長い眼で見て文化の拠点に育てたい ○若い人がファンになって横浜に定着してくれるとよい ・大学などは若い人が毎年供給される ・若い人が集まると文化の発信が期待できる ・卒業後、就業時にも横浜ファンになって留まってくれる。
<p>「大学間の共同利用施設、活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学が共同で利用できる施設 ○ゼミなどができる ○アニメや映像などの分野でパラの活動とも結びつけていく 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内27大学が集まって利用できる ○共同の活動の中から、経済を活性化させるコンテンツを街に入れこんでいく 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育や文化は、持続性ある取り組みになっていく ○コロナの時代に観光は増減が見通せない。観光に頼るまちづくりは限界がある

※施設や土地利用というより、長期的な視点でのまちづくりの方向性を議論することに終始したので、施設配置イメージまでは検討しなかった。

ウ ファシリテーターからのコメント (林一則)

<ul style="list-style-type: none"> ●子供から大人までの教育環境、大学や研究施設の共同活動の場、障害者スポーツやインクルーシブなエンタメなども含む幅広い文化の発信といったことが話題の中心となり、長い眼で見て横浜ファンを増やすきっかけを生み出すまちづくりへの期待が大きかったです。 ●まちづくりの具体イメージを方向づけるまでには至りませんでした。研究学園都市のように大きな施設が並ぶというよりは、まちのコンテンツとして学びや探求の場がまちに溶け込んで、一般の方とも接点が生まれるというようなまちへの指向が語られました。 ●背景にはみなとみらいとは異なったまちづくりを追求したい、企業、観光だけに頼るまちづくりは、持続性という点からも危ういという考えが多かったように思います。 ●今回メンバーは、組織マネジメントや環境開発などの専門家もいて、話し合いのプロセスに注目している、どのように議論が進むのか期待しているという方が複数おられたことが特徴でした。

《模造紙》



(3) 第3回 (1/21) 市民意見交換会 各グループとりまとめ

Aグループ (ファシリテーター 林一則)

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
最先端の教育、研究、実装の場を軸にしたまちづくり ＝大学や企業を育てる環境づくり (先進性)	<ul style="list-style-type: none"> ○知識集約、スタートアップ、学習への投資の継続が大事 ○教育と企業の研究開発が連携、両立していくべき ○東京にもみなとみらいにもない尖ったまちづくりがあって良い ○英語ファーストにしてボーダレスな環境をめざすくらいの取り組みを ○先進的でボーダレスで他にない環境を作ることが、横浜好きになる人、特に若い人が増える ・学んだり体験したりする場を充実することが、ハマに住む人を増やす ・今は、学生は都内の大学を見ているし仕事も東京に行ってしまう ・新しい産業がスタートアップする土壌を培いたい ・高い所得の人が集まる横浜につながる。 ・若い人には鶴見臨海方面は汚いイメージが持たれていた ・東京、大阪にないもので競合しないことを考えたい
教育、研究、実装の場を市民、子ども、観光客も体験ができる (先進性、観光・MIC E、エンタメ・スポーツ、市民のための再開発)	<ul style="list-style-type: none"> ○市民に開かれた企業施設で、横浜の子どもにもアピールしたい ○大学や企業の協力で、スポーツや食、水族館などが楽しめるとうい ○大学の所有するスポーツ施設を貸して活用、プロスポーツも呼ぶ ○市が作ったスポーツ施設はオンリーでないと長く使われない。北山田の国際プールの様にならないことを考える
横浜らしさを集約したエリアの、観光やスポーツによる活性化にもつなげる ＝周りの街、既存施設の活用とともに考える (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○新しいもので塗りつぶすようなまちづくりはNGだろう。横浜らしいまちづくりを大事にしたい ○国際会議場やショッピングは既存のみなとみらいのものを生かした上でさらに必要かを検討すべき ○関内関外は利用者にとってテイストの違う街を楽しめるエリアになっていることを生かしたい ○元町、中華街、関内、山下公園をコラボしたまちづくりが求められる。それぞれでは経営的に厳しくなっている ○関内関外(特に関外のまち)は国際化がすでに進んでいると言える ○周りの施設や街に扇状に広げていく要として考える
土地の環境条件を確認して計画を進める (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○埋立地であり地盤や土壌は大丈夫か→調査はこれから行う。ゴミで埋め立てた場所ではなく、これまでの利用からも土壌汚染はまず安全だろう ○外来危険生物(ヒアリなど)も確認すべき→これまでは確認はない
収支の考え方を議論していく必要がある (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○税金をどこかで確保して進める必要がある。小さな部分で大きく稼ぐところも考える必要がある ○最初にボーンと大きなものをもってきてというのは違う。継続が大事

《グループで話し合うテーマ》

先端研究の頭脳が集まり若者や起業家を惹きつけるフィールドづくりを進め、大学や企業の開かれた施設や活動によって市民も接点をもち楽しめる環境づくりを進める

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p>「先端研究の頭脳が集まるまち」 「スタートアップの化学反応が生まれるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○有名私大の研究施設を全国から、海外からも募る ○MITの施設を誘致 ○企業の協力で市大の施設をつくることも ○研究大学院レベルの企業との協力施設、沖縄の大学院大学のイメージ ○先端的なキーマンを連れてくること 	<ul style="list-style-type: none"> ○羽田アクセスがよく、人を集め発表の場になる ○オンオフの切り替えが周囲の街で楽しめる ○産学民が連携しやすい立地と言える 	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜発のスタートアップ企業が生まれる ○大学施設など活用すれば卵の企業も展示、広報、カンファレンスできる場が実現できる ○教育を大事にするまちとしての横浜のイメージづくりに結びつく ○若い人が横浜で住み活動しつつけたいと思える。 ○ヨコハマの世界的な知名度が上がる、ブランド価値のアップをめざすべき ○横浜開港 170 年の歴史を未来につなぐまちづくりを進める
<p>「新しいモビリティの実験フィールド」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○試作企業、海陸空のモビリティを試せる場所。 ○先進的なモビリティを体験、教習できる。 ○ドローンタクシー ○海上タクシー、環境重視型のものをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○半島でありモビリティの実験的エリアとして区分しやすい ○どの分野をコアに集めていくかはよく検討したいエネルギー分野も大事 	
<p>「大学や企業が開放する施設で市民もスポーツや食を楽しめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学のスポーツ施設、米国などでは大学所有のスタジアムを貸して人気のプロ競技も行われる ○スポーツサイエンスの施設を併設したい ○地産地消の企業や大学の食堂レストランを一般にも開放 ○食や農の企業施設や大学と連携したい 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツに興味がある人が来場するには特に問題のあるアクセスではない ○大学の収益にもなる。それを教育に投資できる ○既存の倉庫を生かして改修活用する可能性。それにより埠頭の歴史もひき継ぐことができるとよい ○中華街とは異なるもので食をアピールしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康や食料の問題に発信していくことは、今後大事になる

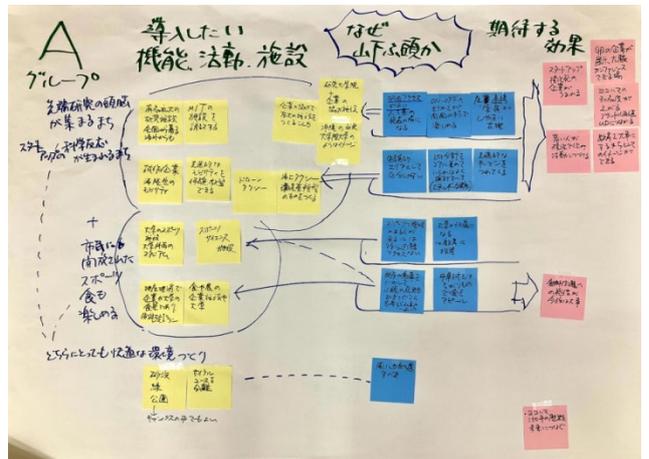
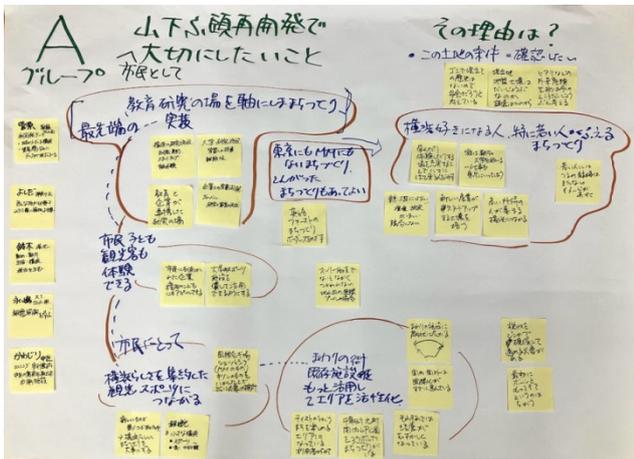
<p>「教育研究も訪れる市民もどちらにとっても快適な環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑、公園 ○キャンパスの緑もよい ○砂浜も ○車とは分離されたサイクルコース 	<p>○海辺の風にも配慮した環境づくりはほしい</p>	<p>○横浜開港 170 年の歴史を未来につなぐまちづくりを進める</p>
---	-----------------------------	---------------------------------------

※施設配置や空間イメージの検討までは至らなかった。

ウ ファシリテーターからのコメント (林一則)

- はじめ観光客を集めるまちづくりの意見もありましたが、教育や研究開発を軸にしたまちづくりが横浜らしさを伸ばせるとの話合いになり、大学や企業施設も活用して市民が楽しめる接点にもなる場づくりも併せて考えていこうという方向になりました。
- 国際レベルの施設や人を呼び込むくらいの取り組みにするとともに、横浜発の中小主体が活動できるインキュベーション環境をつくっていく、という高い目標で進めるべきだとの声がありました。
- スポーツや食の分野が大学・研究施設と市民とをつなぎ、周囲の関内関外の街とのコラボにも展開していく可能性が大きいと期待がありました。
- 事業収益や税収について、IRができないなら他のかたちで小さな部分で大きく稼ぐものの導入をできないかとの意見も出されましたが、目安になるコスト感や規模感も手探りで、議論を深めることはできませんでした。

《模造紙》



B グループ（ファシリテーター 角野 渉）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
海・みなと	○横浜の港としての魅力を生かす
先進性 緑・環境	○以前アザラシが来ていたように、環境に配慮したものが必要 ○SDGs未来都市として力を入れる必要がある ○サステナビリティへの配慮 ○他都市に負けない日本を引っ張るような牽引力を持ちたい
エンタメ・スポーツ	○若者が集う場所にしたい ○フットサルができる場所にしたい ○若い人の記憶に残るような場所にしたい
市民のための再開発	○商業地では閉店後に人がいなくなるため、居住地としても開発してほしい
避けたいこと	○開発で「やらないこと」を決めることも大事 ○周辺に存在する施設の類似施設は要らない ○ハコモノは要らない ○他都市と競争しないものがほしい ○コスト面で実現可能なもの（横浜の荷物にならないように）しなければならない
事業性	○横浜が儲かるような事業性のあるものであること

《グループで話し合うテーマ》

前半の議論を受けて、テーマを絞ることなくそれぞれに必要な導入機能について議論を継続しました。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
エネルギーに関連した施設 ○海洋発電所 ○潮力発電の研究施設	産油国ではないという国の事情を解決できる場所にしたい	人と情報の循環
海の環境と関連した施設 ○水族館 ○タマちゃんマリンランド + ホテル		
交通拠点 ○交通ターミナル化 ○LRTの敷設 ○ロープウェイの延伸 ○ヨットハーバー ○新興通信無人モビリティ ○海に関連した交通網	山下埠頭までの交通の利便性が悪い 既存の交通を利用し、新しい交通システムと結び付ける	誰もがどこからでも来やすい、交通利便性の高いエリアが作れる

<ul style="list-style-type: none"> ○浦安、羽田を繋ぐ船 ○大人数に対応した交通整備 ○色々な乗り物を楽しめる場所 		
<p>高い事業性ある事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ディズニーの誘致 ○クルーズを模したディズニーストア 	浦安と水上交通でつないで、ディズニーコンテンツで東京湾ネットワークを形成できる	高い事業性のコンテンツにより長期の大きな収入が得られる
<p>公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑があふれる公園 	面積が大きい 都心部に近くて広い、一等地としての価値	外に出るだけじゃない
<p>研究開発拠点(日本版シリコンバレー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国立の研究機関 ○国立大学の誘致 ○スタートアップ企業間交流の拠点 ○研究開発型施設 	横浜の真ん中にも産業に関連したものをおくべき 中核部として人の集まる場所	先進性の高い知見が集積する
<p>若者向け施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デートスポット ○若者に刺さる飲食店 ○フットサル場 	若者が来られる動機付けが必要	若者が遊びで一日過ごせるようになる
<p>海から横浜を見れる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夜景スポット 	海から見た港湾都市は美しい	新しい眺望スポットが生まれる

《施設配置・空間イメージ等》

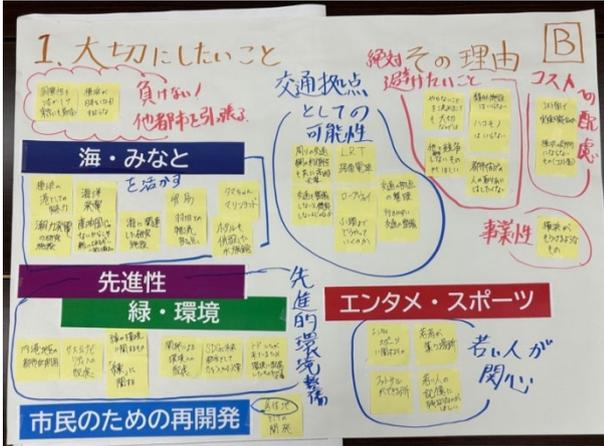
※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

<p>The diagram is a hand-drawn site plan for a '観光ゾーン' (Tourism Zone). It features several key elements: <ul style="list-style-type: none"> Hotels: Two rectangular buildings labeled 'ホテル' are positioned near the top left. Shops: A row of smaller rectangular buildings labeled 'ショップ' is located in the middle. Park: A large green area with tree symbols is labeled '公園' (Park) on the right side. Waterfront: A blue area at the bottom represents the sea, with a yellow line indicating a '遊歩道' (Promenade). Transportation: A yellow line labeled 'EV' (Elevated Vehicle) runs through the site, and a red dashed line indicates a '観光ゾーン' boundary. Other Labels: '水族館' (Aquarium) is written near the waterfront, and 'OR ディズニー' is written in red at the bottom right. </p>	<ul style="list-style-type: none"> ○公園と研究施設の一体的整備 ○ディズニーランドと海で直結したショップ施設など ○突端にホテル、水族館 ○アクセスのための交通ターミナルと、ふ頭内を巡るロープウェイ
---	---

ウ ファシリテーターからのコメント (角野 渉)

- 観光ゾーンと公園ゾーン、それらの中に研究開発ゾーンというゾーニングが生まれました。また、それらを結ぶように交通システムの提案もあり、回遊性も踏まえた全体の使われ方のイメージが議論されていました。
- 高い事業性、高い先進性、高い利便性、高い環境意識といった高性能な埠頭エリアが求められているように思います。
- 東京湾で繋がる他都市の施設とネットワークを組む、といったダイナミックな視点が持ち込まれている点が特徴的でした。

《模造紙》



C グループ（ファシリテーター 岡村 竹史）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
海・みなと (市民のための再開発)	<ul style="list-style-type: none"> ○海の景観が好きだから ・自分にとってのヨコハマは、丘から見える海の景色だから ・ヨコハマといえばみなとみらいであり、山下ふ頭は景観を含めみなとみらいらしいから ○開港の原点に戻った開発をするべきだから ・そういう意味で8つのテーマ全てが大事 ○青葉区に住んでいる人たち(子ども達を含む)は、海・みなとの恩恵を受けることができているから
防災 (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○災害を念頭においた開発が必要だから ○住民も来街者も活用できる機能だから ○津波被害を受ける場所だが、あえて防災拠点にして「何かあったら山下ふ頭に行こう」という場所にしたいから
緑・環境 × 先進性 × 観光・MICE、歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○国際的、先進的な緑が必要だから ・建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識することが重要 ・緑・環境に関係する先進技術を活用し、自然と調和する ○衣食住が循環できる街が望ましい
	<ul style="list-style-type: none"> ○先進性 ・他国ができない技術を発信する ・日本の経済を活性化したい ・日本ならではの歴史から先進性を学ぶ
	<ul style="list-style-type: none"> ○観光・MICE ・ヨコハマの観光は、海や港のイメージが強いから ・そのイメージを崩さず、先進性と観光を組み合わせたい ・発展的なイメージをつくりたい
次世代への継承 (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども世代、孫世代にも還元できる、喜ばれる「あつて良かった」と思われる場所にしたい ○100%を開発してしまうのではなく、2030年にも続いていく「完結させない開発」とする
教育 (国際性・非日常性)	<ul style="list-style-type: none"> ○国際的な人間を育てられる開発 ・例えば、大学を誘致し、移住者を呼び込む
経済性 (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○一過性でなく、恒久的な財源を確保し、市民生活が潤うように
世界初 (先進性)	<ul style="list-style-type: none"> ○世界初のアイデア、アイテムが必要 ・2030年を考慮する ・2030年も通過点
市民を中心とした再開発 (再開発の前提)	<ul style="list-style-type: none"> ○「産学連携」や「賑わい創出」といった言葉ではなく、市民を中心とした開発にしたい

《グループで話し合うテーマ》

テーマを絞ることに関心が集まらなかったため、特にテーマを絞ることはしませんでした。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p>「集客機能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 景観を崩さず、滞在時間を延ばせる開発 ○ 人が来る、観光客が寄り道できる機能 ○ カップルが楽しめる公園等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 景色が良い 	<p>「経済効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 滞在期間が延びるとお金を落としてもらえる ○ 観光客も市民も楽しめる
<p>「ヨコハマならではの“食”」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヨコハマにまつわる食文化が楽しめる(サンマーメン、シューマイ、老舗のパン等) 		<p>「日常と非日常の両方に使える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食の機能は、日常的にも使えるし、災害時にも使える
<p>「一次産業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水産業や農業の実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料自給率の向上
<p>「歴史・文化×MICE」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ “ヨコハマ学”を学べる核となる研修施設 ・ 研究室を集めて拠点とする ○ 研修用の宿泊施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海・港は発祥の地ヨコハマの原点 ○ 港に泊まるのは非日常を感じる 	<p>「集客・交流」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民と観光客と一緒に滞在できる(交流) ○ 海がないエリアの市民も定期的に通う場所になる ・ 小学校の自然学習に活用できる(例:横浜自然観察の森(上郷)の海バージョン)
<p>「先進×環境」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究施設 ・ ミネルバ大学(キャンパスを持たない)を誘致する ・ “ヨコハマ学”を学べる場 	<p>「海のポテンシャルを活かす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海は世界に開かれている ○ 開港の歴史を有する 	<p>「大学の誘致効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海外の大学から都市づくりの知見を得ることができる ○ 若い卒業生から高齢者までが定住する(例:慶応日吉キャンパス) ○ 幅広い年代が学べる
<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境の技術開発に特化する ・ 再生可能エネルギーの研究、開発、実証 ・ 藻やミドリムシ等を使った燃料で実際にバスや車が走行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海の資源を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何かに特化することで廃れない、持続できる ⇒ 持続することで、人が減らない、人を呼べる ○ 最先端を体験できる ○ 複数社で競争させることによって、相乗効果を発揮させる

<p>「余白を残す」</p> <p>○何もしないのではなく、仮設的、可変性がある施設とする</p> <p>・例:現在の小学校が将来は高齢者福祉施設として利用</p> <p>・民間利用の場合、余白を残していくので、きちんとコンセプトとして掲げる</p>		<p>○余白があれば、やり直しができる。チャレンジして学べる、楽しめる</p> <p>○その時々に必要な機能に合わせることができる</p> <p>○変化を楽しめる</p> <p>○次の世代に継承する</p>
---	--	---

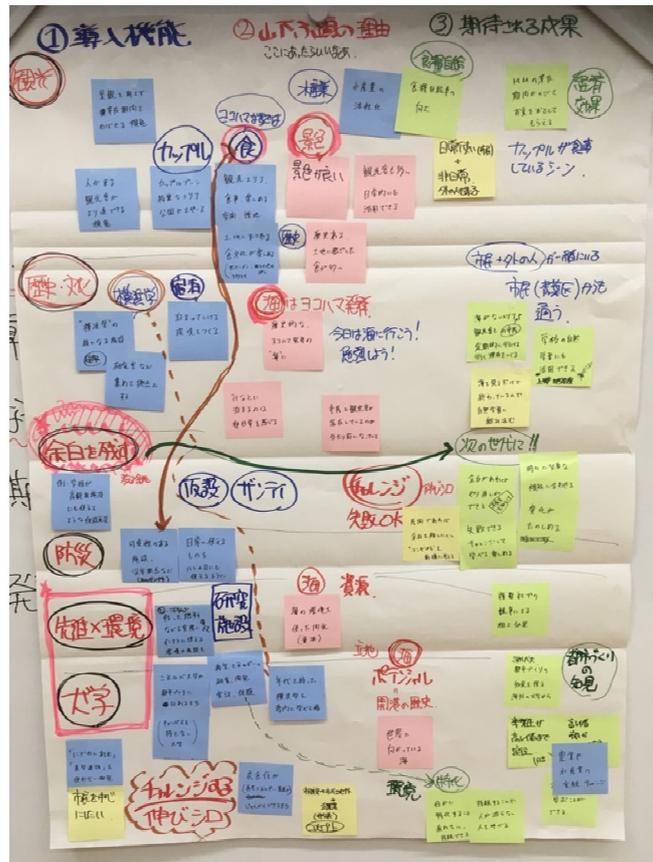
《施設配置・空間イメージ等》

	<p>○左側は、「海で学ぶゾーン」</p> <p>・自然学習 ・みなとみらいの景色を楽しむ ・観光(飲食点等)</p> <p>○真ん中(アンコの部分)は、「森で学ぶゾーン」</p> <p>・どこからでも入れる／見られる、「森」を造成する ・この中に研究施設を入れる</p> <p>○海と接する部分(外周)</p> <p>・市民が楽しめる遊歩道等 ・港の機能の強化(物流等)</p>
--	--

ウ ファシリテーターからのコメント (岡村 竹史)

<p>●<1.再開発のテーマ>では、8つのテーマに分類していることについて、「それぞれが関係している」とか、「全てが大事」とか、整理の仕方に異を唱える方が複数いたこともあり、テーマを絞ることはしませんでした。</p> <p>●<2.具体的な導入機能>では、今回のWSの主眼が「なぜ山下ふ頭なのか」という点について、参加者と共通認識を得るのに苦労しました。「山下ふ頭を対象としているのにどうしてそんなことを聞くのか」等の意見が3名からあったので、例を紹介した上で、「とりあえずやってみましょう」という感じで恐る恐る進めました。進めてみると、それなりの結果が得られたと思います。</p> <p>●そういう中で、ワークショップらしく、みんなで議論するという雰囲気はありました。①余白を残すこと、②研究施設(大学・企業等)は皆さんの合意点であったと思います。</p>

《模造紙》



Dグループ（ファシリテーター 大木 淳）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
景観	○横浜を代表する観光エリアに隣接しているので ○景観的なバランス、周辺との調和が大切
研究開発・観光などの産業の育成＝税収の確保	○宿舎付き産学連携の場、展示場などを整備したい ○大学や企業が泊まり込みで研究できる施設はあまりない ○観光に来ても泊まる人が少ない。泊まらせる仕組みが必要 ○観光と宿泊、そこに行かないと出来ないようなことをつくる ○閉ざされた空間だからこそ、長期滞在が出来る ○横浜の産業をつくる＝税収が確保できる
先進性	○横浜の未来に向けて貢献できる場所にするべき
歴史・文化・芸術性	○山下ふ頭がふ頭として存在していた記憶を残したい
持続可能なまちづくり	○将来に負の遺産を残したくない ○人口減の時代に箱モノ中心のまちづくりは不要
若い世代のためのまちづくり	○50%の若い世代の意見を60%以上取り入れるべき ○事業完了時の主世代のための再開発としたい
市民のための再開発	○山下ふ頭近隣の市民の意見を一定割合以上取り入れるべき（住民の反発がないように） ○市民のための場所にしたい ○どうせ不便な場所だから、逆に動きを活発化させない

《グループで話し合うテーマ》

<p>集客・税収確保を前提とした「市民のための再開発」</p> <p>「集客と税収」⇔「今までにない箱モノ」これらが共存できるか？</p> <p>「人の動きを活発化する」⇔「敢えて活発化させない」こともふまえて議論する</p>

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
「市民が滞留できる仕掛け」 ○サッカー専用スタジアム兼コンサート・イベントホールなど	○不便な場所だからこそ、強いコンテンツによる集客を求めたい	○市民が楽しめる ○お金が落ちる
「エリア内交通」 ○循環バス ○観光船発着所 ○無人運転の実証実験の場	○広いエリアの奥のエリアへの回遊、利便性を考えたい（よっぽどのものでなければエリアを使い切れない）	○集客が見込める
「山下公園との連続性」 ○ふ頭北側、山下公園側に憩いのエリア	○山下公園や大さん橋から良く見えるところであることを意識	○内港地区全体の景観の調和

<p>「産学連携、研究開発施設」</p> <p>○データセンターを誘致(神戸の海側にNTTのデータセンターがある)</p> <p>○水素工場の誘致、ソーラー+蓄電池の研究開発</p>	<p>○海に囲まれている=エネルギーや原料輸入がしやすい</p> <p>○先進性をアピールできる</p>	<p>○企業や学生がお金を落とす</p> <p>○研究成果を市民や子どもたちに還元できる</p>
<p>「税収増のために」</p> <p>○五感に響く機能を体現できるもの=水辺を市民に開放する=結果的に税収増につながる</p>	<p>○港の見える丘公園からの眺めで高速道路が興ざめ(首都高を地下化したい)</p>	
<p>「音楽ホール(イベントホール)」</p>	<p>○海からアクセスできる(海上交通を活かす)</p> <p>○市内にたくさんあるホールのシンボリックな存在に</p>	<p>○集客が見込める</p> <p>○市民が楽しめる</p>
<p>「博物館」</p> <p>○関東大震災の記念館</p> <p>○記念碑的なものでも良い</p>	<p>○山下ふ頭がふ頭として存在していた記憶を残したい</p>	<p>○記憶の継承</p> <p>○未来の教育に生かせる</p>

《施設配置・空間イメージ等》

- 手前(山下公園側)は、市民のためにお金が落ちるエリア
- ・SC+スポーツコンプレックスなど
- ・地元産業の集積・育成
- ・宿泊機能
- 奥は、人があまり動かないエリア
- ・産学連携、研究開発施設
- ・病院、高齢者施設を配置して人間ドックツアーなど
- 海上交通
- ・音楽ホールに直接アクセスができる
- ・船で来る楽しさ、非日常性
- ・日ノ出町、横浜駅、東京(お台場)から山下ふ頭への船でのアクセス
- ・シーカヤックやSUPなど、海辺のアクティビティの充実
- ・海釣り施設もほしい
- ・エアキャビンを延伸したい
- 小さい丘(地上部を駐車場に)
- ・手前(山下公園側)に集客施設・小さい丘をつくり、地上部を駐車場に
- ・山下公園世界の広場を再開発(駐車場を山下ふ頭側に)
- 周辺エリアとの連携
- ・元町、中華街、山下公園を經由して山下ふ頭という連動を大切に
- ・みなとみらい側から見た景観が大事
- ・みなとみらい側を低く、新山下側に徐々に高くしていく
- 便利にしすぎないことが大切

ウ ファシリテーターからのコメント (大木 淳)

- 新たな産業を生み、集客と税収の確保を前提としながらも、ふ頭の立地特性や広さを考慮して人の動きが活発化するエリアと動きの少ない（じっくりと滞在する）エリアを設定するといった具体的な空間イメージが話題の中心となりました。
- 山下公園に近いエリアにはショッピングセンターやスポーツコンプレックスなどの集客機能、突端付近は研究開発や医療施設などを配置することに加えて、丘を整備して周辺からの見え方を意識するなど、ユニーク且つイメージ豊かな議論が行われました。
- その根底には、観光客があふれて一般市民が敬遠するような場所にしたくないという思いがあり、まずは近隣住民が親しめるような場所とすべきであり、その声をもっと聞いてほしいという意見がありました。

《模造紙》



導入機能	なぜ山下ふ頭?	その効果?
市民の滞在	大規模な公共施設	観光客の滞在
エリア内交通	大規模な公共施設	観光客の滞在
山下公園との運動	大規模な公共施設	観光客の滞在
産業・研究施設	大規模な公共施設	観光客の滞在
税収増のための...	大規模な公共施設	観光客の滞在
音楽ホール	大規模な公共施設	観光客の滞在
博物館	大規模な公共施設	観光客の滞在

(4) 第4回 (1/28) 市民意見交換会 各グループとりまとめ

A グループ (ファシリテーター 岡村 竹史)

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
緑・環境 ○カーボン・ニュートラル	○省エネ・再エネは世界で求められている ○注目されるエリアなので、日本全体のモデルとしたい ○少なくともエリア内で、カーボン・ニュートラルを実現したい ○近隣が大都市なので、バックアップ電源にもなる
緑・環境 ○大規模な公園	○チルアウト(まったりする)場所が欲しい ・子どもと家庭を大事にしたい。子どもを連れていける場所が欲しい ・MMはせわしない ○山下公園から延びる空間・緑が大事 ○空間を大切にしたい(例: 上野公園)
海・みなと ○海と触れ合える(親水公園)	○横浜の名称は、「海」に基づいているから、海と触れ合える場所が欲しい(例: 谷津干潟公園)
海・みなと ○景観	○海を見ると癒やされるから ○ふ頭から海への眺望を活かす ・MMを眺める ・海を見ながら食事をする ・特に夜景は素晴らしい(ビールを飲みながら) ○周辺の丘から海への眺望を確保する(ふ頭に阻害建物を作らない)
海・みなと ○ふ頭の特徴を活かす	○ふ頭の復活 ・以前は、貨物船が10隻あり賑わいがあった ○人を隔離する施設(例: 病院、刑務所) ・場所が離れている ・大きな船を活用 ○他地域と連携する
市民のための再開発 ○次世代への資産とする	○2040年には税収減に転じるので、広い土地を使って、100年先、200年先に残せる資産とする(例: 山下公園は関東大震災の瓦礫で埋め立てられた復興のシンボル)
市民のための再開発 ○市民が普段使いできる開かれた施設	○横浜アリーナ、MM、中華街は非日常的な利用なので、市民が毎週行ける場所が必要 ⇒例: 大学、図書館、公園 ○開かれた場所とする ⇒例: つくば学園都市、東大(子連れも入れる)
文化	○横浜は過去、文化交流を進めてきた ・中華街は中国に由来するが、同様に、他の外国人街も想定される
防災	○海上輸送で、ヒト・モノを運ぶことができる
交通	○交通の利便性が良くないと人は来ない ○現状ではアクセスが悪い

《グループで話し合うテーマ》

お互いに関連するテーマであったので、特に絞ることはしませんでした。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p><市民のための再開発> 「芸術性の高い公園」 ○遊具やモニュメントではない、地形が芸術的な公園(例:モエレ沼公園) ・子どもが自由にいられる ・人工的に整備する公園だが、自然的な風合いとする(丘など)</p>	<p>○景色が良い ⇒周囲を360度見渡せる ○横浜には大規模な親水公園がない</p>	<p>「子育てファミリーが定着」 ○税金を投入しても整備すべき ○魅力的な公園は、子育てファミリーを引き寄せ、定着させる(例:南池袋公園) ・そこで育った子どもも根付く ・結果、投資資金は回収できる 「他地域/機能との相乗効果」 ○公園が整備されることで、横浜に1日滞在できる ・MMで買い物し、中華街で食事をし、公園でくつろぐ ・リピーターが生まれる ○(整備する)フェリーの時間待ちで過ごす場所となる 「災害時にも機能」 ○広域避難場所になる ○丘は、眺めの他に、災害時の高台避難場所となる ※周辺からの眺めの阻害にならないよう配慮が必要</p>
<p><市民のための再開発> 「自然系の博物館」 ○公園の中に、自然(生物、気象等)を学ぶ施設</p>	<p>○横浜、都心部にないから ※生態系の公園は小規模なものは市内にある。市民の森等との差別化ができるか？(疑問の意見あり)</p>	<p>○子どもがリピートする ○目玉となる施設になる</p>
<p><市民のための再開発> 「開かれた大学」 ○市民に開放する ○国際大学</p>	<p>○敷地が広い ⇒他の大学(関東学院大学等)はビル型だがこの場所はキャンパス型が成り立つ ○海が見える ○アクセスが良い(横浜国大はアクセスが悪い)</p>	<p>「交流・学習」 ○学生以外の一般の人もくつろげる ○多世代が交流する ○外国人留学生と交流できる ○家族で学べる 「研究能力の向上」</p>

		○研究能力が向上することによって、市の魅力が向上し、税収UPにつながる
<p><海・みなと>「水性館」 (水族館ではない)</p> <p>○大きな生簀に横浜の魚を放流することで、地元の魚を食べることができる(例:近大マグロ)</p>		<p>○日本文化を体験できる(例:刺身)</p> <p>○災害時に食を提供できる</p>
<p><海・みなと> 「フェリーの発着場」</p> <p>○北海道行きは大洗なので、ここにあると良い</p> <p>○お酒を楽しみながら、外国人がやってくるイメージ</p>	<p>「大さん橋との差別化」</p> <p>○大さん橋はインパクトが弱い</p> <p>○大さん橋とは異なる景色がある</p> <p>○大さん橋と横浜ふ頭は距離があるので、ダイレクトに訪れたい</p> <p>○大さん橋⇄山下ふ頭⇄中華街のトライアングルは回遊性が厳しい</p>	
<p><エンタメ></p> <p>○アニメ</p> <p>・アニメにはインバウンドを誘致する力がある</p>	<p>「敷地が広い」</p> <p>○様々な機能・コンテンツを導入できる</p> <p>「横浜の玄関口」</p> <p>○インパクトを与えられる</p> <p>・横浜に来た感じ</p> <p>・自然っぽい、昔の映画のイメージ</p>	<p>「インバウンド誘致による税収UP」</p> <p>○都内を観光する外国人は横浜に来ない</p> <p>○中国人は中華街に来るが横浜は遠い</p>
<p><環境></p> <p>「カーボン・ニュートラル」</p> <p>○再エネ、省エネ</p> <p>○水素エネルギーを活用した次世代交通システム</p>	<p>「注目エリア」</p> <p>○日本のモデルとなる</p> <p>「ふ頭の立地」</p> <p>○周辺に建物が無いので、太陽光パネルは機能しやすい</p> <p>○波力発電、潮力発電(※現在の技術では出力が乏しいが技術開発する)</p>	<p>○持続可能な社会</p>
<p><防災></p> <p>○大規模な公園の地下に駐車場と備蓄倉庫を整備する</p>	<p>「海路の活用」</p> <p>○海路により、支援物資と人の輸送ができる</p>	<p>「旅客船の活用」</p> <p>○旅客船は、避難施設・仮設住宅となる</p>
<p><交通>「自家用車」</p> <p>○自家用車で来られるようにしたい。そうでなければ、わざわざ来る場所ではない</p> <p>○地下駐車場を整備</p>		
<p><交通>「公共交通」</p>	<p>○水上バス</p>	

<p>○路面電車の復活(かつて横浜に走っていた)</p> <p>○2F 建て陸上バス(ユニバーサルデザイン)</p> <p>・1F は車椅子対応</p> <p>・2F はオープン</p>	<p>※ただし、天候に左右される</p>	
<p><景観></p> <p>○景観の統一が必要</p> <p>○バラバラでなく、大きなまとまりとする</p>		<p>○木造ビルの技術を活用すると、日本らしさが出る</p>

《施設配置・空間イメージ等》

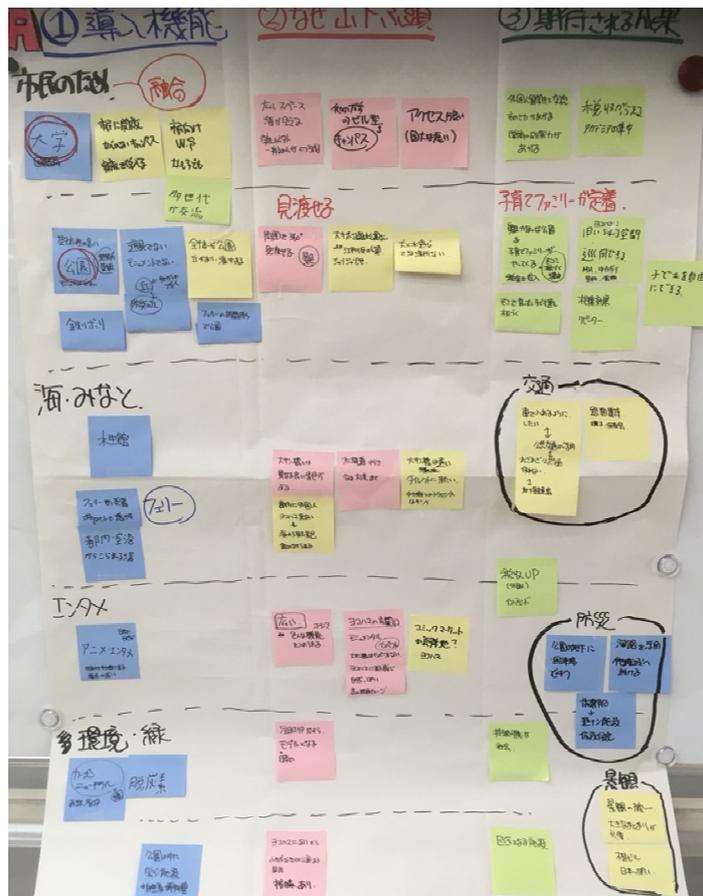
※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

ウ ファシリテーターからのコメント (岡村 竹史)

- <1.再開発のテーマ>では、「それぞれが関係している」ことから、テーマを絞ることはしませんでした。
- ワークショップらしく、みんなで議論するという雰囲気がある中で、「大規模な公園」はメンバーの合意を得たような感じがしました。
- 「大規模な公園」は、税金支出の考えを聞いたところ、魅力的な公園は若年ファミリーの定着につながる、隣接地域(MM、中華街)と相乗効果が生まれる等の説明があり、なるほどなと感じました。
- 会の終了後、参加者から、「もっと若い世代の声を拾うべき」「若い世代のいる場所に出前型で行ってはどうか」との提案がありました。

《模造紙》





B グループ（ファシリテーター 角野 渉）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
緑・環境	○フランス山との繋がり、フランス山との一体的なデザイン ○住んでいる人の健康に資するような開発にしてほしい
海・みなと	○水上交通（客船など）の活用 ○横浜ヨットハーバーとの連携 ○海の環境との親和性を大事にしたい ○海から感じる「冒険」のイメージがある
歴史・文化	○外国とのネットワーク拠点となれる場所なので、文化的に生かしたい
観光・MICE	○外国人に魅力的な場所にしたい ○事業性が高く、税収の安定的、長期的な確保ができるようにしたい ○若い人が集まる場所にしたい ○日本らしさを大切にしたい場所
エンタメ・スポーツ	○日本はポップカルチャーで注目されている ○メタバースとリアルが融合した他にないような場所にしたい

《グループで話し合うテーマ》

前半の議論を受けて、テーマを絞ることなくそれぞれに必要な導入機能について議論を継続しました。一つの世界観を描けるだけの広さを持つ、という利点を生かした開発イメージについて議論しました。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
○一つの世界観を描く	○海から感じる「冒険」のイメージがある ○広い	○既存のものと繋がらなくても、一つの世界観として完結して示すことができる
技術開発の拠点 ○ゲームとロボットを使った技術開発	○横浜のシンボルとしての場所	○将来的に需要の高い介護ロボットへの技術転用
言語の研究施設 ○言語の国際機関	○文化を取り入れてきた場所 ○異文化の玄関口だった	○減少している世界の言語研究を通じて、多様な文化の集積・交流が望める
災害に備えて ○浸水に備えた嵩上げ ○上階に大事な機関などを配置		
ゾーニングレイアウト ○埠頭の根元から奥にしたがってレイヤー状にゾーニング	○陸から奥行き深い形態的特性があるため	
開発のあり方	○大きな面積のため、初期費用も	

○初期投資を抑え、持続的、循環的な経済中で漸進的に整備を行う	比例して大きくなるが、横浜市の財政は厳しい	
エネルギー ○エリア内で再生可能エネルギーによって自給する	○広い面積がある	
周辺との繋がりの中で考える ○他の埠頭、周辺地域との繋がりの中で考える ○横浜市全体への波及	○横浜の中心的な場所にある ○中華街と近い ○みなとみらいと近い	○他の場所が連動して全体的に活性化につながる

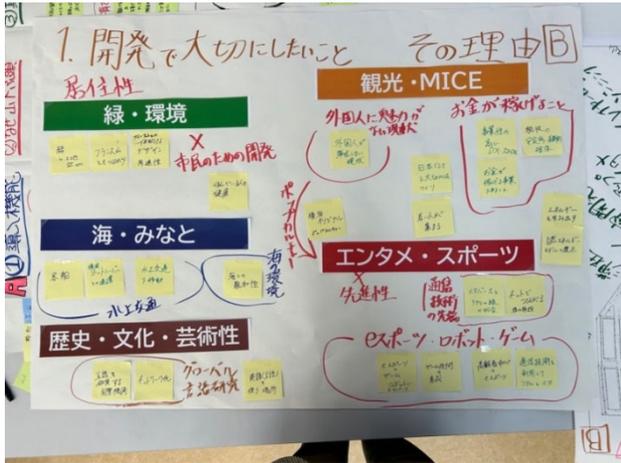
《施設配置・空間イメージ等》

	<p>※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、(ゾーニング以外の)施設配置や空間イメージの成果はなし</p>
--	--

ウ ファシリテーターからのコメント (角野 渉)

- このグループの議論の特徴は、山下埠頭だけで考えるのではなく、周辺の町や公園、他の埠頭などとの繋がりの中でこの場所の最適なあり方を考えるというものでした。
- 山下埠頭の異文化との玄関口という歴史から、外に開かれた場所というイメージの継承が意識されていました。
- 埠頭全体に全ての人が行けるようにするのではなく、目的ごとに行く人のゾーンを明確に陸地からレイヤー状に分けることで、訪れる人たちが利用しやすい整理されたゾーニングを考えていました。
- 研究事業としては、将来を見据えた事業性につながりやすい研究から、世界の潮流に一石を投じるような言語拠点など、幅広い議論がなされました。

《模造紙》



C グループ（ファシリテーター 林一則）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
地域の歴史・文化に立脚した風景づくり (国際性より、地域性を重視) ○みなとみらいとは異なるまちづくりを追求したい	○みなとみらいとは異なるまちにするべき ・大学や企業のビル、タワーマンションによるまちづくりはそちらでよい ・100年先を考えたまちづくりを進めたい ・市民のためのまちづくりの中に先進性をとり入れるという考えにしたい ○中区にあった「タダっぴろさ」を継承していく ・中区が西区のようなまちになってほしくない ・元々の中区の風景を再評価したい。①本牧の海辺に広がっていた海の風景、②米軍住宅地のゆったりとした芝生の広がる風景というように、「タダっぴろさ」が特徴だった
海・みなと ○ふ頭の歴史を再発見でき、クルーズ船も呼び込む	○内港の各地区の役割分担を考えるべき ○かつての活力があった港の歴史を伝え生かしたい。港湾荷役やだるま船は港らしい風景だった ○「みなと」を親しめる場所にしたい ○物流、海運の活動を何らかのかたちで伝えていけるとよい ○ディズニークルーズを呼び込めると人気になる ○思い切ってベイブリッジを海底トンネルにして大型客船を内港まで呼び込むようにしたらよい
緑・環境 ○災害時の拠点や予備スペースとしても機能する場所を残す	○この地区には現在は緑がない ○万一、災害があったときには、避難、復旧の拠点にもできる ○予備の土地として、仮設住宅などを建てる場所を残しておくことも大事 ○ただし、津波の時は別の場所を考える必要がある
○屋根付きドーム、スタジアムの検討	○屋根付きドームやスタジアムもあれば、災害時の避難や活動に使える ○みなとみらいがすでにIR的な場所(大規模なMICE施設など)なので、あえてまたここに作る必要はない
○学生寮などに住む人がいるまち	○地区内に住んでいる人がいるまちにすることが、お店などを成り立たせるためにも必要 ○マンションは億ションになってしまうので、学生寮がよい。国際的な学生寮とする。非常時災害時の収容施設にも転用できる ○大学本体はもっと落ち着いたところで学んで欲しいという考えもある

《グループで話し合うテーマ》

みなとみらいとは異なり、地域の風景やみなとらしさをひき継ぐ、ゆったりとしたいやしのある環境づくりを中心に、市民のための公共的な場所づくりを検討する。

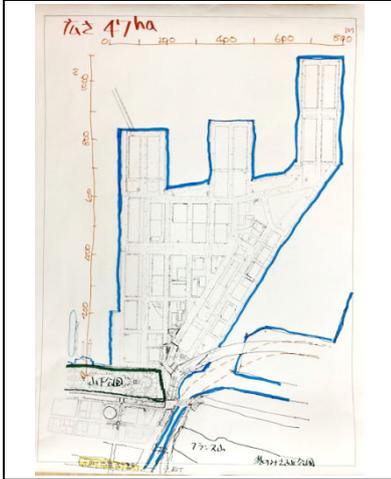
イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
----------------------	-------------	-----------------

<p>「ただっぴろばを中心にした癒しの場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○円形の広場。直径 450m の芝生。 ○周りは並木、緑で囲む。 ○大規模な屋外ライブができる。 ○サーカスも呼べる。 ○海沿いの区が集まって開催する臨港フェスティバル。 ○若者がアーバンスポーツを思い切りできる場所も用意。 	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜都心には大きな屋外での催しができるスペースがない ○音を出してもよい場所 ○港の花火大会も楽しめる ○周りの学校がグラウンドとしても使える ○円形並木で印象的な風景を作ることができる ○海辺の条件で植える木には制約があるが、山下公園の大木のように魅力ある緑も育てていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○建物がないスペースこそ魅力的なものになる ○屋外スペースの方が使い回しができる ○さまざまな交流の場になる。特に若い人たちを惹きつける。若い人たちとの交流に期待したい ○災害に備えたスペースとしても有効
<p>「三つのピアに三つの魅力施設を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案として、例えば ピア①水族館 ピア②大きな温室 ピア③食の博物館＋スパ ○他のアイデアとして 港湾の歴史のミュージアム 「港の駅」のような食の施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ほどほどに人を呼ぶものがよい ○水族館は癒しの場でもあり学習の場にもなる。八景島は民間施設でそれと違うもの ○横浜には特徴ある緑や果樹もある(浜梨、梅) ○ハマの農産物を知ってもらうとともに、全国との交流の場にできる ○横浜に港湾の歴史に関する総合展示施設がない。(郵船や日本丸ドックパークとは違うもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本、市が作って財産になるものを残すという考えである ○手頃な料金で利用できる市民が楽しめる施設にする ○道の駅(港の駅)のような公設の場所があれば、民間ではやりにくいマルシェやシェフを集める活動もでき、発信力がある
<p>「水族館とともに海辺に親しめるダッシュ海岸のような場づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いわきの水族館のように海辺の親水スペースと一体になった水族館 ○階段で水に親しめる護岸 ○市民が入れる砂浜、磯、岩場。生き物を観察できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○癒しの場、学習の場として海辺を生かして魅力的。 ○大水槽のようなものでなく、海の生物を保全増殖するとか、そこで魚を食べられるとか、新しい水族館の姿を追求していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ダッシュ海岸のようにすれば、子どもも大人も楽しんで学べる。
<p>「ディズニークルーズの寄港」(情報を確認して検討する必要がある)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ディズニーの方針で、カジノがない魅力的な港を選ぶので、呼べる可能性がある。シンガポールのような港には行かないので 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界的にも人気のあるクルーズで注目したい ○経済効果は大きい
<p>「ドローンタクシー」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○羽田からアクセスに使えるとよい 	
<p>「民間に任せきりの開発にはしない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○この地区では、民間でできないことを公共で進めることが基本だろう 	<ul style="list-style-type: none"> ○市としての検討の進め方を打ち出すことが必要

	○常にいっぱいの人に来ないと成り立たないようなもの、維持できないものにはすべきでない	
--	--	--

《施設配置・空間イメージ等》

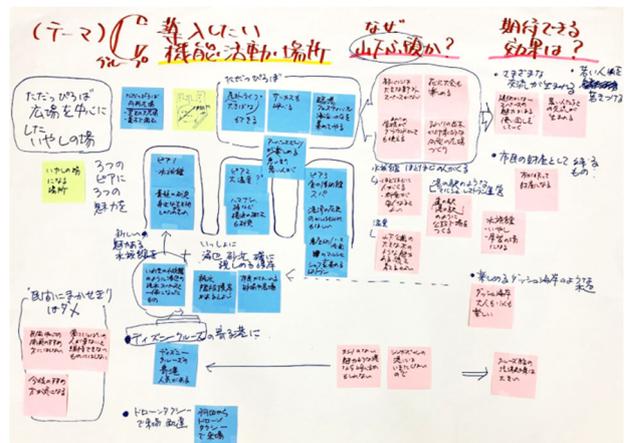
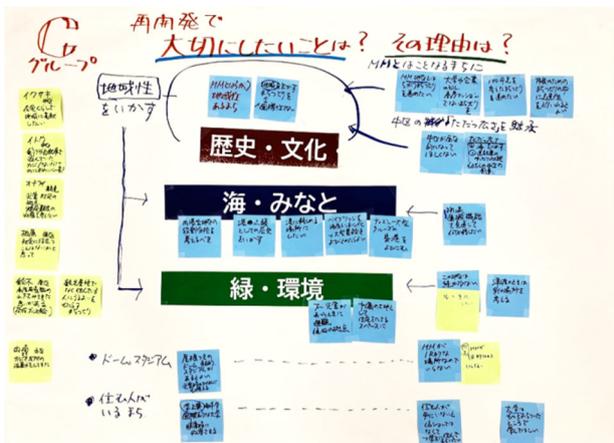


※スケール感は確認した。メンバーのひとりより直径 450m 円形広場と三つのピアへの施設配置イメージ図が提示された。それを地図上に落としてみんなで検討するまでには至らなかった。

ウ ファシリテーターからのコメント (林一則)

- メンバーに、カジノ反対の活動をしていた方や、港湾の歴史に思い入れの大きい方、中区の地元を愛する方がおり、広域的に過大な集客を期待するというよりも、地域にとって貴重な広がりのあるスペースを生かしたい、ほどほどに人が来るものという方向での検討になりました。
- 計画イメージ図を作成してこられた方の提案をベースにした検討が中心となりました。横浜らしいもので、手頃に利用でき、次世代に向けてどう考えていくかの検討は必要という声がいくつか出されました。年齢の高いメンバーのグループだったため、若者や子どもたちの声も確認すべきだろうとの話も出ていました。
- 開発事業の進め方について、誰がどのように作り、どうやってお金を回していくのがよいかとの投げかけもして見ましたが、それに対して、基本民間任せにはせず、市が民間ではできないことにこの土地を使っていくべきだとの考えが聞かれました。

《模造紙》



D グループ（ファシリテーター 小泉瑛一）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	○大切にしたいこと→▲大切にしたい理由→★譲れないこと
海	○位置(海に囲まれていること) 周囲の海を活用 ○横浜のシンボリック役割→国際性 ○国際性 緑・海 ▲いざというときに(災害発生時など)使える ★シンボルである→横浜といえば海
港	○北半分を公園の延長、南半分を埠頭(ピア) ○港文化の継続性 ▲どんな防災を行う? ▲予防としての減災 ▲防災船着き場 ▲減災・防災
文化・教育	○市民のため ○時代の転換点→歴史的使命→知的拠点→コンセプト「文化公園」 ○大学を中心とした文化施設ゾーン ▲知的牽引、横浜市の実策総合化、関連人口の増加(通りすがりではなく)、都市計画上最適の施設 ▲八景島を文教地区に ▲文化(知)、市民の成長 ★チャライものにはしたくない ★どっしりしたものにした ★儲けを主眼には置きたくない
子ども	○子ども用の広場 ○子育ての交流 ▲維持管理できる ▲明石市の子ども政策を参考に ▲教育に力を入れている都市に人が集まる ★若い世代の交流→周辺にもいい影響
交流	○国際交流、学び ○ヒト・モノ・コトの交点 ○人と人との交流 ○つながる、つなげる場 ○ハマを中心にインヴォルヴする ○東京・千葉・伊豆…の中心に横浜がなる ▲コンセプトとフィクションが無いから ▲ポンピドー・センターのような文化拠点 ▲エリア構想がないため→横浜沿岸構想 ★経済活動→すべての原資が必要

	★将来の支出を減らす
山下ふ頭への思い	○山下ふ頭に関わりのある方々の思いを大切に(保税地区) ▲横浜 18 区生活圏との乖離 ▲情報・イメージの共有化 ▲市は誰のために決める？ ▲決めるのは誰？何のため？
市がイニシアチブをとる	○最初に市が作るべき物を決めること ○先行事例を参考にすること ▲視点を広げる ▲既存市街地・商業地の活用 ▲高級住宅(マリーナ付き)→富裕層を呼び込む ▲横浜市大病院の誘致、移転 ▲最初に市が作るべきものはなにか

《グループで話し合うテーマ》

グループで一つのテーマを話し合うように集約していません。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
○ゾーニングは必要 ○中心部と周辺部(散歩道)		
「文化教育・研究機能」 ○大学(中核) ○国際図書館、平和博物館、ホール(音楽、演劇) ○図書館→幅広い世代向け ○文化公園 ○滞在型研究施設、国際学生寮 ○野外音楽堂、オペラハウス ○ロボット&AI プラットフォーム開発センター ○教育・子育ての情報集約	○広くて海に開けていて開放的 ○既存市街地とつながっている、近い ○根岸、磯子、本牧など他地域との広域的なつながり	○文化の促進 ○ボストンの学生街(平均年齢 27 歳) ○学生が遊ぶ場所が生まれる ○伊勢佐木町の書店が活性化する ○若い人のエネルギーが集まる
「医療・健康」 ○横浜市大病院と福祉、医療	○市有地があるということ→横浜市民の財産	
「船着き場」 ○防災船着き場機能 ○船が接岸できる機能の維持 ○海の駅 シーバス 山下→晴海→幕張の行き来など	○山下ふ頭だから ○エリアのもつシンボル性	○高速船で外洋に出る ○交通利便性が向上する

<p>「広場・緑地」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑がある公園 ○何にでも使える広場 ○構造物は不要 	<ul style="list-style-type: none"> ○モノではなくコト ○平らな土地 ○横浜市としてのビジョン、思いが大事！ 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体が公園になっていて、その中に施設が点在する ○山下公園の延長
---	--	--

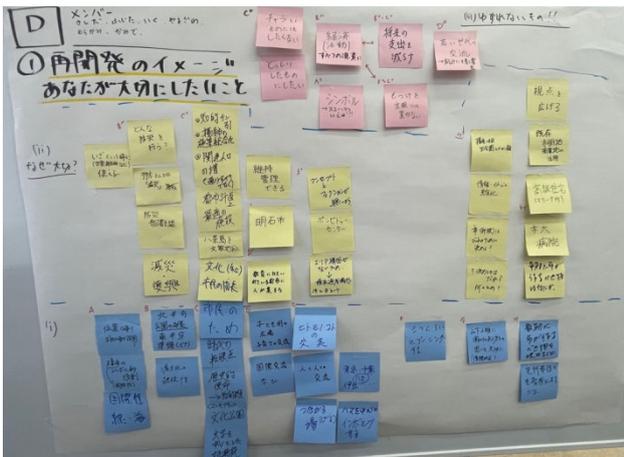
《施設配置・空間イメージ等》

※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

ウ ファシリテーターからのコメント (小泉瑛一)

- 「市が何を作るかまづは決めるべき」や「コンセプトやビジョンが無いことが問題」と提起される方もいて、何をつくるかの内容の是非はともかく、市有地の使い方を横浜市がまず示すということは大事だと思いました。
- 大学の誘致や文化施設の誘致、新設という案は共感を集めていました。一方で、何かしらの新しい建物は不要という声もあり、使い方をはっきりと決められないという率直な意見がありました。
- 収益性が大事と主張する方もいれば、収益性は二の次で市民に開かれていることが重要という方もおり、何をもって「市民のための開発」と定義するかは難しい問いだと感じました。

《模造紙》



(5) 第5回 (2/5) 市民意見交換会 各グループとりまとめ

Aグループ (ファシリテーター 林一則)

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
市民のための再開発 「若者を中心に人材を集めて育てるまちづくり」	<ul style="list-style-type: none"> ○若者中心に人材を集めて育てる ・大学のまちにすることで世界から学生を集める ・スタートアップや発信ができる。 ・ユニークな海上キャンパスを実現ができる ・人材育成 大学、ものづくり、農業・漁業・林業の人材を育てたい ○人口を増やそう。定住移住する若者を呼び込みたい ・若者も再開発を自分のためのこととつなげて考えていきたい ・自分一人ひとりのことを考えてくれるまちのモデルとして最先端の横浜であってほしい ・人口減少、街の衰退を止めていく動機付けにつなげたい ・住み続けたいまち横浜のきっかけになるまちづくりを望む ・訪ねて楽しむまちより、移住定住地としての横浜を目指す ・若い世代を呼び込み、移住定住を増やしていく
市民のための再開発 「市民に寄り添う、市民中心の計画、事業の進め方にしたい」	<ul style="list-style-type: none"> ○市民中心の計画、事業の進め方にしたい ・税金を使わない山下埠頭の開発を進めたい ・企業誘致に金を出すのはやめたい ・市民合意、市民意見反映の進め方は大事。企業などからの計画提案をもっと市民にオープンにしてほしい ・港湾で働いていた人の声も聞くべき ○子育てや環境を大事にする、生活実感に寄り添った市政の上で、開発を考えるべき ・子育てや防災に市政の重点を置くのが市民レベルの課題 ・個人市民税 49%、法人市民税 5.8%であり法人税が少ない ・企業誘致のための税金の使い道をやめて市民生活(給食、学童)を豊かにする ・みなとみらいでは多額の借金に苦しんだ。そのため子どもの医療、保育所などが大幅に遅れている
海・みなと ×先進性 ×緑・環境 を組み合わせ 「ハコでなく環境でオンリーワンを追求」	<ul style="list-style-type: none"> ○一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何もないオープンな場所を作りたい ○オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい ○海洋研究の場にできることがオンリーワンになる ○前回は、海上に実験農園がよいと考えた ○地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる ○持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている ○平和を考える。ノースドックが目と鼻の先であり、戦の船が増えている

《グループで話し合うテーマ》

市民の目線でのまちづくりを基本にして、横浜の将来を担う若者を惹きつけて育てる、「海・みなと」や「緑・環境」を大事にした「先進的」なオンリーワンのキャンパスタウンづくりを中心に検討してみたい。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p>「海上の大学まち、キャンパスタウン」</p> <p>○海上からのアクセスも実現したい</p>	<p>○オンリーワンの土地をユニークに使うべき</p> <p>○多くの学生が使う水上アクセス、シーバスならば実現できそう。羽田とも結ぶ</p>	<p>○他にはないまちづくりになる</p>
<p>「大学キャンパス たとえば世界一の海洋大学」</p> <p>○ワールドクラスの先端の大学</p> <p>○海上キャンパス</p> <p>○先進的な環境であることを打ち出して、世界からコンペで提案(研究や教育の分野、キャンパスづくり)を募る</p> <p>○海に関わることは広い分野がある。環境、水産、物流、エネルギーなど広がるはず</p>	<p>○先端的な大学にとって他にない素晴らしい立地といえる</p> <p>○世界的にも課題になっている港湾地区の転換をグローバルに考える知の役割を担える</p> <p>○海辺ならではの技術開発、交通の分野、環境への取り組みに取り組める</p>	<p>○知や環境を大事にする市のまちづくりの方向性、姿勢をアピールするとともに、世界からの呼び込みができることよい。市の価値もあげる</p> <p>○お金の問題も含めて提案を募る。投資を外から呼び込む取り組みになる</p> <p>○学生が集まれば経済効果は大きいはず</p> <p>○次世代の横浜を担う若い人たちの移住定住を促す。大学時代から横浜ファンを増やす</p>
<p>「市民にひろく開かれたキャンパスタウン」</p> <p>○他の人も訪れることができる研究施設、研究の場</p> <p>○市民が生涯学習もできる</p> <p>○水辺カフェや地産地消のフィッシャーマンズワーフのようなもの</p> <p>○キャンパスを散歩ができ、食堂も使える</p>	<p>○美しい景観を生かせる</p>	<p>○市民が先端の取り組みにも触れることができる</p>
<p>「環境への取り組みがある水辺のキャンパス」</p> <p>○市民が関われるサステイナブルな場を併せて備える</p> <p>○都会のビル型ではないマルチキャンパスに</p>	<p>○こんな都心なのに、こんな鳥が来るというような環境をつくりうる</p> <p>○再生可能エネルギーやゼロエミッションなどの環境への取り組みも進めやすい半島状の土地である</p>	<p>○海洋分野は今後有望。他にあまり取り組んでいない</p> <p>○さまざまな分野からの投資を呼び込める可能性が広がる</p> <p>○みどり税はいつまで続くのか含めて、負担と効果を検討したい</p>

<p>○ひょうたん島のような緑の丘をつくる</p> <p>○多様な生物が育つ人工干潟。</p> <p>○根元を水路で切り離せると、関内関外一周水上ルートができる</p>	<p>○エネルギー、環境、港(これからの水上交通や海運)に関わる実験には向いている</p>	
<p>「住まいの導入も検討したい」</p> <p>○マチヤの提案(山本理顕)も興味深い。</p>	<p>○居住者がいることが、まちのサービスや人を呼ぶことになる</p> <p>○津波の時の安全は考慮する必要がある</p> <p>○臨港地区の制約を変えないと住宅は難しい</p>	<p>○まちには最低限の生活施設は必要であり、それを成り立たせることにつながる</p> <p>○周辺の市街地の火災の時の避難場所にすることを考えると居住地としての街であることも適っている</p>
<p>「企業提案のイノベーション拠点提案とは性格が異なる市民目線のまちづくりを追求」</p>	<p>○ハコもの中心のまちづくりから脱却したい。キラキラ施設は周りにもうたくさんある</p> <p>○市の土地に、ビジネスに走るような大学や施設は断りたい</p> <p>○大学法人は一般に土地を持つだろうが、土地処分や賃借のあり方はよく検討したい</p>	<p>○キャンパスタウンといっても、企業提案にあるようなイノベーション拠点づくりとは違う方向があることを追求すべき</p>

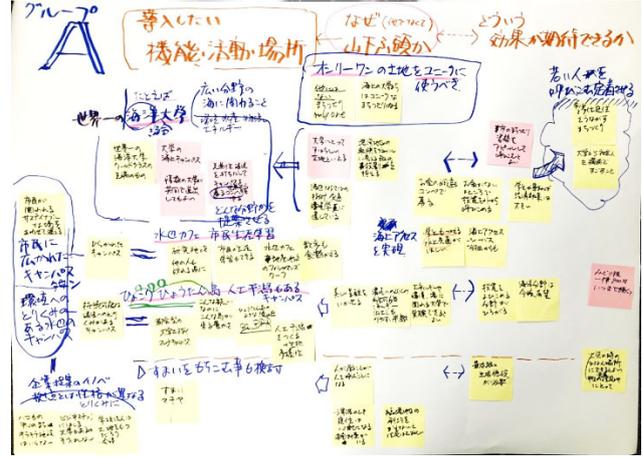
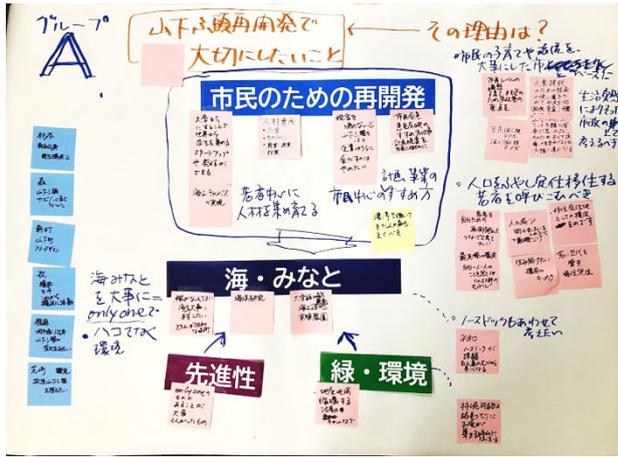
《施設配置・空間イメージ等》

※施設配置イメージやゾーニングを地図上に落としてみんなで検討するまでには至らなかった。

ウ ファシリテーターからのコメント (林一則)

- 市民目線、ハコもの脱却という指向の方が多く、それをベースにした土地利用を探る議論となりました。そのなかでワールドクラスのキャンパスタウンづくりを提案される方がいて、それを中心にした話し合いとなりました。
- これまでにない大学の姿を世界レベルで募るコンペをおこなえる場所の魅力があり、市民の負担がなく世界に誇れるものができれば、知や環境を大事にする横浜市のマインドをアピールでき、若い優秀な人たちを横浜に定着できるとの仮説が示されたと考えます。それがどこまでのフィージビリティをもつかは検討必要ですが、一過性の楽しみや集客でなく、次世代のためのまちづくりを考えたいとの方向での検討になりました。
- 公開された、企業からの提案の中にも、イノベーション拠点のキャンパスタウンづくりがありましたが、それはやはりビジネスチャンス指向であり、市民が求めるものからは離れていくという感覚をもたれていたようでした。稼ぐというより、ここに税金を投入しないという考えをにじませた方が多かったです。
- その他、住宅の導入、山下公園との間に水路を開削したいといった話も出ましたが、これらは十分な検討はできませんでした。

《模造紙》



B グループ（ファシリテーター 岡村 竹史）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
税収の増加	<ul style="list-style-type: none"> ○国際競争に勝ち抜くために、税収入を増やすことが必要 ○他の自治体に比べて、法人税が少ない。税収が少ないと市民生活に影響が出る。法人を呼び込むことが必要 ○税収が増加すれば、それは市民の行政サービスに還元される(例: 中学校の給食等)
エンタメ・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○外から誘客することで、手軽に収入を得ることができる ○ポイントは、継続的に人を集めること、常時使えること(例: マルチコンサート会場) ⇒人が来なくなると最悪。横浜ベイスターズも苦勞してやっと顧客を確保できた。リスクがある(否定的な意見) ⇒したがって、コンテンツが大事 ○周囲に遊園地はあるが、山下ふ頭にも遊べる施設を更に作っても良い。幅広い年代が遊べる施設が欲しい
観光・MICE	<ul style="list-style-type: none"> ○MMの会議場は規模が小さいので、もっと国際的なものにする必要がある
歴史・文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ○「横浜」の名前の由来(横に長い浜)をアピールしたい ・埋立地だが、歴史を感じさせる施設を作りたい ・周囲に歴史・文化・芸術施設はあるが、もっとあっても良い
交通	<ul style="list-style-type: none"> ○海に囲まれた立地は良いが、交通アクセスが悪い ○集客施設にするなら、交通の整備が必要
国際性・非日常性 × 先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○企業や大学とのイノベーション ・事例: 川崎キングスカイフロント ・MM新高島では企業誘致がうまくできている(特区、税制優遇、国家連携)
先進性 × 緑・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要 ・具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備する ・それが税収増にもつながる
市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少に備え、市民になりたい人を増やすことが必要 ・市民になると使える施設を整備する ・そこには、他では得られない風景や体験がある
海・みなと	<ul style="list-style-type: none"> ○立地・特性をいかす ○海のイメージが強い、海との関係を大切にしたい
主軸、ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ○主軸を何にするか、選択することが必要 ○ターゲットは市民なのか、外部者なのかを決めることが必要 (現状は、市民にとっては交通アクセスが悪い)

《グループで話し合うテーマ》

テーマを絞ることは難しいと判断し、特にテーマは絞りませんでした。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
<p>「エンタメ・スポーツ」 「観光・MICE」 ○テーマパーク ・ポケモンの常設テーマパーク(横浜と縁がある) ・飽きられないように、期間限定のコンテンツにする ・テーマを固定せずニーズに合わせて流動的に(リピート客でなく新しい客を常に迎える) ・米軍をテーマとして利用する ・海のイメージが出せると良い(でも水族館ではない) ・遊園地 ・宿泊施設</p>	<p>「場所の特性」 <ネガティブ> ○市民が気軽に来られる場所ではないので、来街動機となるテーマが必要 <ポジティブ> ○広い ○土地がフラット ○騒音を気にせずに済む</p>	<p>「中華街、元町との相乗効果」 ○テーマパークやスポーツ施設に訪れた人が、中華街で食事をしたり、元町でショッピングを楽しむ</p>
<p>「エンタメ・スポーツ」 「観光・MICE」 ○スポーツ施設 ・誰でもいつでも使える(市民もプロも) ・いつでも使えるためには全天候型の屋内施設とし、開閉式の屋根とする</p>		
<p>「エンタメ・スポーツ」 「観光・MICE」 ○フィッシャーマンズ・ワーフ ・横浜中央市場が老朽化しているので、移転する ・食のテーマパーク</p>	<p>○船を利用できる</p>	<p>○観光客だけでなく、市民も楽しめる</p>
<p>「住宅」 ○21世紀型の持続可能な住宅 ・徹底的に環境に配慮した街をつくる(ごみゼロ、エネルギー循環等) ・ありとあらゆる快適性がある ・災害に強い住宅 ・六本木ヒルズのような富裕層向け</p>	<p>「場所の特性」 ○ゼロから街づくりができる ○提案型の街ができる ○地権者が少ないので、大規模開発が可能 「住宅事情」 ○今は、住宅は内陸部しかないの</p>	<p>「世界へのアピール」 ○視察者や研究者が集まる ○アーティストは感度が高いので、情報発信能力に長けている ○住宅モデルとして市内に展開できる</p>

<p>ではなく、そこそこ手が届く価格帯</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アーティストインレジデンス ・最初のトリエンナーレのように、街の中にアートが点在する(今のホワイトキューブ型でなく) ○基本は定住だが、様々な人が最先端の住環境を体験できる機能も一部に備える(コンドミニウム等) ○観光・エンタメ施設とはゾーニングが必要 	<p>で、港の先端に住宅を用意することもある</p>	
<p>「景観」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シンボリックな建物 ・写真を撮りたくなるようなお洒落でシンボリックな景観が必要 ・貧素なイメージはNG 	<p>「海側からのイメージ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海から観光客がやってくる ○玄関口としてのイメージが大事 ○MM側からの眺めも大事 	<p>「シビックプライドを育む」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ランドマークタワーに継ぐシンボルとなる ○ブランド価値を高めることができる
<p>「歴史・文化・芸術」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北斎の浮世絵「神奈川沖浪裏」の風景が感じられる施設(美術館等) ○アート施設 ・天候と一体化するようなもの ・例えば、雨天時には雨天ならではのアート体験ができる 		<ul style="list-style-type: none"> ○街の人も楽しめる
<p>「研究施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○たくさん企業 ○大学 	<ul style="list-style-type: none"> ○広い土地がある ○港があるので海外から人を呼びやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○税収増 ○多くの通勤、通学者が集う
<p>「交通」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部からふ頭までのアクセス ・地下鉄の延伸 ・水上交通…市民ではなく、来街者の利用が想定される ・シャトルバス ・LRT 等 ○ふ頭内での交通 ・レンタルセグウェイ ・自動運転 ・水素バス ・駐車場 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○アクセスが悪い ○交通網が整わないと何も始まらない 	

《施設配置・空間イメージ等》

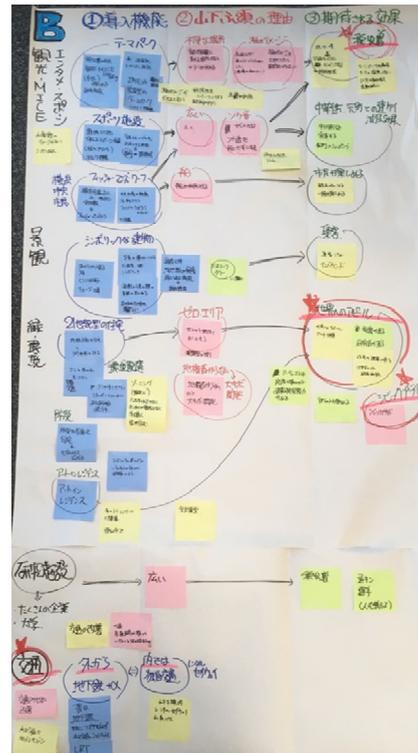
※少し議論をしましたが、まとまった意見に至らなかったため、模造紙はなしです。

- ・エリア全体をテーマパークとする
- ・3つの突端部分は、海を楽しめる観光ゾーンとする、あるいは、企業の保養所とする
- ・内側は、研究所・大学、スポーツ施設、住宅とする

ウ ファシリテーターからのコメント (岡村 竹史)

- <1.再開発のテーマ>では、多様なテーマに関心が割れました。「主軸を何にするか、選択することが必要」との認識は参加者の中にはありましたが、私は短時間でそれを決めることはできないし、後半の議論に時間を割いた方が良く判断し、テーマを絞ることは意図的にしませんでした。
- <2.導入機能等>のまとめをする中で、改めて「大切にしたいこと」が発見されました。「大切にしたいこと」と「導入機能等」は行ったり来たりしながら考えを高めていくこともあると感じました。●ワークショップらしく、みんなで議論するという雰囲気はありました。①税収増、②世界へのアピール、③交通は、皆さんの合意点(大切にしたいこと)であったと思います。

《模造紙》



C グループ（ファシリテーター 角野 渉）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭は横浜への影響力も大きく重要な場所のため、もっと時間をかけて進めるべき ○マスタープランの見直しも必要になっているのではないか ○何を作るか決められてない中で、期限だけが決まっていることに違和感
緑・環境 海・みなと	<ul style="list-style-type: none"> ○海があるので、海を大切にしたい ○魚を育てて食べられるなどできたら良い ○既存の環境や施設を資源として利用することで環境負荷が小さい開発に ○国内物流を支える 5000 隻の内航船が航行する現状に対して、それらを受け入れる設備がある港は少ない ○非日常的な元の港のイメージを残しながら、新しい価値創造によって更新する
観光・MICE 国際性・非日常性	<ul style="list-style-type: none"> ○アジアから若者たちが集まる場所にしたい ○横浜のシンボルとなる大きな施設がほしい ○既存のまちの魅力を壊すオーバーツーリズムにも配慮する必要がある
歴史・文化・芸術性 市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の施設を利用することで埠頭の歴史を継承 ○50 年後、100 年後の未来の子どもたちのためなるもの
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○情報化の進展と産業の発展に繋がってほしい ○世界に開かれたもの出ないとグローバル化に対応できない
エンタメ・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○近くにすでにあるようなものは作らないでほしい ○みなとみらいや新港パークはファミリー志向が強いため、非ファミリー志向のエンタメが良い

《グループで話し合うテーマ》

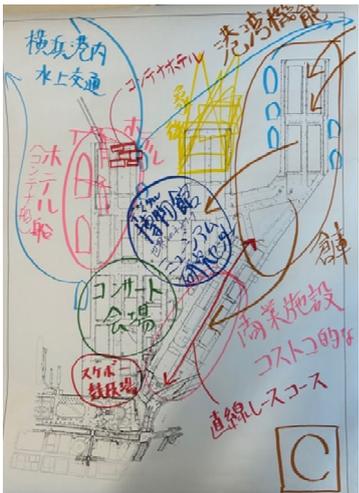
テーマは多岐に渡り、前半の議論をそのまま引き継いで、それぞれについて具体的な導入機能について話し合うことになりました。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
海という資源を活かす施設 ○魚の養殖&魚が見れる水族館	海があるので、目の前の海で育てた魚を食べられる	海を大切にしようという意識を育てられる
内航船が立ち寄れる施設 ○港湾施設のスケールを活かした商業施設（コストコなどのような大型スーパー、冷凍倉庫をそのまま使えるような生鮮売り場） ○宿泊施設（コンテナを活かしたホテル）	横浜の中心部で内航船やそこで働く人の姿を日常的に見ることができる	内航船に人気の港となる 内航船は国内でも重要な役割を担っているが、なり手が減少してきて業界は危機的状況にあり、将来的に内航船の船長など、船に関わろうとする子どもたちが増える

○倉庫(積み下ろし、荷捌きの機能も保存する)		
船への新エネルギー供給施設 ○水素などの新エネルギー供給施設	多くの内航船が出入りできる船は新エネルギーの動力に切り替わり始めているが、新エネルギーの供給拠点は国内にほとんどない	新しい時代の船舶が出入りしやすい環境が整備された港となる
○海洋、港に関するテクノロジー発展の拠点		
DX×AI技術 ○デジタルアーカイブ	世界に向かって開かれた場所であり続けるため	先進的な技術や情報が集まる場所となる
既存資源の利用 ○コンテナ船を利用したホテル ○コンテナを積み上げたホテル ○倉庫の利活用	港として使われてきた歴史を持っている みなとみらいなど周辺の宿泊施設は高い	港の歴史を感じる部分を残すことができる 来た人もコンテナになって流通するような体験ができる 安く泊まれる場所を中心部に作ることで、様々な背景の人が滞在できるようにする
○市民が育てる公共施設		
教育研究施設 ○デジタル博物館 ○VRをつかった世界旅行体験 ○全学校とのネットワーク構築 ○横浜の歴史を学べるコンテンツ ○デジタルアーカイブの構築	広い敷地があること 横浜の中心部にあること 異文化の玄関口であること	文化コンテンツが集積し、デジタルアーカイブが構築されることで、知の殿堂を築ける 学校とのネットワークを生かし、未来の子供達へ教育プログラムを発信できる
飲食で世界を感じる ○倉庫を屋台に改造	魅力的な倉庫がある	倉庫の中の屋台が集客
○水上交通拠点	横浜港内を行き来しやすい場所にある	横浜港や川を使った交通がしやすくなる
スポーツ施設 ○スケボー競技場 ○直線レースコース	街中にはない広いスペースがある	スケボー競技の名所が生まれる 世界でも珍しい、街の中心部で自動車レースができる場所が生まれる
シンボル ○とにかく目立つような施設	“横浜といえば”でイメージできる施設がない	横浜を象徴するような建物が生まれる

《施設配置・空間イメージ等》



○山下公園側から、市民が利用できるスケボー競技場→コンサート会場→博物館、研究施設

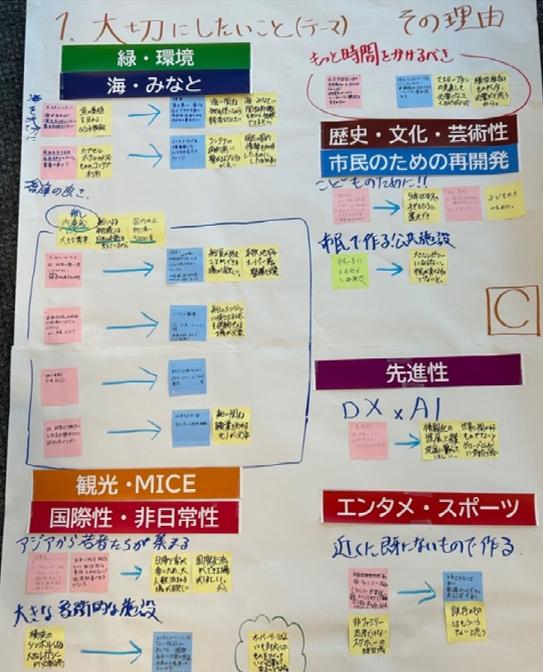
○東側岸壁に沿って商業施設や直線レースコース、突端は港湾機能を残したい

○みなとみらい側にコンテナ、倉庫を活用したホテル

ウ ファシリテーターからのコメント (角野 渉)

- 全体的に議論は多岐に渡り、一つの収束を得るということはありませんでしたが、大きなスケールのマップを使用することで、それぞれのメンバーが必要と感じる施設の大きさや位置について議論を具体的に進めることができました。その結果、全てのコンテンツは排他的にならず、複合用途による一体開発というイメージが共有できたように思います。
- デジタルコンテンツは面積の要らない機能ですが、それをリアルなコミュニケーションと共に活用する際には、それなりに面積が必要になります。どのような展示なのか、競技場なのか等、どのようなリアルコンテンツにするか、という議論にまで踏み込みたかったところ時間切れでした。
- 「内航船」という具体的な業界の状況がシェアされたことにより、一般利用と港湾利用のハイブリッドというモデルが生まれたのがこのグループのもっとも特色あるところでした。

《模造紙》



1. 大切にしたいこと(テーマ) その理由

- 緑・環境
- 海・みなと
- 歴史・文化・芸術性
- 市民のための再開発
- 先進性
- DX x AI
- 観光・MICE
- 国際性・非日常性
- エンタメ・スポーツ



2. 導入機能

港のイメージを活かして

Yokohamaのシンボル

内港船の立ち寄り

水交通

複合施設

D グループ（ファシリテーター 佐藤 宣章）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたいこと	理由
先進性	世界に向けた日本のシンボルとしての横浜であり続けてほしい ○日本のシンボルであること(かつては開港・西洋文化) ○サイバー文化、メタバース文化、デジタル最前線	○横浜開港のイメージ(=先取り)の再生のため ○世界の中の都市として位置づけるため(かつて大戦前は世界2位の金融取引、世界一の港)
	友だちに横浜を案内、自慢したくなる魅力があると良い ○友だちを横浜に案内したくなる場所へ ○国際性、知的イメージをより伸ばし、イメージアップすること	○横浜の歴史や現在の魅力ある場所を
	横浜の成長につなげたい ○横浜の成長につながること	
	一流のもの、洗練されたものが集まる場所に ○一流のものが集まる場所	○他都市とかぶるため
	世界・東京千葉と競える ○都市間競争力の強化	○持続的な発展のため
	専門人材の滞在時間が増えてほしい ○専門人材の滞在時間	○アクセス、将来性を考えて税などで成長するため ○横浜が大好きなため
市民のための再開発	人口減少に備えて 15～64 歳くらいの生産年齢人口が増えて欲しい ○生産人口の確保、増加	○横浜市は 2021 年よりも人口が減り、2065 年には生産者人口(15～65 歳)が 50%前半になるため
	山下ふ頭で得られたノウハウや人材、資金を地域にフィードバックする ○得られたものの地域へのフィードバック	○継続的な場の成長としてエコシステムが必要のため
	山下ふ頭では税収アップを目指し、市民の生活サービスを充実させる ○税収UP	○財政改善のため ○交通アクセスが悪いので、市民生活を維持するため ○住みたい街、訪れたい街のため

《グループで話し合うテーマ》

横浜の歴史を紐解いても、港まちである特性を活かして、「開港＝時代の先取り」をしていた背景があるため、世界に向けた日本のシンボルとなるための「先進性」と、市民が気軽に訪れやすいアクセスではないため、憩いや生活サービスを市内で展開するための税収アップを目指した「市民のための再開発」をテーマに検討

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ山下ふ頭なのか?	どのような効果が期待できるか?
世界共通の課題に応えられる機能 ○グリーン水素先端研など	○世界共通課題であるため(横浜の先進イメージ) ○海外からの訪日 ○留学 ○セントレア空港的コンセプト	○海外からの訪日 ○学生の「なりたい像」への具体像になる ○若者が横浜を目指す
世界 No.2 の金融都市を目指したスタートアップ支援機能 ○画期的な事業をする企業のスタートアップの地(税込軽減するなどセット) ○金融都市 ASIA の CITI に	○横浜正金銀行があるなど世界 No.2 の金融都市であったため ○金融技術都市	○海外からの訪日 ○スタートアップ起業
アクセス・居住・発信力を活かした専門人材の活動拠点 ○先進的な研究・実験をする施設・企業・研究所 ○海、車・バス、空などバツグンのアクセス性 ○環境・24 時間都市などバツグンの居住性 ○バツグンの透明性と発信力	○専門人材がそのテーマに没頭できる環境なため ○関連産業の育成のため	○人材と人口増 ○収入増
学びから働くまでを横浜で一貫させた機能 ○世界的にメジャーな大学 ○国際性のある大学	○まとまった土地があるため ○産官学連携 ○山下ふ頭に直接人を呼ぶのではなくイメージで引っ張るため ○従来の横浜のイメージとの相乗効果で高めあうため	○人材流入 ○流出防止 ○まちのイメージアップ ○横浜に住む理由 ○横浜で働く理由 ○税込
外国からのゲストがきた時のおもてなし機能 ○ラグジュアリーなレストラン ○日本美術の館 ○ポケモンパーク	○景観 ○まとまった土地があるため ○原三溪の意思を受け継ぐため	○観光収入 ○多様な人が楽しめる(富裕層が楽しめる施設が少ない) ○世界から人を集める ○世界からの集客
市民では思いつかない新しい提案がほしい ○思いつかない施設	○立地的に市民がふらっと立ち寄るには不便でにぎわい施設には不向きなため	

《施設配置・空間イメージ等》

※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

ウ ファシリテーターからのコメント (佐藤 宣章)

- テーマ決めの段階では、横浜の歴史から「開港＝時代の先取り」をしていた背景があるため、世界に向けた日本のシンボルとなるための「先進性」と、市民が気軽に訪れやすいアクセスではないため、憩いや生活サービスを市内で展開するための税収アップを目指した「市民のための再開発」をテーマに検討することで、参加者の意見がある程度統一されていた。
- 導入機能については、市民が気軽に使えるものではなく、専門人材が集まり、世界的な社会課題を解決できるような機能が求められ、具体的には、学校・大学(学び)から企業(働く)まで一貫してこのエリアでできることが望まれ、横浜市優秀な若者の流出を止めたことや、若者に対して目指したい将来の姿をイメージしてもらうことなどが印象的だった。
- 他にも、山下ふ頭においては、市民が憩える公園のような空間づくりは避けたいというご意見があり、公園の管理に多額の税金がかかることを危惧している。また、税収アップにこだわることで、憩いの場などの市民サービスは市内の適した場所で展開してほしいなど、「憩いのための税収アップ」を目指すというご意見が印象的だった。

《模造紙》



Eグループ（ファシリテーター 小泉瑛一）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	▲大切にしたい理由→★譲れないこと
国際性・非日常性	▲日本の先進性のイメージを共有 ▲市の生き残り ▲財政の健全化のため(市債の発行額がとても多い) ▲横浜市に向けたふるさと納税
観光・MICE	▲修学旅行生や海外から船で到着した観光客がつまらなそうにしていた→楽しくてまた来たくるようにしたい ▲先進性とのリンク(ヨルノヨなどのように) ▲観光客が何をしたらいいのかわかりにくい ▲横浜に滞在してもらおう(今は通過して東京へ行っている) ▲お金を落としてほしい
先進性	▲大切にしたいみなとみらいのイメージがある ▲横浜＝実験都市(交通系実証実験など) ▲実際に行われている ▲それらを活用したイメージ戦略が可能 ★ブランディング(横浜としてどうしたいかを考えることが重要)
エンタメ・スポーツ	▲ラグビー・サッカー(の国際試合ができる競技場)→ラグビーW杯など世界からたくさんの方が来て楽しかったから ▲最先端設備→(例:ぴあアリーナMM) ▲歴史を確認する ▲何が自慢か? ▲そこへ行くと一つになれる ▲横浜発祥の価値を広めたい ▲フラットにアクセスできるということの希少性
市民のための再開発	▲特定の市民でなく、年齢に関係なく楽しめる場所として ▲市民から愛着がないといけない ▲倉庫群から市民のために ★収益・税収をあげること ★交通→生活者のため、観光客のため ★交通整理(横浜で貴重なフラットな土地。山下公園→山下ふ頭の道路がボトルネックにならないように) ★大型施設だけにしてほしくない!(山下ふ頭全体を収益性追求のためだけにしない) ★市民を置き去りにしてはいけない ★市民に還元すること ★テーマのない再開発(なんでも詰め合わせたような幕の内弁当的なものはダメ) ★アプローチが楽なこと。山から降りてくる人に ★敷地の一部しか使わないこと

安心・安全・健康	<ul style="list-style-type: none"> ▲超高齢化の 370 万人の人口 ▲交通インフラの弱さが原因で集客できない ▲超高齢化、少子化を逆手にとった戦略を ▲道路の広さが大事。狭いと危険 ▲事故がない→安全 ▲自動運転
----------	--

《グループで話し合うテーマ》

グループで一つのテーマを話し合うように集約していません。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
「憩いの機能」 ○野外イベントスペース ○山下公園から一続きの公園。花壇やベンチのある ○海に浮かぶことのできるリラクゼーションスペース		
「医療・サービス機能」 ○小児医療の入院している親子が泊まれる施設 ○医療系の大学(海外含む)の誘致 ○先進医療が受けられる全面オーシャンビューホテル ○横浜市民は無料の医療	○海洋医療に期待(ハイドロセラピー) ○都心部での更地は貴重なので可能性が大きい ○埠頭の新たな姿、価値	○海を見たい！という欲求に答えられる(北関東の人などに) ○老若男女集まる場所になる ○市民の健康が増進する ○医療費の抑制につながる ○未病の考え方
○海の博物館 横浜と海の歴史などを展示	○海に囲まれているから	
「泊まれる機能」 ○宿泊施設(観光客だけでなく) ○スポーツの合宿所 ○ペットと泊まれるホテル	○羽田からの利便性 ○東京から高速船 ○都市と埠頭の距離感	「収益・人口UP」 ○税金・人口が増える ○長期的に見込めるマネー ○スポーツ、屋外イベント、それに伴う宿泊 ○一般の人もお金を払うし、企業もお金を払う ○働く人が集まる→家族が集まる
「スポーツ・eスポーツ機能」 ○スポーツのテーマパーク ○スケートボード		新しさ=ヨコハマのイメージアップ ○新体験(希少性) ○新しさと文化の融合

<ul style="list-style-type: none"> ○合宿所、芝生、グラウンド ○性別、年齢、障害などのバリアフリーを取り入れた次世代スポーツ施設 ○世界中のプレイヤーが集まるような e-sports 施設とホテル 		○街としてのブランディング
<p>「交通機能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シーバスを含めた海の交通とそのターミナル ○全自動シャトルバス or シャトルカー ○動く歩道のネットワーク ○無料電動自転車 	「なぜ山下ふ頭でなくてはいけな いか？」ということについては明 確にはわからない	
○滞在型火葬場と葬儀施設(横浜 に火葬場少ない)		

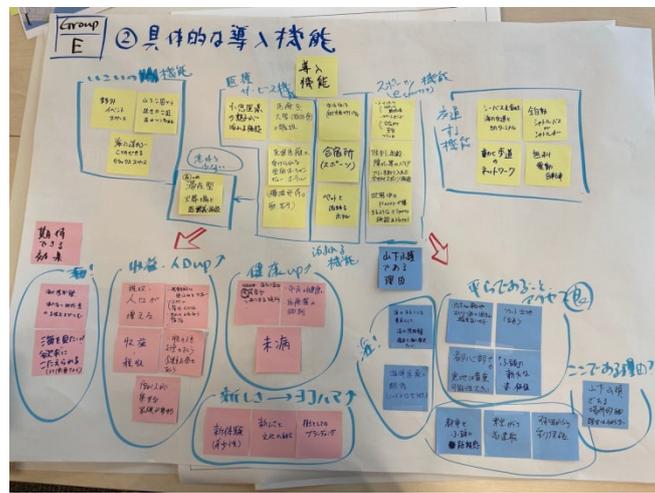
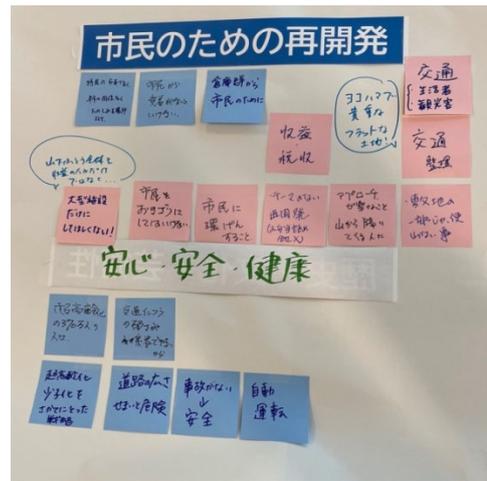
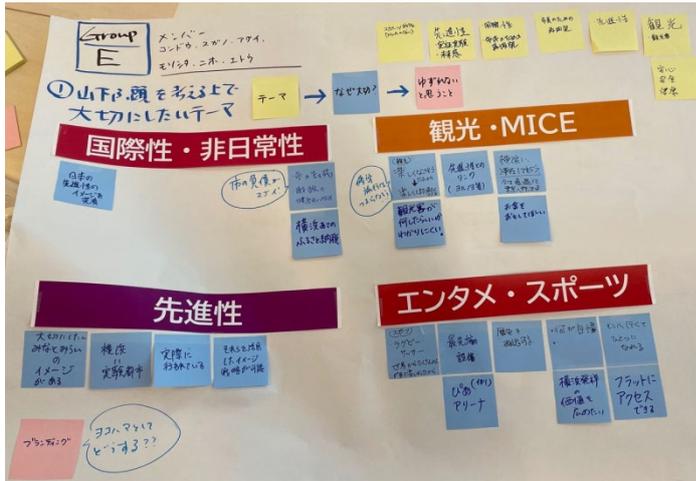
《施設配置・空間イメージ等》

	<ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭と連続する公園(関内地区とも連続) ○ふ頭を回遊するモノレール、海をまたぐロープウェイ、海上交通など
--	--

ウ ファシリテーターからのコメント (小泉瑛一)

<ul style="list-style-type: none"> ●海外居住経験のある方や、現役/リタイヤ世代、ジェンダーなど多様な人達がバランスよくいたグループで、創発的な議論ができたと思います。 ●重要な要素を深掘りすると、異口同音に「市民のための計画」が重要であるとみなさん意見を出してくれました。市民を置き去りにしない、市民のためのものである、ということがグループの一致した見解でした。 ●導入機能に関しては、医療ツーリズムなども見据えた海外大学病院の誘致や、それらに付随する宿泊機能やサービスを入れ込むことで、市民の健康増進と税収 up、就労機会 up などの意見が出ました。 ●スポーツ合宿に対応したグラウンドや屋内練習場、そのための宿泊施設なども議論されました。 ●全面を収益化を目的とした施設で埋め尽くさないという意見や、横浜市のブランディングに寄与するべきという意見、あれもこれもと施設を詰め込んでコンセプトが見えない再開発にすることは良くないという意見が非常に示唆的であると考えます。 ●金融機関で働く方もおり、横浜市の財政面に危機感を抱いている人が多かったです。収入源をつくることも大事ですが、一方で作りすぎることによる出費を抑えることも非常に重要と思います。

《模造紙》



Fグループ（ファシリテーター 高橋 慧一）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
横浜の経済的拠点	<ul style="list-style-type: none"> ○稼げるコンテンツ。市全体の弱体化を新しい産業で強化していく ○未来の世代に向けた視点を持てる開発 ○横浜全体の経済的起爆剤にする ○ボーダーレス ○横浜の未来、この国の未来、地球の未来を変えるような場所にしたい
ディレクション	<ul style="list-style-type: none"> ○ワクワクする。ワクワクさせる。 ○ツーリズム ○人が生きている。人を呼ぶのだからワクワクは必要 ○海外向けのプロモーション
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○各世代が作っていくことができるコンテンツ。開発が山下ふ頭だけで終わらせるのではなく、開かれていくように ○世界に誇れる、あこがれる街にする ○横浜だけでなく、世界からも注目される場所に
エンタメ・スポーツ	○eスポーツなど、今までになく、これから注目されるものための場所
海・みなと	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の人に誇れる夜景の景色を活かしていく ○横浜港に残された最後の敷地。横浜港の中心でありながら新たに手を加えられる最後の余白 ○海、港、都市が一体化した空間である。財産 ○港の景色を多くの人に見て欲しい
市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○公平性。特定の人だけでなく、様々な世代、住人が利用していける ○自分たちで作出すマインド ○未来の子供たちや子育て

《グループで話し合うテーマ》

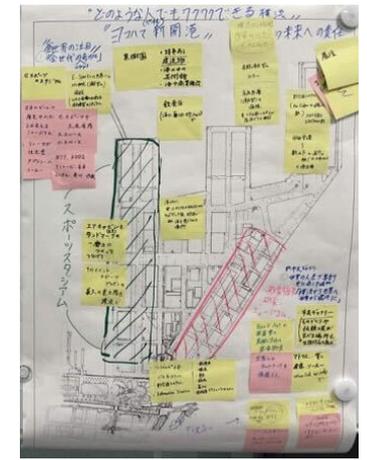
ワクワクする。ワクワクさせるふ頭開発。港の景観を生かしつつ、横浜全体の経済的な起爆剤にしていくには。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
「世界の注目を集める施設」 ○全世界の参加を促すeスポーツのスタジアムを作る	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜港の中心で世界からの関心を集めることで、横浜全体に経済を循環させる ○若い世代を集めるきっかけとなる 	○山下ふ頭だけでなく、横浜全体に様々な世代、世界の人々が訪れる
「教育・芸術の拠点」 ○芸術と教育が複合した施設 ○市民ギャラリー	○各エリアの中心に位置しており、広大な敷地がまとまって残っているため	○横浜から世界へ、世界から横浜へ人や教育、情報を発信できる

○研究施設 ○留学生のための寮	○国際性の場所として横浜の港は 歴史的背景からも相応しい場所	
「アクセス」 ○エアキャビン ○海、陸、空、様々な交通アクセスを繋げる ○成田からのヘリポート	○横浜だけでなく、世界中から人が集まる場所にするには、まずは交通手段を整える ○立地は良いが、アクセスが悪いことを解消しなくてはいけない	○横浜港に人が訪れるきっかけを作ること、都市など横浜全体に人が循環する ○交通手段も楽しめるものとする こと、移動手段が経済を回すきっかけとなる
「民間活用」 ○市民と行政が共に作っていく場所	○1から新しく開発していく場所として、開発の段階から市民と行政が協力していくというストーリーを生んでいける	○行政だけでなく、市民も協力的に開発を進めることで、横浜市の新たな希望の場所となっていく。

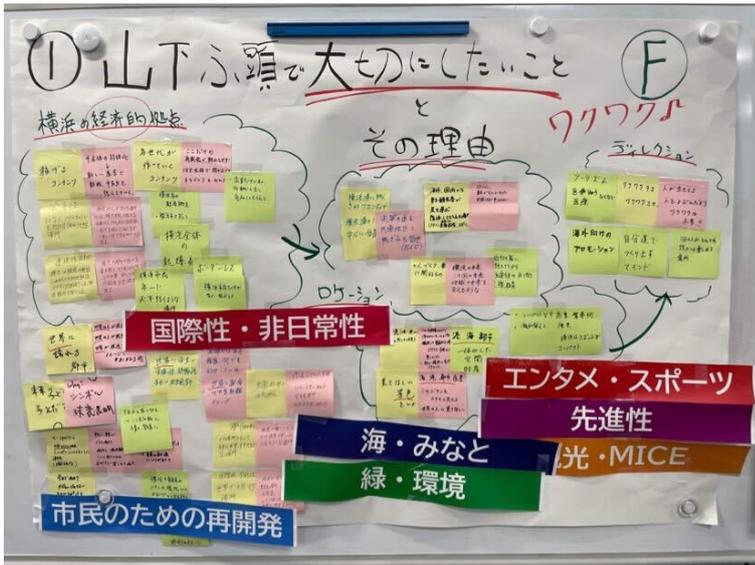
《施設配置・空間イメージ等》

	<ul style="list-style-type: none"> ○みなとみらい側にスポーツスタジアム ○東側に教育・芸術の拠点
--	--

ウ ファシリテーターからのコメント（高橋 慧一）

- 山下ふ頭だけでなく、横浜市全体、全世界に対してアプローチできるような場所であるべきだという方向でグループ全体の意見がまとまっていました。それを実現するための経済性や注目の集め方、交通の使い方など、様々なアイデアが生まれていきました。
- 新たなテーマとして、「ワクワクさせる」というものを掲げつつ、現状の港らしさや景観、歴史など、横浜市民の誇りとして残すべきところはしっかりと見定めながら、ただ残すのではなく、形を変えて継承していくという意見もあり、歴史や文化に固執しすぎない、柔軟なディスカッションを展開できていたように思えました。
- 残し活かす、新たな価値を与えるという双方の構築バランスをしっかりと意識しながら話が広がっていったような印象を受けました。

《模造紙》



Gグループ（ファシリテーター 片岡 公一）

ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由
緑・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちのためにも、環境は大切にしていきたい。単なるハコモノの観光は長続きしない ○長い時間をかけて緑を育てたり、きれいな海の水を守り育てたりしたい
エンタメ・スポーツ （観光）	<ul style="list-style-type: none"> ○市民も海外の人も楽しめるようにしたい。横浜の文化を体験するエンタメもよいのではないか ○子どもたちが楽しめるエンタメを実現したい ○e スポーツ、BMX、ボルダリングといった、若いひとを呼べるスポーツもよいのではないか ○ミナトの空間とコンテンツを活かし、船など、移動の体験自体を楽しめるようにしたい。ロープウェイもできてみると楽しい風景になっている
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○何を作るかではなく、どうPRしていくかを考え、デジタルで発信していった方が良い
歴史・文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ○古いものも新しいものも活かして、「カッコイまち」にしたい。MMに足りない何かを残して、横浜のアイデンティティとしていきたい
海・みなと	<ul style="list-style-type: none"> ○山下ふ頭は3方向を海に囲まれた貴重な場所である ○景観を守るためにもルールを決める必要があるのではないか
市民のための再開発	<ul style="list-style-type: none"> ○未来への投資として、市民の利益となる未来のまちをつくりたい。市民の利益としては有形のもの、無形のものなど様々な利益が考えられる ○周辺の居住者、勤務者、学生や、特に子どもたちが安心して過ごせる環境をつくり、守っていきたい ○横浜市の税収と、できるものの内容とのバランスを考えると、儲からなくてもよいので、赤字を作らない開発にしてほしい

《グループで話し合うテーマ》

「市民のための再開発」を最も重要なテーマとしてとらえ、それを実現するためのコンセプトとして「これからの海のコウエン・市民のコウエン」をテーマに据えた。

「コウエン」とは、単なる「公園」ではなく、人々が集まる「場」と定義する。

山下ふ頭全体のオープンスペースや様々な施設・機能を「コウエン」とらえ、「これからの時代の先進的で持続的な開発」を目指す。

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など（施設・機能・取組）	なぜ、山下ふ頭なのか？	どのような効果が期待できるか？
「海とミナトのガッコウ」 ○海や港を身近に体験したり学んだりできる機能を、ふ頭のあちこちにちりばめる	○三方を海に囲まれた環境を最大限活用	○これからの港と横浜を担う次世代を育成 ○横浜と山下ふ頭の環境をアピール

<p>○親子で体験できる環境教育施設 ～ 魚を育てる水族館</p> <p>○海を活かした体験型の海園農地</p> <p>○段階的にいろいろ試しながら行っていくことで、「赤字にならない」を実現</p>		<p>○市民が楽しむことで、市外にも波及</p> <p>○学校の修学旅行でも使ってもらえる</p> <p>○様々なアクティビティがあることで、平日も盛り上がる</p>
<p>「食を通した取組」</p> <p>○横浜の名物料理が楽しめる「体験食堂」</p> <p>○夜も健全に楽しめる街を実現するための「真夜中のパン屋さん」</p>	<p>○横浜ならではの港の景観を楽しめる空間とセットで、最も人に訴求する「食」の体験を提供</p>	<p>○健全な夜のまちを実現</p> <p>○横浜の食の魅力を発信</p>
<p>「子どもが集まるまち」</p> <p>○未来の「コウエン」としての山下ふ頭のコンセプトを、子どもたちが考えるプロセスの導入</p> <p>○子ども×SDGsの体験型施設</p> <p>○子どもたちの遊び場になるまち</p>	<p>○山下ふ頭ならではの空間大きさやみなとの環境を活かすことができる</p>	<p>○将来を担う子どもたちが山下ふ頭を自分ゴト化して考える</p> <p>○子どもも楽しめる街の実現</p> <p>○次世代を育てる</p>
<p>「話題になる緑の風景」</p> <p>○広大なひまわり畑</p> <p>○柑橘系の木を植え蝶が舞う街</p>	<p>○山下ふ頭ならではの空間の大きさを活かす</p>	<p>○横浜の都心部にはない緑の風景を創り出せる可能性</p>
<p>「新しいスポーツ」</p> <p>○スケボーパーク、BMXなど</p> <p>○海を背景としたプール</p> <p>○e スポーツスタジアム</p>	<p>○周辺への音を気にしなくてもよい環境</p> <p>○広大な港の空間のなかで活動できる</p>	<p>○これまであまり表に出て活動できなかった様々なスポーツをやる人が集まり、楽しむことができる</p>
<p>「これからの文化の発信・交流」</p> <p>○モダンアートミュージアム</p> <p>○ジャムセッションのメッカ</p> <p>音楽を通した国際的な人と人との交流が、山下ふ頭のいたるところで行われている</p>	<p>○みなとみらいの横浜美術館と対をなしながらも異なるコンセプトのアートや文化の拠点となる</p>	<p>○真の意味での国際交流と文化の発信拠点となる</p>

《施設配置・空間イメージ等》

※それぞれのアイデアの背景や理由を話し合い、共有することに重きを置いたため、施設配置や空間イメージの模造紙はなし

ウ ファシリテーターからのコメント (片岡公一)

●「人が集まる場」という広い意味で「コウエン」をコンセプトに置きましたが、「公園」のイメージに引っ張られて「オープンスペース」をどうするか、とか、「建物をあまり作らない」というイメージを強く持ってしまった方がいたため、発表はそちらのイメージが強くなってしまいました。（「建物や施設も含めてコウエンだよな」と言っ

ていた方もいました。)

- 一番盛り上がったのは、「コウエン」のあちこちで取り組まれる「ミナトや海のガッコウ」というコンセプトです。山下ふ頭ならではのコンテンツになると思いますし、どのような建物・施設ができたとしても実現できる取組だと思えます。
- 市民、特に子どもや次世代のために、山下ふ頭の開発がどうあるべきかということに関心が高いメンバーが集まったチームでした。

《模造紙》



ア 再開発で大切にしたいこと

区分・テーマ	大切にしたい理由	
①再開発そのものや街づくりにおけるストーリー性	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人に理解され、伝わり、波及する力が求められる ・50年、100年と語り継がれるプロジェクト・街となる ・出来上がる物理的な施設や街にしっかりと哲学があることが力となる ・シビックプライド、一人一人の「幸せ」や「ウェルネス」に関わるストーリー性が求められる。言葉だけで表面的に、例えば「ウェルネスリゾート」等とするという意味でなく、残したいものとして感じられることが重要 	
②横浜らしさ・横浜の独自性 ②-1 横浜の歴史 伝統・文化	<ul style="list-style-type: none"> ○ブランドやシビックプライドのコアにあり、基軸となるものである ・スカーフや古くからあるお菓子などから、歴史を感じられる景観まで、論理ではなく、「好き」と感じられる価値観が重要 ・横浜にしかないものが、国際的な価値、ブランディングにつながり、観光、企業誘致の力となり、チャレンジする土壌をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜らしさ・横浜の独自性があることが、世界への発信に必要な要素 ・横浜は成熟した都市であり、首都圏の巨大なマーケットが後背にある一等地。この環境を活かすことで世界に発信することにつながる ・地方ではできないことが、横浜の立地特性、発信力の中でできる、その潜在力を維持し、高めることが必要 ・横浜らしさ・横浜の独自性が力となる
②横浜らしさ・横浜の独自性 ②-2 取組の先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○先進性が横浜のアイデンティティであり、横浜らしさを再生産し強化する ・常に先進的なことをしてきた街だという認識と自負（誇り）がある ・伝統とも融合して横浜のブランドになっていく ・チャレンジする実験都市であることが多くの人・企業を巻き込む力になる 	
②横浜らしさ・横浜の独自性 ②-3 港・水と緑	<ul style="list-style-type: none"> ○「港の雰囲気」が山下を含む街全体をゆったりとつないでいる ・港・水と緑が「海と人が調和して、ゆったり流れる時間」の源流となっている。都心臨海部にはバス停ごとに個性ある街がコンパクトにまとまっており、それらを緩やかにつなぐ。非日常的な街の体験の重要な要素 	
③プロセス設計	<ul style="list-style-type: none"> ○社会課題の解決のために、市民・企業・行政が各々の得意分野を活かし対等に、継続的に連携することが必要であるから ・透明性ある意思決定プロセスで、建設的な議論を推進することが重要 	

《グループで話し合うテーマ》

「ストーリー」をいかに作るかという視点を中心に議論(「横浜らしさ・横浜の独自性」を体現し、世界に波及効果をもたらし、多くの人(知)を巻き込んで発展していく再開発とそのプロセス)

イ 具体的な導入機能

具体的な導入機能など(施設・機能・取組)	なぜ、山下ふ頭なのか?	どのような効果が期待できるか?
「スポーツ施設(アリーナ)」 「誰もが参加できる新しいスポーツの施設」	<ul style="list-style-type: none"> ○ゼロベースで作りに上げられる場所だから ・広大な敷地を既存の制約にとらわれずに利用できる貴重な場所である、ふ頭であることが良い意味で出島となっており、個性ある場がつかれる ○世界から人を集める拠点となる立地だから ・世界に向けた新たなビジネスをする上で、首都圏のマーケットにあり、都心へのアクセス性など、好立地である ○市民、観光客等が参加、交流しやすいから機能である ・ウェルネスと親和性の高い機能であり、多様なコンテンツにより、市民、観光客等が古流できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトYの推進 ・クオリティ・オブ・ライフを実験し、研究し、サービス、製品を生み出し、実証し、体感できる場、機会を提供し続ける持続的な取組に発展する ・実験都市として活性化 ・新しい横浜の個性を創出 ・ビジネスが活性化 ・市の税収につながり、市民にも多様な価値が還元される ○ウェルネスの増進 ・訪れる人の心身の健康(ウェルネス)を増進 ・ウェルネスに関わる企業が集まり、コラボできる ・一人一人が「生」に向き合う ○出会いの場となる ・多様なコミュニケーションができる場となる ・市民、企業、行政多様なレイヤーできっかけを提供する場となる ・国際的に注目される、オープンな場となる
「スポーツ・ビジネス企業拠点」		
「エンタメ・ビジネス企業拠点」		
「ウェルネス関連企業研究所」		
「新しいコンセプトの病院としての『ホスピス』」		
「保育所」や「子供向け施設」		
「衣食住の体験の場としてのリゾートホテル」		
「スマートモビリティ拠点」	<ul style="list-style-type: none"> ○広大なエリア内の移動手段となり、都心臨海部等の周辺エリアもつなぐ必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○都心臨海部の個性ある多様なエリアの一躍を担う ○新たな交通システムの実証
「海上交通拠点」 「ふ頭の機能」	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーターフロントの拠点として個性を活かす ○交易の場としての必要機能 	<ul style="list-style-type: none"> ○「港」を体感できる魅力的で利便性高い移動手段となる ○次世代の海運や検疫の提供
「森と都市が融和する場」(水と緑が体験できる公園)	<ul style="list-style-type: none"> ○都心臨海部に公園が不足 ○人・技術・自然の調和効果を測ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ウェルネス」や「出会い」の場を豊かにする ○先進的環境技術の実装

「防災拠点」	○都心臨海部に不足する広域避難場所を補完	○近隣エリアも対象に含んだ避難場所として機能する
--------	----------------------	--------------------------

《施設配置・空間イメージ等》

<p>※図面上に落とし込む議論にまで至らなかったが、発言のあった空間イメージを以下に記載する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海に面してのんびりと景色を楽しめる場があると良い ○横浜のスカイラインが見える、街が俯瞰的見える場があると良い ○アクセスしやすい所に市民の憩いの場となる緑がある ○アクロス福岡のように立体的に施設を緑化する

ウ ファシリテーターからのコメント (山口 雄之)

<ul style="list-style-type: none"> ●横浜が持つ歴史や文化、「港」や水と緑を感じられるウォーターフロントの豊かな環境が好きだという意見が共通しており、その「シビックプライド」を大切にしたい再開発のイメージが求められました。検討プロセスの透明性について意見があったことも、広い意味では、横浜に誇りをもつ市民の一人としてより良いものを作りたいという思いの表れだったと考えられます。 ●そこで大切にしたいこと>は、「共感できるストーリーをいかにつくっていくか」を中心に議論を進め、参加者それぞれが考えるストーリーの中で重視したい「横浜らしさ・横浜の独自性」をあぶり出す作業をしました。結果的には、例示されたキーワードすべてが大事であるため、やはりそれらをいかにストーリーとしてまとめるか、またそのストーリーを作るプロセスが重要だという議論となりました。 ●<導入機能>については、いかに街やビジネスのエコシステムとして成立させるか、それがいかに先進的になって、世界に発信できるかという点が重視されました。そのため、個別の機能や施設を議論するより、多様な市民や企業が参加できるプロジェクト(プロジェクト Y)を生み出そうという方向性となりました。一方、水と緑、公園、海上交通など、横浜らしさを感じられる機能は、街の豊かな空間をつくる基本的な要素として、皆さんが共通してイメージされていました。 ●導入機能、街のシステムのイメージを更に具体化する議論は難しく、参加者毎に個別性が高いか、抽象的な議論となりました。●多少の温度差や関心の違いはありましたが、概して参加者の皆さん非常に関心高く、熱意もあり、建設的な議論がされていたと感じられました。今後継続的に山下ふ頭再開発の検討状況やプランを知ることができ、議論できる機会があることが求められていました。

《模造紙》



3 総括（統括ファシリテーターによるまとめ）

(1) 各グループの話し合いのテーマ

各グループで決めた話し合いのテーマについて下記の表にまとめました。

※話し合いのテーマについては前回の市民意見募集や意見交換会から導き出されたテーマとして「海・みなと」、「国際性・非日常性」、「先進性」、「緑・環境」、「歴史・文化・芸術性」、「観光・MICE」、「市民のための再開発」、「エンタメ・スポーツ」の8つのテーマを提示したうえで自由に設定していただきました。

第1回(12/17)

グループ	話し合いのテーマ
A	エンタメ・スポーツ×歴史・文化
B	歴史・文化・芸術性／先進性
C	先進性／緑・環境／第3のテーマとして「市全体の中での山下ふ頭開発」のあり方を考える／歴史・文化・芸術性の観点
D	緑・環境／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発／国際性・非日常／海・みなと／歴史・文化・芸術性(6つのテーマを総合)
E	歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発
F	“次の世代に何を残すのか”“今なにかよりも、世の中の先がどうなるか”／緑・環境／観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ
G	先進性(主テーマ)／エンタメ・スポーツ(具体的なコンテンツ)／最先端の環境と人が集まる魅力的な場所とするための方策
H	国際性・非日常性／緑・環境／市民のための再開発

第2回(1/14)

グループ	話し合いのテーマ
A	海・みなと(世界の中での横浜の立ち位置、市民が楽しめる港)
B	先進性(主テーマ)／エンタメ・スポーツ(具体的なコンテンツ)
C	海・みなと(港らしさを残す)、緑・環境(緑と水辺を活かした景観づくり、まちとの繋がりを生んでいく)
D	観光／全世代の参加／持続可能性／先進性／命と暮らし優先／収益性／海／公園や緑地／港／歴史／スポーツ
E	海・みなと(場所の力を活かす)／エンタメ・スポーツ、観光・MICE(経済活性化)／緑・環境／市民のための再開発(資金マネジメント)
F	歴史・文化・芸術性(文化の発信)／市民のための再開発(持続性のあるまちづくり、インクルーシブなまちづくり、みなとみらいと同じような街にしない)

第3回(1/21)

グループ	話し合いのテーマ
A	先進性(先端研究の頭脳が集まり若者や起業家を惹きつけるフィールドづくり)／市民のための再開発(大学や企業の開かれた施設や活動によって市民も接点をもち楽しめる環境づくり)

B	海・みなと／先進性／緑・環境／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発／避けたいこと／事業性
C	海・みなと(市民のための再開発)／防災(再開発の前提)／緑・環境×先進性×観光・MICE、歴史／次世代への継承(再開発の前提)／教育(国際性・非日常性)／経済性(再開発の前提)／世界初(先進性)／市民を中心とした再開発(再開発の前提)
D	市民のための再開発(集客・税込確保を前提に)

第4回(1/28)

グループ	話し合いのテーマ
A	緑・環境／緑・環境／海・みなと／海・みなと／海・みなと／市民のための再開発／市民のための再開発／文化／防災／交通
B	緑・環境／海・みなと／歴史・文化／観光・MICE／エンタメ・スポーツ
C	市民のための再開発(ゆったりとしたいやしのある環境づくりを中心に、市民のための公共的な場所づくりを検討する)
D	海／港／文化・教育／子ども／交流／山下ふ頭への思い／市がイニシアチブをとる

第5回(2/5)

グループ	話し合いのテーマ
A	市民のための再開発(市民目線でのまちづくりを基本に)／海・みなと、緑・環境、先進性(若者を惹きつけて育てる、オンリーワンのキャンパスタウンづくり)
B	税込の増加／エンタメ・スポーツ／観光・MICE／歴史・文化・芸術／交通／国際性・非日常性×先進性／先進性×緑・環境／市民のための再開発／海・みなと／主軸、ターゲット
C	進め方について／緑・環境／海・みなと／観光・MICE／国際性・非日常性／歴史・文化・芸術性／市民のための再開発／先進性／エンタメ・スポーツ
D	先進性(開港＝時代の先取り、世界に向けた日本のシンボルとなる)／市民のための再開発(憩いや生活サービス、税込アップ)
E	国際性・非日常性／観光・MICE／先進性／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発／安心・安全・健康
F	海・みなと、市民のための再開発(港の景観を生かす、ワクワクさせるふ頭開発、横浜全体の経済的な起爆剤に)
G	市民のための再開発(「これからの海のコウエン・市民のコウエン」、先進的で持続的な開発)
H	横浜らしさ・横浜の独自性(「ストーリー」をいかに作るか、世界に波及効果をもたらす、多くの人(知)を巻き込んで発展していく再開発とそのプロセス)

【テーマの絞り込みについて】

- ・多くのグループが例示された8つのテーマの内、複数を選択して議論を行っていました。
- ・全てのテーマが重要且つ単独あるいは複数であっても切り離して議論は出来ないというようなご意見がありました。
- ・「市民のための再開発」を選択したグループが最も多く、次いで「海・みなと」「先進性」「緑・環境」「歴史・文化・芸術性」「エンタメ・スポーツ」を絡めたものが多い結果となりました。その他、「市全体の中での山下ふ頭」「次の世代に何を残すのか」「横浜らしさ・横浜の独自性」といった独自に設定したテーマも見られました。

(2) 再開発のイメージのまとめ

グループワークで出された再開発のイメージ(再開発で大切にしたいこと)について、テーマのカテゴリーごとに意見の内容に着目して、再開発のイメージを類型化しました。なお、テーマごとにまとめるにあたり、各テーマの中で共通して議論がなされていた「景観」を新たに設定するとともに、「観光・MICE」「エンタメ・スポーツ」がほぼ同義で議論されていたことから、それらを「観光」として集約、再開発の前提あるいは全体に係るテーマ等については「市民のための再開発」の中で取り扱うこととしました。

カテゴリー： ①海・みなと／②観光／③景観／④国際性／⑤市民のための再開発／⑥先進性／⑦緑・環境／⑧歴史・文化・芸術性

①海・みなと

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる
	●持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている
	●既存の環境や施設を資源として利用することで環境負荷が小さい開発に
横浜のアイデンティティ	●横浜の強み・らしさは海・みなと。価値の高い資産を活かしたい。さすが横浜と思われたい
	●「海」を考慮しないわけにはいかない
	●海の広がりを感じる、海が見えて憩う場になる
	●世界を感じられる
	●海・歴史を大切に、市民の参画を進めていきたい
	●海・みなとは横浜のアイデンティティ(郊外区にいと臨海部にあまり来ない)
	●横浜の港としての魅力を生かす
	●海から感じる「冒険」のイメージがある
	●横浜といえば海
	●横浜のシンボリック役割は、海＝国際性
	●一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何も無いオープンな場所を作りたい
	●オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい
	●海があるので、海を大切にしたい
●港・水と緑が「海と人が調和して、ゆったり流れる時間」の源流となっている(非日常的な街の体験の重要な要素)	
●海、港、都市が一体化した空間であることが財産	
横浜ブランドを創る・高める	●横浜への新しい入り口をつくる
横浜らしい景観が見れる	●世界の人に誇れる夜景の景色を活かしていく
横浜らしさが感じられる	●横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ

海と緑が調和している	<ul style="list-style-type: none"> ●「第2山下公園」にしたい ●市民のための広間、自然を大きく取り入れる
海に面する特性を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ●海や敷地の広さを活かして、一つの世界観をつくる ●海に囲まれていることを活かす ●海洋研究の場に行きやすいことがオンリーワンになる(海上に実験農園など) ●魚を育てて食べられるなどできたら良い ●山下ふ頭は3方向を海に囲まれた貴重な場所である ●海のイメージが強い立地特性を活かす。海との関係を大切にしたい ●羽田に直結する高速船を誘致 ●海を最大限活用(海上交通、運河チャレンジと結びつける、パーク&ライドの拠点など) ●海洋、海洋生物に関わる水族館、海に触れられる場 ●水上交通(客船など)の活用 ●海の環境との親和性を大事に ●場所が離れていることを活かして人を隔離する施設があっても良い(病院、刑務所など) ●海に面した美しい空間としたい(ex.シンガポール)
開放的な憩いの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●遊歩道、木陰、風の道をつくりたい ●ウォーターフロントとしての広い空間を残す
港に親しみが持てる	<ul style="list-style-type: none"> ●「みなと」を親しめる場所にしたい ●物流、海運の活動を何らかのかたちで伝えていけるとよい ●港文化の継続性
港町の風景が見れる	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜の顔である港らしい景色や地形を残したい ●水辺の景色、海と街をつなぐ ●非日常的な元の港のイメージを残しながら、新しい価値創造によって更新する ●「港の雰囲気」が山下を含む街全体をゆったりとつないでいる ●ふ頭の機能を復活させたい(以前は貨物船で賑わいがあった) ●港町としての憧れの場所を残していきたい(船の行き来や入港の様子、コンテナが並ぶ風景など) ●港のイメージ、ウォーターフロント、景観、発信 ●眺めの良さ、岸壁の良さ、文化の最先端の港町という特性を活かしたい
国際交流の拠点になる	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の港町と連携したい(ex.オーランド)
国際都市としてのイメージがアップする	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の中での横浜の立ち位置は何かを考え、日本一のみなとまちとして第二の開港を目指し、世界の港湾都市の将来像(=平和であること)を発信したい

市民が楽しめる・利用できる	●都心部、みなとみらい、赤レンガなどの水際が立ち入れる場所になってきたことをさらに発展させたい
	●郊外区に住んでいる人たち(子ども達を含む)は、海・みなとの恩恵を受けることができていない
周辺の景観と調和している	●周辺の丘から海への眺望を確保したい(ふ頭に阻害建物をつくらない)
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●横浜ヨットハーバーとの連携
	●内港の各地区の役割分担を考えるべき
	●開港の歴史、古いものを大事にした関内のまちづくり等とつないでいきたい
新しい文化が育つ	●新しい歴史・文化を育てていこう
	●大衆文化を育てるインキュベーション、オンリーワン
	●音楽をやる人が駅前ライブからメジャーデビューするように(キーワード・愛称として『はまたまご』)
先進的なまちである	●2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をふまえ、転換期に
船が停泊する	●横浜港は船が入って来られる数に限りがあるので、山下ふ頭に期待したい
	●波止場の機能を残す
	●港の施設を活かす
	●ディズニークルーズを呼び込む、思い切ってベイブリッジを海底トンネルにして大型客船を内港まで呼び込むようにしたらよい
	●国内物流を支える5000隻の内航船が航行する現状に対して、それらを受け入れる設備がある港は少ない
防災機能を備える	●緑地は災害時、避難の生活場所にもなる
	●いざというときに(災害発生時など)使える
	●減災・防災、防災船着き場の整備
歴史・文化を尊重する	●かつての活力があった港の歴史を伝え生かしたい。港湾荷役やだるま船は港らしい風景だった
	●開国や埋立、京浜工業地帯の歴史を伝えたい
	●開港の原点に戻った開発をするべき

②観光

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●人が来なくなると最悪。横浜ベイスターズも苦勞してやっと顧客を確保できた。人を呼べるコンテンツが大事
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
シンボルがある	●横浜のシンボルとなる大きな施設がほしい
ナイトタイムの活性化	●夜も楽しいヨコハマ、今ある魅力(全て揃っている)をプラスに
	●リゾートみたいにしたい(横浜全体を玉手箱に)
横浜の魅力をアップする	●現在の横浜には行って楽しい場所があまりない
	●みなとみらいや新港パークはファミリー志向が強いため、非ファミリー志向のエンタメが良い
横浜ブランドを創る・高める	●東京じゃなくて横浜に行きたいと思えるものが必要
	●メタバースとリアルが融合した他にないような場所にしたい
	●近くにすでにあるようなものは作らないでほしい
	●何が自慢か(開港の歴史、横浜発祥など)
	●修学旅行生や海外から船で到着した観光客がつまらなそうにしていた(観光客が何をしたらいいのかわかりにくい、楽しくてまた来たくるようにしたい)
	●県内企業の活性化(ジャズ、アイスクリーム、スカーフなど横浜発の文化を体験できるものの開発を依頼する)
海に面する特性を活かす	●外国人を呼び込むインバウンド、海に囲まれた立地を活かして海洋リゾート
	●ウォーターフロントを走れることが魅力
	●水辺のレジャーはまちと海を繋ぐきっかけとなる
	●ミナトの空間とコンテンツを活かし、船など、移動の体験自体を楽しめるようにしたい。ロープウェイもできると楽しい風景になっている
交通利便性の向上	●交通の利便性が良くないと人は来ない(現状ではアクセスが悪い)
	●公共交通機関の整備、羽田・成田とのアクセス強化。アクアラインの延長
	●自動運転、外国の人が働いていたら行きやすい
	●海に囲まれた立地は良いが、交通アクセスが悪い
	●集客施設にするなら、交通の整備が必要
国際交流の拠点になる	●国際大会の開催や市民が普段から利用できる機能・施設
	●交流を深め競争力を高める
	●アジアから若者たちが集まる場所にしたい
市全体の活性化に寄与する	●県内企業の活性化(ジャズ、アイスクリーム、スカーフなど横浜発の文化

	を体験できるものの開発を依頼する)
市民が楽しめる・利用できる	●横浜市内からのアクセスをよくする
市の収益の向上	●儲けることが重要
	●お金を落としてほしい
	●市の財政に中長期的に配慮する
	●エンタメ、インバウンドに依存しすぎない
	●海外からのマネーを期待(宿泊による収益など)
	●市民のためのお金を生み出す(持続的な経済の循環)
	●三浦・箱根等観光のハブになる(オール神奈川意識)
	●海外からのお客さんに頼らない
	●外から誘客することで収益を
	●子ども、次世代のために税収を確保したい
次世代につなげる	●子ども、次世代のために税収を確保したい
	●若者が集う場所にしたい(フットサルができる場所にしたい)
	●若い人の記憶に残るような場所にしたい
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●国際会議場やショッピングは既存のみなとみらいのものを生かした上でさらに必要かを検討すべき
	●周りの施設や街に扇状に広げていく要として考える
	●パシフィコ横浜の稼働率はどれくらいか(神戸との比較データなど、深掘りする前にデータの共有が足りない)
	●関内関外は利用者にとってテイストの違う街を楽しめるエリアになっていることを生かしたい
	●元町、中華街、関内、山下公園をコラボしたまちづくりが求められる。それぞれでは経営的に厳しくなっている
	●市全体への波及効果(他の埠頭、周辺地域との繋がりの中で考える)
	●横浜の中心的な場所にある(中華街、みなとみらいと近い)
	●他の場所が連動して全体的に活性化につながる
	●既存のまちの魅力を壊すオーバーツーリズムにも配慮する必要がある
新しい文化が育つ	●若いクリエイターの応援、発表の場づくり
	●新しいカルチャーをつくりたい
新たな産業や技術を創出する	●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい
居住できる	●住居機能があっても良い
	●職住一体の観光地に(MICEの要素も取り入れた新しい観光地)
世界から人が集まる	●ワクワクする。ワクワクさせる(人が生きている。人を呼ぶのだからワクワクは必要)
	●アーバンツーリズム、海外向けのプロモーション
	●富裕層を呼ぶようなホテル
	●外国人が魅力を感じる、今までにないコンセプトのまちづくり

	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な人を受け入れる価値観をもったまちとして、パラエンタメ、パラアート、eスポーツ等によるここでしか見れないメッカ・発祥の地にしたい、スターを生み出したい
	●水辺を使ったパラの活動も広げることができる
	●外から誘客することで収益を
	●ポイントは、継続的に人を集めること、常時使えること(ex.マルチコンサート会場)
	●人が来なくなると最悪。横浜ベイスターズも苦勞してやっと顧客を確保できた。人を呼べるコンテンツが大事
	●市民も集まる、日本中・世界中からも集まる
	●ラグビー・サッカーの国際試合ができる競技場(ラグビーW杯で世界中からたくさんの人が来て楽しかった)、最先端設備のアリーナ
	●MMの会議場は規模が小さいので、もっと国際的なものにする必要がある
	●より大規模なMICE国際会議場
	●非日常、他県や外国から人が来る
	●金持ちだけではない、広い層の海外の人々が来られる
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ●eスポーツなど、今までになく、これから注目されるものための場所 ●話題性をつくる
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨコハマの観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせた ●観光と先進性のリンク(ヨルノヨなど) ●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
船が停泊する	●新しい交通、エンタメ(観光)、船の利用
多世代が楽しめる・交流できる	<ul style="list-style-type: none"> ●まちに人を増やして活性化したい、ファミリー層や若い人を増やしたい ●日常的に楽しめるエンタメ・スポーツのメッカとしたい ●人を集めることがこれからのまちづくりに必要 ●子どもたちも楽しめる場 ●特定の誰かではなく、みんなが楽しめる ●緑、海、風を楽しめる、家族で歩ける ●すごく豪華じゃないモノであること。お金がかかりすぎる場所はみんなが楽しめない ●周囲に遊園地はあるが、山下ふ頭にも遊べる施設を更につくっても良

	<p>い。幅広い年代が遊べる施設が欲しい</p> <p>●ベースは庶民が楽しめるもの。それは質のいいもので外からも来客が来るようなもの</p> <p>●子どもたちが楽しめるエンタメを</p> <p>●e スポーツ、BMX、ボルダリングといった、若いひとを呼べるスポーツ</p> <p>●企業、周辺住民、来訪者にとって楽しい街に(アフターファイブを楽しむエンタメ・ジム・飲食店など、ショッピングや気軽に使える体育館やプール、大学周辺にはキャンパスタウン)</p>
滞在時間が増加する	<p>●観光に来て泊まる人が少ない。泊まらせる仕組みが必要</p> <p>●閉ざされた空間だからこそ、長期滞在が出来る</p> <p>●宿泊客の誘致(横浜は日帰り客が多い、東京等に宿泊客が取られている、パシフィコ横浜等と違うものを整備して相乗効果を発揮)</p> <p>●スケールの大きさを活かして滞在時間を増やす(ディズニーランド・シーの横浜バージョンなど)</p> <p>●横浜に滞在してもらおう(今は通過して東京へ行っている)</p>
文化を活用する・発信する	<p>●日本はポップカルチャーで注目されている</p> <p>●市民も海外の人も楽しめるように。横浜の文化を体験するエンタメも。</p>
防災機能を備える	<p>●大きなスタジアムは避難施設になる</p>
歴史・文化を尊重する	<p>●日本ならではの歴史から先進性を学ぶ</p> <p>●新しいもので塗りつぶすようなまちづくりはNG</p>

③景観

再開発のイメージ	内容
シンボルがある	●ランドマークタワーに継ぐシンボルとしたい
	●山下ふ頭にしかない観光スポット、ランドマークを作って集客を狙う(映えるスポット、SNSの活用)
	●横浜を象徴するような建物がほしい
横浜ブランドを創る・高める	●国産木材を多用した建築、レンガやガス灯で街並みを統一するなど、横浜らしい街並みに
	●新しく建てるものは「赤レンガ」など歴史を感じるもの
	●ブランド価値を高めることができる
	●「古き良き横浜」「はじめての横浜」を活かした景観づくりをしたい
横浜らしい景観が見れる	●新しい眺望スポットが生まれる(海から見た港湾都市は美しい)
	●横浜らしい港の景観、夜景を活かす
誇れる街並みを創る	●景観の統一、バラバラでなく、大きなまとまりとしたい
	●木造ビルの技術を活用すると日本らしさがでる
	●海から観光客がやってくる(玄関口としてのイメージが大事)
	●MM側からの眺めも大事
	●写真を撮りたくなるようなお洒落でシンボリックな景観が必要(貧素なイメージはNG)
港町の風景が見れる	●海を見ると癒やされる。ふ頭から海への眺望を活かしたい
周辺の景観と調和している	●周辺の丘から海への眺望を確保したい(ふ頭に阻害建物をつくらない)
	●横浜を代表する観光エリアに隣接しているので
	●景観的なバランス、周辺との調和が大切
	●高さを抑えた街並み(最大10階建ての高さ制限など)

④国際性

再開発のイメージ	内容
シンボルがある	●横浜のシンボルとなる大きな施設がほしい
異文化・多文化にふれる	●国際性・異移民、多文化に触れる(触れる機会が少ない)
	●様々な国の人たちが集まる、世界の人たちと触れ合える
横浜のアイデンティティ	●横浜にはかつて今も様々な国々の歴史・文化が感じられる国際性が必要
	●国際性という観点では神戸に負けているのでは(外国人観光客の満足度など)
横浜の競争力を高める	●国際競争力を高める(グローバル)
国際交流の拠点になる	●大学を誘致し、移住者を呼び込む、国際的な人間を育てられる場に
	●外国とのネットワーク拠点となれる場所なので、文化的に生かしたい
	●ヒト・モノ・コトの交点、人と人との交流、つながる、つなげる場づくり
	●ハマを中心に(日本を、世界を)インヴォルヴする(巻き込む)
	●ポンピドゥー・センターのような文化拠点を
	●アジアから若者たちが集まる場所にしたい
市の収益の向上	●将来の支出を減らしたい
	●財政の健全化(市債の発行額がとても多い)
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●既存のまちの魅力を壊すオーバートゥリズムにも配慮する必要がある
	●エリア構想、コンセプトが必要(横浜沿岸構想)
新たな産業や技術を創出する	●企業や大学とのイノベーション(ex.川崎キングスカイフロント)
	●MM新高島では企業誘致がうまくできている(特区、税制優遇、国家連携など)
世界から人が集まる	●金持ちだけではない、広い層の海外の人々が来られる
先進的なまちである	●横浜は日本の先進性の象徴であることを共有したい
多世代が楽しめる・交流できる	●ベースは庶民が楽しめるもの。それは質のいいもので外からも来客が来るようなもの

⑤市民のための再開発

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●21世紀型の持続可能な住宅、ごみゼロ、エネルギー循環等で徹底的に環境に配慮した街をつくる
	●将来に負の遺産を残したくない
	●コスト面で実現可能なもの(横浜の荷物にならないように)しなければならぬ
	●無理のない維持管理
横浜に住みたくなる・住み続けたい	●住み続けたいランキングが低いため、子育て支援、若者支援
	●人口減少に備え、市民になりたい人を増やすことが必要(市民になると使える施設、そこには、他では得られない風景や体験があるなど)
	●人口を増やそう。定住移住する若者を呼び込みたい
	●人口減少、街の衰退を止めていく動機付けにつなげたい
	●住み続けたいまち横浜のきっかけになるまちづくりを望む
	●訪ねて楽しむまちより、移住定住地としての横浜を目指す
	●生産年齢人口が増えて欲しい(2065年には15~65歳人口が50%前半になる)
●若者中心に人材を集めて育てる	
横浜の魅力をアップする	●とにかく横浜の魅力をアップする場所にしてほしい
横浜ブランドを創る・高める	●横浜への新しい入り口をつくる
	●他都市と競争しないものがほしい
	●テーマのない再開発(なんでも詰め合わせたような幕の内弁当的なものはダメ)
	●中長期的に価値のある取り組みのシンボルとしたい
横浜らしさが感じられる	●横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ
	●他の大都市にはない、横浜らしさを大切にしてほしい
海に面する特性を活かす	●海を最大限活用(海上交通、運河チャレンジと結びつける、パーク&ライドの拠点など)
	●ユニークな海上キャンパスを実現ができる
開放的な憩いの場づくり	●ゆっくりしたい。おしゃれとかかっこいいはもういらぬ
教育・知的探求の場	●時代の転換点→歴史的使命→知的拠点→コンセプト「文化公園」
	●知的牽引、横浜市の方策総合化、関連人口の増加(通りすがりではなく)、都市計画上最適の施設(関連で八景島を文教地区にしたい)
	●文化(知)、市民の成長
	●チャライものにはしたくない、どっしりしたものにした

	<ul style="list-style-type: none"> ●人が集まり、楽しみ、学べる、情報の発信ができる平和都市「山下ふ頭“区”」の実現(多様な価値観を認め合える、交流の大切さを学び、発想の転換が出来る、市民自治、主権者意識を育てる) ●明石市の子ども政策を参考に、教育に力を入れている都市に人が集まる ●若い世代の交流があることで、周辺にもいい影響がある ●未来への投資、子どもが参加できる場をつくる
交通利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●生活者のため、観光客のための交通 ●山下公園→山下ふ頭の道路がボトルネックにならないように ●アプローチが楽なこと。山から降りてくる人に
国際交流の拠点になる	<ul style="list-style-type: none"> ●緑に囲まれたインターナショナルスクール
市全体の活性化に寄与する	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜全体の経済的起爆剤にする ●今の横浜を活性化できる場所
市民が楽しめる・利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が港に近づけない、入れない。市民が楽しめないものは外部から関心が持たれない ●市民が最も活用できる施設(子どもがのびのび遊べる、高齢者がゆとりをもって時間を過ごせる、観光客はその次) ●市民のための場所にしたい ●五感に響く機能を体現できるものがほしい。水辺を市民に開放したい(結果的に税収増につながる) ●市民が毎週行ける場所が必要(大学、図書館、公園など) ●開かれた場所としたい(ex.つくば学園都市、東京大学) ●市民に優遇がある施設 ●市民から愛着がないといけない ●倉庫群から市民のための場所に ●公平性。特定の人だけでなく様々な世代、住人が利用できる(それを自分たちで作り出すマインドが大切) ●儲けを主眼には置きたくない ●「産学連携」や「賑わい創出」といった言葉ではなく、市民を中心とした開発にしたい ●企業+周辺住民+来街者にとってのメリットのあるものに ●縁の下の力持ち。シンボル化しない

	<ul style="list-style-type: none"> ●市の土地に、ビジネスに走るような大学や施設は断りたい(大学法人は一般に土地を持つだろうが、土地処分や賃借のあり方はよく検討したい) ●企業提案のイノベーション拠点とは性格が異なる市民目線のまちづくりを追求したい ●住み続けたい、横浜で楽しみたい ●区の真ん中に位置しており、色々な地域の住民が関わることができる ●子ども用の広場、子育ての交流
市の収益の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●稼げるコンテンツ。市全体の弱体化を新しい産業で強化していく ●コスト面で実現可能なもの(横浜の荷物にならないように)しなければならない ●無理のない維持管理 ●ここでお金を生み出し、税金は他に使うべきである ●持続可能なまちづくりのためにはお金の調達が必要 ●横浜市はふるさと納税の流出も大きいので、それを補うことも考えたい ●税収をどこかで確保して進める(小さな部分で大きく稼ぐところも考える必要がある) ●一過性でなく、恒久的な財源を確保し、市民生活が潤うように ●税金の市外への流出、すすむ高齢化、人の流出に対しての取り組みを考えるべき ●平時からお金を稼ぐ手段(稼働率の高いもの、時代も読んで) ●開発が市民の生活に還元されるように ●市の財政に配慮する ●安定的な税収増、そのための恒常的な収益が必要 ●雇用を増やせば、住民税などの財源が確保される ●支出を減らし、収入を増やす ●つくって終わりじゃなく、維持することも考える必要がある(市の財政も考える、無茶なものはつからない、ハコモノはつからない) ●国際競争に勝ち抜くために、税収入を増やす ●他の自治体に比べて、法人税が少ない。税収が少ないと市民生活に影響が出る。法人を呼び込むことも必要 ●税収が増加すれば市民サービスに還元される(中学校の給食等)

	●税の増収となる事業に
	●山下ふ頭だけでなくオール横浜で税収アップ
	●横浜が儲かるような事業性のあるものであること
	●税金を使わない開発を進めたい
	●横浜は個人市民税 49%、法人市民税 5.8%であり、法人税が少ない
	●専門人材の滞在時間が増えてほしい
	●アクセス、将来性を考えて税などで成長する
	●財政改善のために税収アップを目指し、市民の生活サービスを充実させる
	●住みたい街、訪れたい街のため
	●収益・税収をあげること
	●横浜市の税収と、できるものの内容とのバランスを考えると、儲からなくてもよいので、赤字を作らない開発にしてほしい
	●開発のあり方(初期投資を抑え、持続的、循環的な経済の中で漸進的に整備を行う)
	●大きな面積のため、初期費用も比例して大きくなるが、横浜市の財政は厳しい
	●常にいっぱいの人が来ないと成り立たないようなもの、維持できないものにすべきでない
	●五感に響く機能を体現できるものがほしい。水辺を市民に開放したい(結果的に税収増につながる)
次世代につなげる	●50年後、100年後の未来の子どもたちのためなるもの
	●50年、100年と語り継がれるプロジェクトに
	●将来に負の遺産を残したくない
	●人口減の時代に箱モノ中心のまちづくりは不要
	●事業完了時の主世代のための再開発としたい
	●2040年には税収減に転じるので、広い土地を使って、100年先、200年先に残せる資産とする(例:山下公園は関東大震災の瓦礫で埋め立てられた復興のシンボル)
	●横浜市の未来、子どもたちの未来につながる場所や再開発
	●次の世代の人たちがイイね!と思えること
	●次の世代へ投資できるモノ・場所をつくる(市民として投資をしたくなる事業に)

	<ul style="list-style-type: none"> ●若者も再開発を自分のためのこととつなげて考えていきたい ●子育てや環境を大事にする、生活実感に寄り添った市政の上で、開発を考えるべき ●超高齢化の 370 万人の人口、交通インフラの弱さが原因で集客できない事態にならないように ●超高齢化、少子化を逆手にとった戦略を(道路の広さが大事、狭いと危険、自動運転など) ●未来の世代に向けた視点を持てる開発 ●横浜の未来、この国の未来、地球の未来を変えるような場所にしたい ●未来の子供たちや子育てのために ●何もつからない、次世代にまかせる
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺に存在する施設の類似施設は要らない ●周辺地区の活性化、周辺で稼げるように ●みなとみらいがすでにIR的な場所(大規模なMICE施設など)なので、あえてまたここに作る必要はない ●山下ふ頭だけでなく横浜一円で考えたい ●観光に関してはみなとみらいにたくさんある ●ハコもの中心のまちづくりから脱却したい。キラキラ施設は周りにもうたくさんある ●山下ふ頭で得られたノウハウや人材、資金を地域にフィードバックする(継続的な成長のためのエコシステム) ●まちづくりの視点をしっかりとつ、市全体を見て都市デザインの中で考える
身近な市民生活を豊かにする	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てや防災に市政の重点を置くのが市民レベルの課題 ●企業誘致のための税金の使い道をやめて、市民生活(給食、学童)を豊かにする(みなとみらいでは多額の借金に苦しんだ。そのため子どもの医療、保育所などが大幅に遅れている) ●未来への投資として、市民の利益となる未来のまちをつくりたい。市民の利益としては有形のもの、無形のものなど様々な利益が考えられる
居住できる	<ul style="list-style-type: none"> ●コンドミニアム、アーティストインレジデンス ●港の先端に住める価値 ●21世紀の町家、長く住める住宅 ●商業地では閉店後に人がいなくなるため、居住地としても開発してほしい

	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区内に住んでいる人がいるまちにすることが、お店などを成り立たせるためにも必要 ● 住まいの導入(山本理頭によるマチヤの提案は興味深い) ● 居住者がいることが、サービスや人を呼ぶ ● まちには最低限の生活施設は必要
人材が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者中心に人材を集めて育てる ● スタートアップや発信ができる。 ● 大学、ものづくり、農業・漁業・林業の人材を育てたい ● 幅広い世代が学べる(リカレント・リスキリング)
世界から人が集まる	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学のまちにすることで世界から学生を集める ● 視察者や研究者が集まる
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅モデルとして世界にアピールできる
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をふまえ、転換期に ● 自分一人ひとりのことを考えてくれるまちのモデルとして最先端の横浜であってほしい
多世代が楽しめる・交流できる	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の市民でなく、年齢に関係なく楽しめる場所に
誰もが利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数でも楽しめるような場所にしたい ● 笑顔でみんなが参加(全世代の人が笑顔になれる場所に) ● 全世代コミュニケーション、誰も取り残さない ● 弱い人に寄り添う街、命と暮らしを優先、教育も ● 人の優しさ、暖かさを大事に、どんな人でも移動しやすい社会に ● ボーダーレス社会の実現
文化を活用する・発信する	<ul style="list-style-type: none"> ● アーティストは感度が高いので、情報発信能力に長けている
防災機能を備える	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が安心安全に暮らすためにここを活かしたい(食糧の備蓄や魚の養殖、中央卸売市場との役割分担など) ● 住民も来街者も利用するため、災害を念頭においた開発が必要 ● 津波被害を受ける場所だが、あえて防災拠点にして「何かあったら山下ふ頭に行こう」という場所にしたい ● 災害時、海上輸送でヒト・モノを運ぶことができる

	●市民の命を守る街に(日常生活で発生する命に関わることから身を守る が体験できる、災害が起きた際に避難場所として使用する)
	●大規模な公園の地下に駐車場と備蓄倉庫を整備する
	●海路により、支援物資と人の輸送ができる
	●旅客船を避難施設・仮設住宅として利用できる
	●命を守る体験、あらゆる施設にある備品がすべて命を助けてくれるのに 役立つ
	●色々な町やフィールドを再現してシミュレーションに使用、小中高・大 学・企業との連携
	●舟型病院や防災食レストランなど、元々の機能や立地の特性を活用で きる
	●何かあった際にアクセスしやすいし、日常的には少し距離があるので防 災関連の色々に取り組みやすい
	●防災に配慮した施設に
	●大きなスタジアムは避難施設になる
	●津波に備えた人工地盤、シェルター、支援物資の輸送、ストックとしての 場
	●災害に備える(浸水に備えた嵩上げ、上階に大事な機関などを配置す るなど)
	●屋根付きドームやスタジアムもあれば、災害時の避難や活動に使える
	●周辺の居住者、勤務者、学生や、特に子どもたちが安心して過ごせる環 境をつくり、守っていききたい
	●都心臨海部に不足する広域避難場所を補完
	●近隣エリアも対象に含んだ避難場所として機能する
	●災害に強い住宅
	●国際的な学生寮。非常時災害時の収容施設にも転用できる(大学本体 はもっと落ち着いたところで学んで欲しいという考えもある)
	※津波の時の安全は考慮する必要がある
	※周辺の市街地の火災の時の避難場所にすることを考えると、居住地で あることも適っている
歴史・文化を尊重する	●開国や埋立、京浜工業地帯の歴史を伝えたい
	●元々の機能が人々の日常のいろいろなところに関わってきたので、新し くなくてもそうあってほしい
歴史資産を残す	●既存の施設を利用することで埠頭の歴史を継承

⑥先進性

再開発のイメージ	内容
DX 等を取り入れる	●DXによる先進都市を実現したい
	●DX×AI技術によって、世界に向かって開かれた場所であり続ける
	●サイバー文化、メタバース文化、デジタル最前線
	●何を作るかではなく、どうPRしていくかを考え、デジタルで発信していった方が良い
カーボンニュートラルに取り組む	●再生可能エネルギーの研究開発一大拠点
	●エネルギーの自給自足、グリーントランスフォーメーションを実現したい
	●海+環境でカーボンニュートラルを推進したい
サステナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●SDGs未来都市として力を入れる必要がある
	●他都市に負けない日本を引っ張るような牽引力を持ちたい
	●地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる
	●持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている
	●サステナブルなまちにするためには、消費だけではダメ
	●持続的な発展のため
	●チャレンジする実験都市であることが多くの人・企業を巻き込む力になる
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
横浜に住みたくなる・住み続けたい	●先進的でボーダレスで他にない環境を作ること(英語ファーストにするなど)が、横浜好きになる人、特に若い人が増える
横浜のアイデンティティ	●一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何も無いオープンな場所を作りたい
	●オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい
横浜の競争力を高める	●スマートシティの実現(太陽光、地熱、海洋風力発電施設の研究施設、水素発電施設、自然エネルギーによるイルミネーションなど)
	●横浜でお金を使う人が増える
	●横浜を日本の最先端都市にする
	●世界、東京・千葉と競える
	●持続的な発展のため
	●チャレンジする実験都市であることが多くの人・企業を巻き込む力になる
横浜ブランドを創る・高める	●環境まちづくりをリードしたい
	●東京にもみなどみらいにもない尖ったまちづくり
	●横浜のイメージが良くなる(シンボリックな場所になる)
	●東京でもできていないことをやる
	●横浜にも行ってみたいと思ってもらう

	<ul style="list-style-type: none"> ●2030 年を考慮した世界初のアイデア、アイテムが必要(2030 年はずでに通過点) ●他にない先進的な未来都市を目指す、残す価値のある未来を創る ●世界にここだけの個性的なエリアにしたい ●一流のもの、洗練されたものが集まる場所に ●他都市とかぶらない ●大切にしたいみなとみらいのイメージがある ●ブランディング(横浜としてどうしたいかを考えることが重要) ●世界に誇れる、あこがれの街、世界から注目される場所に ●日本から世界へ(芸術ならパリ、のように)
海に面する特性を活かす	●海洋研究の場にできることがオンリーワンになる(海上に実験農園など)
国際交流の拠点になる	●次世代のアジアの結節点として、世界に誇れる場所にしていきたい
国際都市としてのイメージがアップする	<ul style="list-style-type: none"> ●友だちに横浜を案内、自慢したくなる魅力があると良い ●国際性、知的イメージをより伸ばし、イメージアップ
市民が楽しめる・利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ●大学や企業の協力で、スポーツや食、水族館などが楽しめる ●大学の所有するスポーツ施設を貸して活用、プロスポーツも呼ぶ
市の収益の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜の産業をつくる＝税収が確保できる ●横浜でお金を使う人が増える ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21 世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる)
次世代につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜の未来に向けて貢献できる場所にするべき ●各世代が作っていくことができるコンテンツ。開発が山下ふ頭だけで終わらせるのではなく、開かれていくように
実証実験の場となる	<ul style="list-style-type: none"> ●自動運転、EVの実験空間 ●産・官・学によるスタートアップ支援やロボット、移動手段などの先進的な実証実験の場をつくりたい ●持続可能、カーボンニュートラルの研究開発／実験施設(ex.ウーベンシティ) ●モビリティの先進化、そのための実験場にしたい ●GAFAM等の拠点にしたい ●横浜＝実験都市(交通系実証実験など) ●それらを活用したイメージ戦略が可能 ●教育、研究、実装の場を市民、子ども、観光客も体験ができる
新しい文化が育つ	●芸術の実証実験特区、若いアーティストへの支援
新たな産業や技術を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブルなまちにするためには、消費だけではダメ ●海外に比べて技術は劣っていない。山下ふ頭で研究等ができるが良い

	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の技術者が憧れるような、先端技術を生み出す場所にしたい ●シンギュラリティ(人工知能が人間の知能を上回る時点)以降の世界を見据えた未来志向の社会を作らなければならない ●先進的なまちづくりでは、都市の中にしっかりと緑がある ●特区を形成し、最先端の研究がしやすい環境づくり ●先進的な技術や情報が集まる場所にしたい ●最先端の教育、研究、実装の場を軸に、大学や企業を育てる環境づくり ●教育と企業の研究開発が連携、両立していくべき ●大学や研究機関がほしい。本社機能を集めたい ●環境先進都市、再生可能エネルギーの世界的頭脳が集まる ●研究、グローバルを支える多文化／多様な環境づくり ●企業や大学とのイノベーション(ex.川崎キングスカイフロント) ●MM新高島では企業誘致がうまくできている(特区、税制優遇、国家連携など) ●新しい産業がスタートアップする土壌、高い所得の人が集まる(東京、大阪にないもので競合しないことを考えたい) ●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい ●これといった産業が弱い ●先進的な産業を育てていく必要がある ●情報化の進展と産業の発展に繋がってほしい ●先進的な取組みで横浜の成長につなげたい
人材が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ●知識集約、スタートアップ、学習への投資と継続が大事
世界から人が集まる	<ul style="list-style-type: none"> ●未病、医療を絡めた海外からのツーリズムを呼び込む ●世界に開かれたもの出ないとグローバル化に対応できない
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ●現代の文明開化、日本の先端都市としての横浜をアピール ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる) ●世界に向けた日本のシンボルとしての横浜であり続けてほしい(かつては開港・西洋文化のシンボル) ●世界の中の都市として位置づけられたい(かつて大戦前は世界2位の金融取引、世界一の港)
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ●先進性、技術力がこれからの時代に必要 ●先進的でボーダレスで他にない環境を作ること(英語ファーストにするなど)が、横浜好きになる人、特に若い人が増える ●先進性が横浜のアイデンティティ(常に先進的なことをしてきた街だとい

	う認識と自負、伝統と融合した横浜のブランド)
	●環境先進都市、関連技術が学べる
	●横浜の観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
多世代が楽しめる・交流できる	●お金を払わなくても楽しめる
	●幅広い世代が楽しめる
	●利益第一ではない再開発に
	●広い世代に使ってもらえる場所にしていきたい
滞在時間が増加する	●観光に来て泊まる人が少ない。泊まらせる仕組みが必要
	●閉ざされた空間だからこそ、長期滞在が出来る
文化・芸術に触れられる	●コンテンツ力を海外からも集積
歴史・文化を尊重する	●イノベーション偏重ではなく、文化としての大学を考えたい
	●日本ならではの歴史から先進性を学ぶ
	●横浜開港のイメージ(=先取り)

⑦緑・環境

再開発のイメージ	内容
カーボンニュートラルに取り組む	●エコ・脱炭素は時代に必須。国や世界の目標に貢献したい
	●省エネ・再エネは世界で求められている
	●少なくともエリア内でカーボンニュートラルを実現、近隣が大都市なのでバックアップ電源にもなる
	●自然エネルギーの可能性を追求
	●カーボンニュートラルの実現(再エネ、省エネ、水素エネルギーを活用した次世代交通システムなど)
	●周辺に建物が無いので、太陽光パネルは機能しやすい
	●波力発電、潮力発電の技術開発
サステイナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●脱炭素化や緑環境を守る、SDGs
	●循環するシステムとそれを支えるコミュニティ
	●持続可能な社会の実現
	●SDGs未来都市として力を入れる必要がある
	●他都市に負けない日本を引っ張るような牽引力を持ちたい
	●地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる
	●持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている
	●既存の環境や施設を資源として利用することで環境負荷が小さい開発に
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
横浜に住みたくなる・住み続けたい	●住み続けたい街に
横浜のアイデンティティ	●一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何も無いオープンな場所を作りたい
	●オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい
	●海があるので、海を大切にしたい
海と緑が調和している	●海があって公園がある今の環境を大事にしたい
	●まちの中でのんびり過ごせる場所が少ないため、緑と水のある場所は活かしていきたい
	●緑と水辺をつなげる場所として、山下公園から繋げていきたい
	●海と連続した自然の創成や生物の多様性を生み出す環境をつくる
	●海に囲まれた立地、水辺空間のネットワークを
	●持続可能なエネルギー供給システム、水と緑とエネルギーのネットワークの実現

海に面する特性を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋研究の場のできる事がオンリーワンになる(海上に実験農園など) ●魚を育てて食べられるなどできたら良い ●羽田に直結する高速船を誘致 ●海に囲まれた環境を生かす
開発に緑を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ●MMはせわしない ●緑で経済は活性化しないが、緑で開発をアシストする
開放的な憩いの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●チルアウト(ゆったりする)場所が欲しい ●子どもと家庭を大事にしたい。子どもを連れていける場所が欲しい ●海をのんびり眺める緑地 ●自然との共生、緑のネットワーク、人の営みがバランスよく存在する場 ●海があつて公園がある今の環境を大事にしたい ●遊歩道、木陰、風の道をつくりたい ●市民の憩いの場、散歩できる場所 ●市民の文化の森 ●子どもが走り回れる場所がほしい(埠頭マラソンなど) ●緑化と文化的コンテンツを掛け合わせた場所にしたい ●港付近の緑は海の風を防いでくれて、憩いの場にもなる ●公園や樹木があつて市民が自由に集える、安心して憩える ●自然にやさしい、人の集える、緑のある空間 ●人が集まるための熱環境、コントロールのための緑
港町の風景が見れる	<ul style="list-style-type: none"> ●非日常的な元の港のイメージを残しながら、新しい価値創造によって更新する
市民が楽しめる・利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の健康に資するような開発に
市の収益の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる)
周辺の景観と調和している	<ul style="list-style-type: none"> ●周囲の地形を意識したビルの高さの街、高層ビルでない街づくり ●太陽光パネルで景観が悪くなるのはイヤだ
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> ●運河チャレンジ、ハマロードサポーターや公園愛護会など市民の活動と連携
新たな産業や技術を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ●常に新しいモノを提供する、世界最先端の技術・研究機関 ●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる)
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨコハマの観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい

	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する) ● 脱炭素をリードするまちづくり ● 注目されるエリア、日本全体のモデルに ● 水素、海洋、自エネなどの最先端の技術、研究機関 ● 日本のモデルとなる
船が停泊する	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内物流を支える 5000 隻の内航船が航行する現状に対して、それらを受け入れる設備がある港は少ない
豊かな緑がある	<ul style="list-style-type: none"> ● フランス山や山下公園など、周辺の緑との連続性 ● フランス山との繋がり、フランス山との一体的なデザイン ● 緑が少ない、自然にふれたい、心を落ち着かせたい ● 樹木やみどりを大切にしたい ● 横浜には緑が少ないから ● まちの近くにある緑は貴重なため残していきたい ● 山下公園から延びる空間・緑が大事 ● 山下公園からの連続(緑を多く)
防災機能を備える	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑地は災害時、避難の生活場所にもなる ● 万一、災害があったときには、避難、復旧の拠点にもできる ● 予備の土地として、仮設住宅などを建てる場所を残しておくことも大事 ● ただし、津波の時は別の場所を考える必要がある

⑧歴史・文化・芸術性

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●100年先を考えたまちづくりを進めたい
	●国際的、先進的な緑（建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する）
シンボルがある	●横浜のシンボルになる、山下ふ頭のアイコンになるもの（建物等）がほしい
異文化・多文化にふれる	●世界の文化を体験したい
横浜のアイデンティティ	●横浜の入り口、海の入入口、歴史的な船の入入口としての立ち位置を残していく
横浜の競争力を高める	●歴史＝そこにしかないもの、経済で測りにくいものの方が競争力がある
横浜ブランドを創る・高める	●古いものも新しいものも活かして、「カッコイイまち」に。MMIに足りない何かを残して、横浜のアイデンティティとしたい
	●ブランドやシビックプライドのコアにあり、基軸となるもの
	●金太郎飴の開発にしない
	●横浜への新しい入り口をつくる
	●横浜にしかないものが、国際的な価値、ブランディングにつながる
	●横浜らしさ・横浜の独自性があることが、世界への発信に必要な要素（首都圏の巨大なマーケットが後背にある一等地、地方ではできないことが、横浜の立地特性、発信力の中でできる）
	●市民の誇りを育てていく
横浜らしさが感じられる	●歴史＝そこにしかないもの、経済で測りにくいものの方が競争力がある
	●昔に比べ横浜の魅力が薄らいでいる。もっと歴史・文化を遡り、世界No.1を目指す
	●横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ
	●スカーフや古くからあるお菓子などから、歴史を感じられる景観まで、論理ではなく、「好き」と感じられる価値観が重要
	●横浜にしかないものが、国際的な価値、ブランディングにつながる
	●横浜らしさ・横浜の独自性があることが、世界への発信に必要な要素（首都圏の巨大なマーケットが後背にある一等地、地方ではできないことが、横浜の立地特性、発信力の中でできる）

海に面する特性を活かす	●海を最大限活用（海上交通、運河チャレンジと結びつける、パーク&ライドの拠点など）
開発に緑を取り入れる	●歴史的建造物の活用と緑の融合
港町の風景が見れる	●港と海により発展した横浜の景色を残したい
国際都市としてのイメージがアップする	●横浜は過去、文化交流を進めてきた（中華街以外の外国人街も）
市民が楽しめる・利用できる	●市民が利用する、楽しむ（企業の思惑に引っ張られない）
次世代につなげる	●50年後、100年後の未来の子どもたちのためなるもの
	●100年先を考えたまちづくりを進めたい
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●市全体の都市デザインに横断的に位置づけた取り組みに
	●内港地区を文化の街にするという位置づけをする。その上で山下ふ頭を位置づける
	●大学や企業のビル、タワーマンションによるまちづくりはそちらでよい
新しい文化が育つ	●新しい歴史・文化を育てていこう
	●大衆文化を育てるインキュベーション、オンリーワン
	●音楽をやる人が駅前ライブからメジャーデビューするように（キーワード・愛称として『はまたまご』）
	●みなとみらいとは違う「地元っぽい文化の街」
	●若いアーティストが表現できる場所に
	●若いクリエイターの応援、発表の場づくり
新たな産業や技術を創出する	●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい
先進的なまちである	●ヨコハマの観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい
	●国際的、先進的な緑（建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する）
	●2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をふまえ、転換期に
	●市民のためのまちづくりの中に先進性をとり入れるという考えにしたい
多世代が楽しめる・交流できる	●子どもたちも楽しめる場
文化・芸術に触れられる	●制作現場を見学したい（トリエンナーレの小規模版など）

	<ul style="list-style-type: none"> ●BankARTのような文化・芸術性、共通の民主性を育むもの ●海外にあるような多機能図書館、絵本の図書館などがあると良い ●子どものうちから芸術や文化に触れられるような機会をつくりたい (ex. 青山にある子どもの城、アートエデュケーションMOMA、現代アートの美術館や多機能図書館など)
文化を活用する・発信する	<ul style="list-style-type: none"> ●行き止まりの土地、駅から離れた立地をカバーする工夫=わざわざ来てもらえるようなもの=アニメ、文化などのアピールできるコンテンツがいる ●文化の交流拠点、文化発信の象徴となるものがほしい ●日本文化の強みを世界に発信したい
歴史・文化を感じることが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ●ノスタルジック、ロマンを感じるものがあると良い (ex. 鹿鳴館の復元など) ●元々のふ頭であったことをどこかで体感できる、ふ頭だったからこそこれができた (と言える開発を) ●埋立地だが、歴史を感じさせる施設を作りたい ●横浜発祥の歴史を体験したい、海をテーマとした歴史・文化を発信して魅力化したい ●周囲に歴史・文化・芸術施設はあるが、もっとあっても良い
歴史・文化を尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ●日本ならではの歴史から先進性を学ぶ ●歴史を大事にすることは未来につながる (歴史は資産) ●市民の誇りを育てていく ●歴史・文化を尊重したい ●横浜の古くからの文化を大切に ●まちの風土や歴史を大事にしたい ●山下ふ頭がふ頭として存在していた記憶を残したい ●開国や埋立、京浜工業地帯の歴史を伝えたい ●空が見える、空気を感じる、地に足が着いている、人の顔が見える ●「横浜」の名前の由来 (横に長い浜) をアピールしたい ●港の歴史を大切にしたい ●山下ふ頭の歴史を語り継ぐ大切さ ●今残っているのは、いいものだから残ってきた

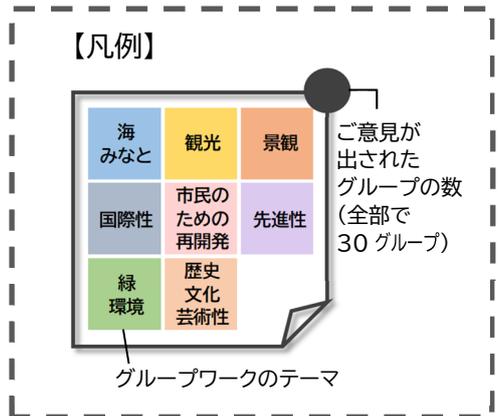
	<ul style="list-style-type: none"> ●元々の中区の風景を再評価（本牧の海辺に広がっていた風景、米軍住宅地のゆったりとした芝生の広がる風景といった「タダっぴろさ」）
	<ul style="list-style-type: none"> ●港湾都市横浜にふさわしい都市像、歴史を踏まえて未来につなぐ
<p>歴史資産を残す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的建造物を活かし、国際性を伝えるまちに
	<ul style="list-style-type: none"> ●産業遺産として山下ふ頭を残す（ユネスコ世界遺産登録など）
	<ul style="list-style-type: none"> ●利用できる既存施設は活用する
	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の施設を利用することで埠頭の歴史を継承

《グループワークのテーマと再開発のイメージ(一覧)》

テーマ	再開発のイメージ
海・みなと	<p>サステイナブルを実現する／横浜のアイデンティティ／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしい景観が見れる／横浜らしさが感じられる／海と緑が調和している／海に面する特性を活かす／開放的な憩いの場づくり／港に親しみが持てる／港町の風景が見れる／国際交流の拠点になる／国際都市としてのイメージがアップする／市民が楽しめる・利用できる／周辺の景観と調和している／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新しい文化が育つ／先進的なまちである／船が停泊する／防災機能を備える／歴史・文化を尊重する</p>
観光	<p>サステイナブルを実現する／シンボルがある／ナイトタイムの活性化／横浜の魅力をアップする／横浜ブランドを創る・高める／海に面する特性を活かす／交通利便性の向上／国際交流の拠点になる／市全体の活性化に寄与する／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／次世代につなげる／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新しい文化が育つ／新たな産業や技術を創出する／居住できる／世界から人が集まる／世界から注目される／先進的なまちである／船が停泊する／多世代が楽しめる・交流できる／滞在時間が増加する／文化を活用する・発信する／防災機能を備える／歴史・文化を尊重する</p>
景観	<p>シンボルがある／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしい景観が見れる／誇れる街並みを創る／港町の風景が見れる／周辺の景観と調和している</p>
国際性	<p>シンボルがある／異文化・多文化にふれる／横浜のアイデンティティ／横浜の競争力を高める／国際交流の拠点になる／市の収益の向上／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新たな産業や技術を創出する／世界から人が集まる／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる</p>
市民のための再開発	<p>サステイナブルを実現する／横浜に住みたくなる・住み続けたくなる／横浜の魅力をアップする／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしさが感じられる／海に面する特性を活かす／開放的な憩いの場づくり／教育・知的探求の場／交通利便性の向上／国際交流の拠点になる／市全体の活性化に寄与する／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／次世代につなげる／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／身近な市民生活を豊かにする／居住できる／人材が育つ／世界から人が集まる／世界から注目される／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる／誰もが利用できる／文化を活用する・発信する／防災機能を備える／歴史・文化を尊重する／歴史資産を残す</p>
先進性	<p>DX 等を取り入れる／カーボンニュートラルに取り組む／サステイナブルを実現する／横浜に住みたくなる・住み続けたくなる／横浜のアイデンティティ／横浜の競争力を高める／横浜ブランドを創る・高める／海に面する特性を活かす／国際交流の拠点になる／国際都市としてのイメージがアップする／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／次世代につなげ</p>

	<p>る／実証実験の場となる／新しい文化が育つ／新たな産業や技術を創出する／人材が育つ／世界から人が集まる／世界から注目される／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる／滞在時間が増加する／文化・芸術に触れられる／歴史・文化を尊重する</p>
緑・環境	<p>カーボンニュートラルに取り組む／サステイナブルを実現する／横浜に住みたいくなる・住み続けたいくなる／横浜のアイデンティティ／海と緑が調和している／海に面する特性を活かす／開発に緑を取り入れる／開放的な憩いの場づくり／港町の風景が見れる／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／周辺の景観と調和している／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新たな産業や技術を創出する／世界から注目される／先進的なまちである／船が停泊する／豊かな緑がある／防災機能を備える</p>
歴史・文化・芸術性	<p>サステイナブルを実現する／シンボルがある／異文化・多文化にふれる／横浜のアイデンティティ／横浜の競争力を高める／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしさが感じられる／海に面する特性を活かす／開発に緑を取り入れる／港町の風景が見れる／国際都市としてのイメージがアップする／市民が楽しめる・利用できる／次世代につなげる／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新しい文化が育つ／新たな産業や技術を創出する／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる／文化・芸術に触れられる／文化を活用する・発信する／歴史・文化を感じることができる／歴史・文化を尊重する／歴史資産を残す</p>

《再開発のイメージのまとめ》



(3) 導入機能のまとめ

グループワークで出された導入機能の具体的なアイデアを整理した結果、下記の5つのカテゴリーに集約することができました。この5つのカテゴリーごとに導入機能の具体的なアイデアと山下ふ頭である理由、期待される効果を紐づけて整理しました。

カテゴリー： ①学術・研究開発機能／②大規模集客機能／③公園・レクリエーション機能／④文化・交流機能／⑤交通機能

①学術・研究開発機能

導入機能・施策（◆施設配置・空間イメージ等）	山下ふ頭である理由	期待される効果
海洋資源の維持と活用を目的とした研究施設		<ul style="list-style-type: none"> ●画一的ではない、新しい港の創造 ●ここにしかない情報が集まる、特殊なタッチポイントとなる
まちの中にとけ込む大学や研究施設（チャレンジのできる教育の場、パラエントメ・スポーツと文化とを結びつけた活動等）	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺に学びの土壌がある（山手の文教地区、ミッションスクール集積の歴史を継承） ●関東学院、神大、国大など大学の都心回帰の動きがある 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの中で交流しながらの研究や学びが期待できる ●長い眼で見て文化の拠点に育てたい ●若い人がファンになって横浜に定着してほしい（若い人が集まると文化の発信が期待できる）
大学間の共同利用施設（市内27大学が集まって利用できる。アニメや映像などの分野でパラの活動とも結びつけていく）	<ul style="list-style-type: none"> ●教育や文化は持続性ある取り組み、観光に頼るまちづくりは限界がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●共同の活動の中から、経済を活性化させるコンテンツを街に入れこんでいく
先端研究の頭脳が集まる、スタートアップの化学反応が生まれるまち（有名私大の研究施設、企業との協力施設、新しいモビリティの実験フィールド等）	<ul style="list-style-type: none"> ●羽田からのアクセスが良い ●オンオフの切り替えが周囲の街で楽しめる、産学民が連携しやすい立地 ●モビリティの実験的エリアとして区分しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育を大事にするまちとしての横浜のイメージアップ、世界的な知名度・ブランド価値の向上 ●若い人が横浜で住み活動し続けたいと思える ●横浜開港 170 年の歴史を未来につなぐまちづくりになる
大学や企業が開放する施設で市民もスポーツや食を楽しめる（食や農の企業施設や大学と連携、地産地消の企業や大学の食堂レストランを一般にも開放／既存の倉庫を生かして改修活用する可能性。それにより埠頭の歴史もひき継ぐことができるという）	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツに興味がある人が来場するには特に問題のあるアクセスではない 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学の収益にもなる。それを教育に投資できる ●健康や食料の問題に発信していくことは、今後大事になる

先端技術による体験型施設、イノベーションの場（VR、メタバース等による体験・教育施設、eスポーツの研究所、ベンチャー企業の誘致等）	<ul style="list-style-type: none"> ●ゼロベースのまちづくりに市民が参加できる仕組みを 	
<p>実験施設（トレーサビリティがとれるセンシングデバイス／EV自動運転の実験場など）</p> <p>◆南東側に配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●広大なスペースがあり、何も無いゼロ・エリアなので、トライ&エラーができる ●海外とのハブとなる港である（船のアクセス性が良い） 	<ul style="list-style-type: none"> ●サイネージ、移動ロボによって開発者と体験者がリアルタイムにフィードバックできる
「総合大学のあるまち」（市大と国大を統合した総合大学、横浜市大の移転拡充／環境先進性ある防災機能をもつ施設・センター）	<ul style="list-style-type: none"> ●知的文化的活動にふさわしいゆったりした場をつくれる ●海と空の環境を活かす実験ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学と研究施設で海外から人を呼ぶ
<p>企業・大学の誘致、環境配慮型建物やモビリティ（地下に発電、CO2、エネルギー循環できるものを埋めるなど）</p> <p>◆東側に企業や先進性のある研究施設などを誘致</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題も考え、再生可能エネルギーなどを利用したい 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜のエネルギー問題を考えるきっかけとなる
<p>産学連携、研究開発施設（データセンターを誘致、水素工場、ソーラー＋蓄電池の研究開発など）</p> <p>◆奥は人があまり動かないエリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海に囲まれている＝エネルギーや原料輸入がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●先進性をアピールできる ●企業や学生がお金を落とす ●研究成果を市民や子どもたちに還元できる
開かれた大学（国際大学、市民に開放する）	<ul style="list-style-type: none"> ●敷地が広い（他の大学はビル型だが、この場所はキャンパス型が成り立つ ●海が見える ●アクセスが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ●学生以外の一般の人、多世代、家族、学生が交流・学習できる ●研究能力が向上することによって、市の魅力が向上し、税収UPにつながる
体験型教育研究施設（デジタル博物館、VRをつかった世界旅行体験／全学校とのネットワーク／横浜の歴史を学べる、デジタルアーカイブの構築等）	<ul style="list-style-type: none"> ●広い敷地がある ●横浜の中心部にある ●異文化の玄関口 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化コンテンツが集積し、デジタルアーカイブが構築されることで、知の殿堂を築ける ●学校とのネットワークを生かし、未来の子供達へ教育プログラムを発信できる
水産研究所＋横浜産フードコート（実験農場・漁場）	<ul style="list-style-type: none"> ●研究所はへんぴな場所に多いため海・都市に近い横浜ならではの 	<ul style="list-style-type: none"> ●多くの観光客に食糧自給を伝える＋都市型水産業に触れる
最先端研究のための特区指定	<ul style="list-style-type: none"> ●研究しやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●最先端の技術が集まる
研究施設（企業＋大学）	<ul style="list-style-type: none"> ●広い 	<ul style="list-style-type: none"> ●税収増（多くの通勤・通学者が

◆エリア中央部分に大学、研究所、スポーツ施設、住宅などを配置	●港があるので海外から人を呼びやすい	集う)
研究系中小企業の誘致	●情報が集まり、交わる場所になりたい	●企業間交流を促進
研究開発機能(実験特区、発表の場、スペースポート、JAXAとの連携など)	●セキュリティ性が高い、何かあったとき隔離しやすい ●都心からのアクセスがいい ●国際的なイメージ、人権や人文等に関する研究	●土地の得意性を活かした研究、実験、発信ができる ●ハイクラス人材の所得税が入ってくる
研究開発拠点(日本版シリコンバレー、国立の研究機関・国立大学の誘致、スタートアップ企業間交流の拠点)	●横浜の真ん中にも産業に関連したものをおくべき ●中核部として人の集まる場所になる	●先進性の高い知見が集積出来る
海洋、港に関するテクノロジー発展の拠点(水素等、船への新エネルギー供給施設)	●船は新エネルギーの動力に切り替わり始めているが、新エネルギーの供給拠点は国内にほとんどない	●新しい時代の船舶が出入りしやすい環境が整備された港となる
先進的な研究・実験をする施設・企業・研究所(アクセスの良さ・バツグンの居住性・発信力を活かした専門人材の活動拠点)	●専門人材がそのテーマに没頭できる環境のため ●関連産業の育成のため	●人材と人口増 ●収益増
技術開発の拠点(ゲーム、ロボットなど)	●横浜のシンボルとしての場所	●将来的に需要の高い介護ロボットへの技術転用
言語の研究施設、国際機関の誘致	●文化を取り入れてきた場所、異文化の玄関口だった	●減少している世界の言語研究を通じて、多様な文化の集積・交流が望める
海上の大学まち、キャンパスタウン ◆多くの学生が使う水上アクセス、シーバス(羽田とも結ぶ)	●オンリーワンの土地をユニークに使うべき ●他にはないまちづくりになる	
文化教育・研究機能(大学を中核に、国際図書館、平和博物館、音楽・演劇ホール／野外音楽堂も／ロボット&AIのプラットフォーム開発センター／教育・子育ての情報集約)	●広くて海に開けていて開放的 ●既存市街地とつながっている、近い(根岸、磯子、本牧など他地域との広域的なつながり)	●若い人のエネルギーが集まる、新しい文化が生まれる(ex.ボストンの学生街は平均年齢 27 歳) ●学生が遊ぶ場所が生まれる、伊勢佐木町の書店が活性化する
若者の発表の場(洋館で人目を引き若者たちの作品をシェアしながら展示販売、ワークショップなど)		
環境先進技術を学ぶ、感じられ	●山下ふ頭のアクセスの悪さを考	

<p>る教育施設、公園(科学館、大学、植物園)</p>	<p>慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●勤め人、学生など行かなければならない人のためのものをつくる ●環境先進都市は関連する事業のスタートアップ支援募集、補助金が必要 	
<p>大学キャンパス(たとえば世界一の海洋大学、海上キャンパス、環境、水産、物流、エネルギー分野／先進的な環境であることを打ち出して、世界からコンペで提案を募る)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●先端的な大学にとって他にない素晴らしい立地といえる ●世界的にも課題になっている港湾地区の転換をグローバルに考える知の役割を担える ●海辺ならではの技術開発、交通の分野、環境への取り組みに取り組める 	<ul style="list-style-type: none"> ●知や環境を大事にする市のまちづくりの方向性、姿勢をアピール出来る。横浜の価値もあげる ●投資を外から呼び込める ●学生が集まれば経済効果は大きい ●次世代の横浜を担う若い人たちの移住定住を促す(大学時代から横浜ファンを増やす)
<p>市民に開かれたキャンパスタウン(他の人も訪れることができる研究の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆水辺カフェ ◆地産地消のフィッシャーマンズワープ 	<ul style="list-style-type: none"> ●美しい景観を生かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が先端の取り組みにも触れることができる
<p>環境問題に取り組む水辺のキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆都会のビル型ではないマルチキャンパス ◆ひょうたん島のような緑の丘をつくる ◆多様な生物が育つ人工干潟 ◆ふ頭の付根を水路で切り離せると、関内・関外一周の水上ルートができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●こんな都心なのに、こんなに鳥が来るという環境 ●再生可能エネルギーやゼロエミッションなどの環境への取り組みも進めやすい立地 ●エネルギー、環境、港(これからの水上交通や海運)に関わる実験に向いている 	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋分野は今後有望(他で取組んでいない) ●さまざまな分野からの投資を呼び込める ●みどり税はいつまで続くのか含めて、負担と効果を検討したい
<p>学びから働くまでを横浜で一貫させた機能(世界的にメジャーな大学、国際性のある大学の誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まとまった土地がある ●直接人を呼ぶのではなくイメージで引っ張る ●従来の横浜のイメージとの相乗効果で高めあう 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材流入、流出防止 ●まちのイメージアップ ●横浜に住む、働く理由が生まれる ●税収増
<p>世界 No.2 の金融都市を目指したスタートアップ支援機能(画期的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜正金銀行があるなど世界 No.2 の金融都市であったため 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外からの訪日 ●スタートアップ起業が増加

事業をする企業への税軽減などのスタートアップ支援、ASIAのCI TIに)		
世界共通の課題に応えられる機能(グリーン水素先端研など)	<ul style="list-style-type: none"> ●世界共通課題であるため(横浜の先進イメージをつくりたい) ●海外からの訪日、留学(セントレア空港的なコンセプト) 	●若者が横浜を目指す、学生の「なりたい像」への具体像になる
エネルギー関連施設(潮力発電等の研究施設)	●産油国ではないという国の事情を解決できる場所にしたい	●人と情報の循環が期待できる
再生可能エネルギーの活用(エネルギーを作れる機能、水素ステーション、土壌浄化、水質浄化など)		●エネルギーインフラの確保
環境対策の「見える化」ができる施設(洋上発電設備、船の陸上電源施設、発電床など/海に関する新しいコトを学び、体験できる教育機関) ◆南東側に配置	●海を最大限に利用できる、船をつけることができる	
建物の緑化、発電(屋上緑化、外壁緑化、施設内の電力を賄う仕組み)		
再生可能エネルギーによるエリア内自給システム	●広い面積があるから	
横浜市大病院の誘致	●市有地がある(=横浜市民の財産)	
医療・サービス機能(小児医療、医療系の大学/入院している親子が泊まれる施設、先進医療が受けられる全面オーシャンビューホテル)	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋医療に期待(ハイドロセラピー) ●都心部での更地は貴重なので可能性が大きい ●ふ頭の新たな姿、価値を生む 	<ul style="list-style-type: none"> ●海を見たい!という欲求に答えられる ●老若男女集まる場所になる ●市民の健康が増進する、医療費の抑制につながる(未病の考え方)

《学術・研究開発機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
<p>先端研究施設・海洋研究施設、企業と大学の連携、市民に開かれた大学・研究施設 等 《施設配置・空間イメージ等》 集客施設とは一定の距離をおいた環境づくり 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●羽田からのアクセスが良い ●周辺に学びの土壌がある ●大学の都心回帰の動き ●実証実験の場にふさわしい ●教育や文化への投資は持続性ある取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●ここにしかない情報が集まる、特殊なタッチポイントに ●世界的な知名度・ブランド価値の向上 ●教育への投資、若者の定着 ●エネルギー問題への貢献 ●健康や食料問題への寄与 等

②大規模集客機能

導入機能・施策（◆施設配置・空間イメージ等）	山下ふ頭である理由	期待される効果
にぎわいを生むエンタメ・スポーツ施設（水族館、世界の一流選手が集うスタジアム、そのための宿泊施設等、税制の優遇、規制緩和も必要）	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲が海に囲まれている、横浜を代表する立地 ● プロスポーツが多く、テニスやラグビー発祥の地でもあることを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界中から誘客が可能
球技専用の屋内アリーナ・スタジアム（ホテル＋スポーツ・ツーリズム、 ◆ 東京ドームよりは少し小さめ、陸上トラックはつぐらない ◆ 南東側に配置（逆に少し離れた場所にして歩かせることで、賑わいと回遊を生むという考え方もある）	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存施設は使い勝手が悪い（三ツ沢はアクセスが悪い、文化体育館、横浜アリーナは球技専用ではない、横浜国際競技場は陸上トラックがありJFAも使いたがらないなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際大会を開催し、国内外から人を集める ● 非常時には防災施設にもなる ● シンボルとなる
先進医療が受けられる総合施設（アリーナ、ホテル等） ◆ 中央に大学や病院など、融和性の高い機能を配置		<ul style="list-style-type: none"> ● 世界中から患者を呼べる
サッカー専用スタジアム兼コンサート・イベントホールなど ◆ 手前（山下公園側）は、市民のためにお金が落ちるエリア	<ul style="list-style-type: none"> ● 不便な場所だからこそ、強いコンテンツによる集客を求めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が楽しめる ● お金が落ちる
テーマパーク＋リゾート（ホテル、プール、クラブのような交流の場）	<ul style="list-style-type: none"> ● そこが目的となるような施設があると良い ● 横浜の市街地と近い 	
客船ターミナル＋飲食店・ホテル・日本文化の体験施設（ex. サンフランシスコ、ボストン／羽田イノベーションシティのように、日本食、足湯等の日本文化を体験できる）	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地・岸壁が良い。海外の人を海から呼び込むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 元町・中華街への回遊性を生む ● 大手ではなく、中小の会社が出店。MMや中華街にはない商業を入れることで、住み分ける
シンボルとなる施設が必要（シンガポール・チャンギ空港の複合施設JEWELの巨大な滝など）	<ul style="list-style-type: none"> ● 各所から眺められる場所なので 	<ul style="list-style-type: none"> ● シンボルがあれば集客効果がある
先端技術をテーマにしたエンタメ施設（世界最大のプラネタリウム、バーチャル宇宙旅行体験など／開発エリアを見学して回れる、オ	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい文化は港から生まれる ● 文明開化の街ヨコハマにふさわしい ● 宇宙分野は最先端のテーマ 	

<p>オープンなエリアに)</p> <p>◆南東側に配置</p>		
<p>海に関する集客施設(世界最大の水中水族館、海に関する歴史・文化・芸術を学ぶことができる教育機関など)</p>	<p>●横浜＝海のイメージ</p>	
<p>コンセプトホテル(文化施設と融合、泊まれる図書館、美術館)</p> <p>◆内港地区の眺望を活かすために西側に配置</p> <p>◆南側ふ頭入口には山下公園と連続するに広場を配置</p>	<p>●大消費地／人口地／日本の玄関施設から近い</p> <p>●ロケーションが良い</p>	
<p>宿泊機能(観光用ホテル、リゾート)</p>	<p>●ホテルが少ない</p> <p>●都市型リゾートホテルがない</p>	
<p>YDP(横浜ディズニーポータルランド)</p>	<p>●海上交通が利用できる(食、海外クルーズ船)</p> <p>●住民への騒音問題を回避できる、インフラを一から用意できる土地の広さ</p>	<p>●世界から人を呼び、財政を潤す</p>
<p>みんなが楽しめるスポーツパーク(24時間楽しめるエリア)</p> <p>◆中央にサッカー専用スタジアム・ライブ会場</p> <p>◆山下公園側に都市型スポーツの集まる場所(スケートパーク、BMXなど)</p>	<p>●賑わいを持たせるためには集客力のあるものが必要</p> <p>●住宅地から遠いので、騒音問題をクリアできる</p>	<p>●集客力、外国人も集まる</p>
<p>メタバース・エンタメ施設(e スポーツ大会、アニメ・マンガ体験など)</p>	<p>●最先端の技術集積と、広大な敷地を使うことで魅力を生み出すことができる</p>	<p>●世界中で巨大化する競技人口にとって中心的なエリアとなる</p>
<p>国際大会が開催できるスポーツ施設(特にテニス／国際大会で使っていないときは市民が優先、優遇して使える)</p> <p>◆森に囲まれた市立のインターナショナルスクール</p> <p>◆給食センター</p>	<p>●野球、サッカー施設は既にある</p> <p>●羽田空港からもアクセスが良い</p> <p>●エンタメ、MICE、観光はみなとみらい地区などに既にある</p>	
<p>テーマパーク(ポケモン、米軍、海のイメージなど／飽きられないように、期間限定のコンテンツにする、テーマを固定せずニーズに合わ</p>	<p>●広い、土地がフラット</p> <p>●騒音を気にせず済む</p> <p>※市民が気軽に来られる場所ではないので、来街動機となるテ</p>	<p>●テーマパークやスポーツ施設に訪れた人が、中華街で食事をしたり、元町でショッピングを楽しむ</p>

せて流動的に／宿泊施設を併設) ◆エリア全体をテーマパーク化 ◆3つの突端部分に海を楽しめる 観光ゾーン(あるいは企業の保 養所)	ーマが必要	
世界の注目を集める施設(全世界 の参加を促すeスポーツのスタジ アム)	●横浜港の中心で世界からの関 心を集めることで、横浜全体に 経済を循環させる ●若い世代を集めるきっかけとな る	●山下ふ頭だけでなく、横浜全体 に様々な世代、世界の人々が 訪れる
ディズニーの誘致(クルーズ+ディ ズニーストア)	●高い事業性がある	●浦安と水上交通でつないで、ディ ズニーコンテンツで東京湾ネ ットワークを形成できる ●長期の大きな収入が得られる
ディズニークルーズの寄港	●カジノがなくなったので呼べる 可能性がある	●世界的にも人気のあるクルーズ で注目される ●経済効果は大きい
エンターテイメントのための施設 (イベント・コンサート会場、劇場+ 国際交流センター・国際会議場)	●広さ、アクセスの良さ(海外から のアクセス) ●セキュリティが高い、有事の際に 隔離しやすい	●人が集まる ●文化を次世代につなげる ●MICE+ホテルで1日中おもて なしが出来る ●レストランやバーが生まれる
誰でもいつでも使えるスポーツ施 設 ◆全天候型の屋内施設(開閉式 の屋根)		
新しいスポーツの拠点(スケボー パーク、BMX、海を背景としたプ ール、eスポーツスタジアムなど)	●周辺への音を気にしなくてもよ い環境 ●広大な港の空間のなかで活動 できる	●これまであまり表に出て活動で きなかつた様々なスポーツをやる 人が集まり、楽しむことができる
内航船が立ち寄れる施設(港湾施 設のスケールを活かした商業施設 +宿泊施設、倉庫) ◆大型スーパー、冷凍倉庫をその まま使えるような生鮮売り場 ◆コンテナホテル	●内航船は国内でも重要な役割 を担っているが、なり手が減少し てきて業界は危機的状況にあ り、将来的に内航船の船長な ど、船に関わろうとする子ども たちを増やしたい	●内航船やそこで働く人の姿を日 常的に見ることができる
既存資源の利用(コンテナ・コンテ ナ船、倉庫など) ◆コンテナ・コンテナ船を利用した ホテル	●港として使われてきた歴史を持 っている ●周辺の宿泊施設は高い	●港の歴史を感じる部分を残すこ とができる ●来た人もコンテナになって流通 するような体験ができる

◆倉庫を屋台に改造		●安く泊まれる場所を中心部に作ることで、様々な背景の人が滞在できるようになる
外国からのゲストがきた時のおもてなし機能(ラグジュアリーなレストラン、日本美術館、ポケモンパークなど)	●おもてなしにふさわしい景観がある ●まとまった土地がある ●原三溪の意思を受け継ぐ	●観光収益の増加 ●多様な人が楽しめる(富裕層が楽しめる施設が少ない) ●世界から人を集める
泊まれる機能(観光客だけでなく／スポーツの合宿所、ペットと泊まれるホテルなど)	●東京から高速船でアクセスできる ●都市とふ頭の距離感が良い	●税金・人口が増える(長期的に見込めるマネー) ●一般の人もお金を払う、企業もお金を払う ●働く人が集まる、家族が集まる
スポーツ・eスポーツ(スポーツのテーマパーク／性別、年齢、障害などのバリアフリー、次世代スポーツ施設／スケートボード場、合宿所、芝生、グラウンド／世界中のプレイヤーが集まる e-sports 施設とホテル)		●新しさ=ヨコハマのイメージアップ ●新体験(希少性) ●新しさと文化の融合、街としてのブランディング
スポーツ(アリーナ) + エンタメ・ビジネス拠点(ウェルネス関連企業研究所や新しいコンセプトの病院、保育所・子供向け施設、衣食住の体験の場としてのリゾートホテルなどの複合)	●広大な敷地を既存の制約にとらわれずにゼロベースで作られる場所 ●世界から人を集める拠点となる立地 ●市民、観光客等が参加、交流しやすい機能	●プロジェクトYの推進(クオリティ・オブ・ライフを実験・研究し、サービス・製品を生み出し、実証・体感できる場・機会を提供、持続的な取組に発展する) ●実験都市として活性化 ●ビジネスが活性化する、市の税金につながり、市民にも多様な価値が還元される ●ウェルネスの増進 ●多様なコミュニケーションができる場となり、国際的に注目される
フィッシャーメンズ・ワーフ(食のテーマパーク)	●中央卸売市場が老朽化しているので移転する	●ハマの農産物を知ってもらうとともに、全国との交流の場にできる ●道の駅のような公設の場所があれば、民間ではやりにくいマルシェやシェフを集める活動も出来、発信力がある
ナイトタイムの活性化=夜景を活かす(開放感のある公園、周辺地)	●東京や千葉からも近く、海からアクセスできる強みを活かす	●夜景の需要は高く、マリンスポーツや海水浴場もあれば幅広

区の景観づくり等)	●周辺に観光地があり、連携して活性化できる	い層が集まる ●夜の安全性を高める
トライアスロンなど、海×スポーツ＝マリンスポーツができる場所に	●大規模なものはこちらでしかない	●世界から注目される
モータースポーツの街、街なかでのF1開催(ex.モナコ/オフシーズンもホテル等で楽しめる) ◆外周をF1コースにし、中側に街をつくる	●ふ頭では騒音問題が発生しない。FIA(国際自動車連盟)がコース形状などを評価している	●世界の人が注目する ●日産などの地元企業も盛り上がる
アニメなどのエンタメコンテンツ	●アニメにはインバウンドを誘致する力がある ●敷地が広く、様々な機能・コンテンツを導入できる ●横浜の玄関口としてインパクトを与えられる	●インバウンド誘致による税収UPが見込める
若者向け施設(デートスポット、飲食店、フットサル場など)	●若者が来る動機付けが必要	●若者が遊びで一日過ごせるようになる
スポーツ施設(国際競技場、市民利用も出来る)		●シンボルが生まれる
海環境の関連施設(水族館+ホテルなど) ◆ふ頭の突端に配置		
展示場のような大型複合施設を緑の中に	●お金を払わなくても楽しめる場所	●利益第一ではない再開発に
宿舎付き産学連携の場、展示場などを整備したい	●観光と宿泊、そこに行かないと出来ないようなことをつくる	●横浜の産業をつくる＝税収が確保できる

《大規模集客機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
スタジアム・屋内アリーナ、展示場、マリンスポーツ、モータースポーツ、日本文化等の体験施設 等 《施設配置・空間イメージ等》 宿泊機能、客船ターミナルとの融合 等	●海に囲まれた立地特性(景観、騒音対策等)を活かしたい ●プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい ●最先端技術の集積と広大な敷地を使うことで集客力のあるコンテンツや魅力を生み出したい 等	●国内外から人を集められる ●市民も楽しめる ●周辺地区との回遊が生まれる ●ナイトタイムの活性化 ●事業収益が見込める ●非常時には防災施設になる ●新しいシンボルとなる 等

③公園・レクリエーション機能

導入機能・施策(◆施設配置・空間イメージ等)	山下ふ頭である理由	期待される効果
自然+先進性の融合(先進的な側面は東京の方が勝っているので、自然+先進性をキレイに融合させる)	<ul style="list-style-type: none"> ●海辺の公園には緑・芝生が少ない ●再開発やF1等はエネルギーを使うし、空気も汚れるから反対者もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境をアピールする
海と緑の融合(建築条件として、緑化率等を設定) ◆エリアの外周に植樹(大木だけでなく、芝生、花なども混ぜて自然を演出)	<ul style="list-style-type: none"> ●眺望が良い 	
海×緑=親水公園(都市公園法にしばられない自由な場所、無料で入れる) ◆山下公園から連続する親水公園(ex.大通り公園) ◆中層の建物屋上があって、コンサートができる ◆ジョギング・サイクリングができる(自転車ロードレースも)	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰でも使用できる場所が一部でもあることで、開発に対する市民理解が得られる(税金を投入してもやるべき)
「ダッシュ海岸」(水族館+市民が入れる砂浜、磯、岩場、生き物を観察できる/ex. いわきの水族館)	<ul style="list-style-type: none"> ●癒しの場、学習の場として海辺を生かして魅力的 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもも大人も楽しんで学べる
大きな丘(子供のための広場、市民の憩いの場) ◆ふ頭の中央に大きな丘、その上を森にする ◆森と一体化した海沿いのデッキを整備	<ul style="list-style-type: none"> ●これだけ大きなボリュームの緑地が横浜にはない 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が住み続けたい場所になる
学生・研究者、訪れる市民どちらにとっても快適な環境づくり(キャンパスの緑、公園、砂浜、車とは分離されたサイクルコース等/海辺の風にも配慮した環境づくりが必要)		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜開港 170 年の歴史を未来につなぐまちづくり
山下公園の延長としての憩いの場(無人電動カーで回遊できる、サッ	<ul style="list-style-type: none"> ●山下公園との連続性を大事にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●大さん橋や象の鼻、山下公園との違いも出していきたい

カーなどの芝生練習場など ◆商業施設の上に庭園		
緑の広場(緑以外に何も無い、緑の空地広場 10ha を目標に/ex. セントラルパーク、竹芝のウォーターフロント)	●緑は大切	
アウトドア、健康+避難場所にもなる施設(ヨガ、木陰で体操、グランピング、サイクリングロード、子供プレイパーク、海水から淡水にできる施設など)	●防災と緑オープンスペースを一体で考えるべき ●健康づくりを進めたい	●災害時に千人以上がテント設置できる
芸術性の高い公園(遊具やモニュメントではない、地形(丘)が芸術的な公園/ex. モエレ沼公園)	●景色が良い(周囲を360度見渡せる) ●横浜には大規模な親水公園がない	●子育てファミリーを引き寄せ、定着させる(ex.南池袋公園)。税金を投入しても整備すべき ●他地域/機能との相乗効果が生まれる ●災害時にも機能する
緑があふれる公園	●都心部に近くて広い、一等地としての価値がある	
スケボー、球技など市民のための広場・公園(三ツ沢競技場の移転)		
観光・市民利用スペース(イベントスペース、グランピング施設、動物園など)	●敷地の広さを生かす	●観光による集客に止まらない発展が見込める ●住み続けたいと思える街になる
山下公園と連続した憩いのエリア ◆山下公園側に集客施設・小さい丘をつくり、地上部を駐車場に ◆山下公園世界の広場を再開発(駐車場を山下ふ頭側に)	●山下公園や大さん橋から良く見えるところだから	●内港地区全体の景観の調和
市民のためのエンタメ施設(ハイテク児童遊園地) ◆山下公園側に配置	●子どもたちが楽しめる場所が必要	●子どもたちが喜ぶ、横浜を好きになる ●子育てしやすい環境づくり
環境を生かした憩いの場(ふ頭全体を緑化、自由に市民が出入りできる)	●これだけ大きなボリュームの緑地が横浜にはない ●山下公園やフランス山と連続させる	●市民が気持ちよく過ごせる場所になる ●自然環境、生態系にとって良い
未来の「コウエン」(子どもが集まるまち、遊び場、SDGsの体験型施設/ex.山下ふ頭のコンセプトを子ども	●山下ふ頭ならではの空間大きさやみなどの環境を活かすことができる	●将来を担う子どもたちが山下ふ頭を自分ゴト化して考える ●子どもも楽しめる街、次世代を

もたちが考えるプロセスの導入)		育てる
「話題になる緑の風景」をつくる (広大なひまわり畑、柑橘系の木を植え蝶が舞う街)	●空間の大きさを活かす	●都心部にはない緑の風景を創り出せる可能性
憩いの機能(野外イベントスペース、海に浮かぶことのできるリラクスペース) ◆山下公園から一続きの公園、関内とも連続		
休憩・のんびりできる場所(心がリラックスできる、雨の日ものんびりできる/休憩できる、滞在できるホテル) ◆豪華客船を使ったホテルなど	●都市から少し距離があり、海や港の景観が活かせる ●コンテナや豪華客船を使い、非日常的な場所を作ることができる	●都市の中の憩いの場所となる ●外からの来訪者が来るきっかけとなる ●市内の人も外からくる人も使える場所となる
サイクリングコース・歩く回廊(港を一周できる、景観を眺めながら走れるサイクリングコース・回廊)	●海沿いに面しており、まとまったある程度の距離のコースを確保できる ●水辺、緑、港を堪能できる	●横浜市民が日常的に使うことができる
海と触れ合う機能(海で遊べる、海辺に触れる自然環境のある公園など)		
「ただっぴろば」(大規模な屋外ライブ、サーカス、臨港フェスティバル、若者がアーバンスポーツを思い切りできる場所) ◆直径 450m の芝生、円形の広場、周りは並木・緑で囲む	●都心には大きな屋外での催しができるスペースがない(音を出してもよい場所) ●建物がないスペースこそ魅力的 ●屋外スペースは使い回しができる ●印象的な風景を作りたい	●港の花火大会も楽しめる ●さまざまな交流の場になる。特に若い人たちを惹きつける。若い人たちとの交流に期待したい ●災害に備えたスペースとしても有効
広場・緑地の確保(緑があっても何にでも使える広場・公園、構造物は不要) ◆全体が公園になっていて、その中に施設が点在する ◆山下公園の延長	●モノではなくコトが大切 ●平らな土地が貴重 ●横浜市としてのビジョン、思いが大事	
森と都市が融和する場(水と緑が体験できる公園)	●都心臨海部に公園が不足 ●人・技術・自然の調和効果を測る	●「ウェルネス」や「出会い」の場を豊かにする ●先進的環境技術の実装

《公園・レクリエーション機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
<p>海を感じる大規模な親水公園、ウォーキング、サイクリングなどのレクリエーション 等</p> <p>《施設配置・空間イメージ等》</p> <p>山下公園との一体性、周辺地区との景観の調和 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海と緑を一体的に体感できる場所にしたい ●市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい ●山下公園との連続性が大事 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●先進的な自然環境を世界にアピールできる ●内港地区全体の景観の調和に寄与する ●開発に対する市民理解が得られる ●子育てしやすい環境づくりに寄与 等

④文化・交流機能

導入機能・施策（◆施設配置・空間イメージ等）	山下ふ頭である理由	期待される効果
世界の港を知るための図書館・美術館・市民の広場（開港～昭和以前の街並みを再現、実際に市民が生活する）	<ul style="list-style-type: none"> ●海に面した横浜らしい場所、昔から海外の様々なものが入ってくる場所だから ●若い人に歴史を知ってもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民と来街者の交流、様々な国・文化を体験できる ●エンタメ施設として収益が見込める
大野外劇場・コンベンションセンター（文化を発信する場、市民の歴史を集めた資料館等）	<ul style="list-style-type: none"> ●神奈川には野外劇場がない ●パシフィコだけでは足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ●ここに来れば横浜の歴史が分かる ●横浜から文化を発信する＝横浜が輝く ●全国あるいは国際的なハブとなる
芸術関連施設（有名建築家による美術館、コンサートホール、オペラハウス／バーチャル美術館／体験、学びができる施設） ◆突端部分の3箇所を、歴史・文化・芸術ゾーンに	<ul style="list-style-type: none"> ●世界と日本を結ぶ港、船が入港できるから 	<ul style="list-style-type: none"> ●港なので、外国クルーズ客船が入港したときに、海外の人を対象としたイベントができる ●横浜の景観、ブランドが形成できる立地、広さがある
歴史博物館（横浜発信のモノ・コト展示、日本文化、横浜の文化を体験できる） ◆突端部分の3箇所を、歴史・文化・芸術ゾーンに	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜は西洋文化発祥の地 	
LGBTQに関するミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人が来るので 	
文化交流できるコミュニティハウス、集会所、交流拠点＋現代アートの美術館、子ども向けのアート教養施設	<ul style="list-style-type: none"> ●観光資源としても活用できる ●せっかく海に開けた施設は未来や希望を感じる施設が必要だと思うから 	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術作品を通して、多様化している課題を考える機会がつけられる ●文化芸術を楽しめる人を育てる、横浜市の未来につながる ●大人から子どもまで市民が何度も訪れたい（横浜の歴史を感じる場所で、考えをめぐらせることが重要）
音楽ホール（イベントホール）	<ul style="list-style-type: none"> ●海からアクセスできる（海上交通を活かす） 	<ul style="list-style-type: none"> ●シンボリックな存在に ●集客が見込める ●市民が楽しめる
博物館（関東大震災の記念館、記念碑的なものでも良い）	<ul style="list-style-type: none"> ●都市の記憶を継承したい 	<ul style="list-style-type: none"> ●未来の教育に生かせる

自然系の博物館(生物、気象等を学ぶ施設) ◆公園の中に整備	●都心部にないから	●子どもがリピートする ●目玉となる施設になる
水“性”館(大きな生簀に横浜の魚を放流することで、地元の魚を食べることができる等)		●日本文化を体験できる(ex.刺身) ●災害時に食を提供できる
図書館を中心とした文化発信拠点 ◆建物は有機的なデザインに	●情報が集まり、交わる場所にしたい	●人と情報の循環が生まれる
海の博物館(横浜と海の歴史などを展示)	●海に囲まれているから	
みなとみらいを含む横浜港の開発の歴史を伝える博物館(チームラボのような子どもも楽しめるコンテンツ)		
教育・芸術の拠点(市民ギャラリー、研究施設、留学生のための寮)	●各エリアの中心に位置しており、広大な敷地がまとまって残っているため ●国際性の場所として横浜の港は歴史的背景からも相応しい場所	●横浜から世界へ、世界から横浜へ人や教育、情報を発信できる
教育普及・芸術発表の場 ◆森を作り、海と森の両面で生態系を学べる場所 ◆芸術系の教育施設と展示ができる場所	●森、海、都市が隣接し、まとまった土地があるため、研究、教育に適している ●各エリアからアクセスできる位置にある	●地域全体が教育エリア、研究場所として維持管理される ●新しい学校の在り方が生まれる
「海とミナトのガッコウ」(海や港を身近に体験したり学んだりできる、親子で体験できる環境教育施設、海園農地など)	●三方を海に囲まれた環境を最大限活用	●これからの港と横浜を担う次世代を育成 ●横浜と山下ふ頭の環境をアピール ●市民が楽しむことで、市外にも波及 ●学校の修学旅行でも使ってもらえる ●様々なアクティビティがあることで、平日も盛り上がる
横浜の名物料理が楽しめる「体験食堂」(夜も健全に楽しめる街を実現するための「真夜中のパン屋さん」など)	●横浜ならではの港の景観を楽しめる(空間とセットで、最も人に訴求する「食」の体験を提供)	●健全な夜のまちを実現 ●横浜の食の魅力を発信
文化の発信・交流拠点(モダンアートミュージアム、ジャムセッション)	●横浜美術館と対をなしながらも異なるコンセプトのアートや文化	●真の意味での国際交流と文化の発信拠点となる

のメッカなど)	の拠点となる	
伝統文化の体験(寄せ木細工、陶芸、和紙など)	●最先端の技術と対比あるいは掛け合わせを行うことで伝統文化の魅力を伝えたい	●外国人にアピールできる
海洋資源を活かす施設(魚の養殖&魚が見れる水族館など)	●海があるので、目の前の海で育てた魚を食べられる	●海を大切にしようという意識を育てられる
美術館(北斎の浮世絵「神奈川沖浪裏」の風景が感じられる施設、天候と一体化するようなものなど)	●市民も楽しめる	
ビニールハウス(果物や野菜)		●食糧自給 ●ふ頭産の農産物を特産品に
交流機能(山下埠頭の歴史を表現したスポット・展示場)	●現在と過去と未来の繋がりがわかる	
滞在型火葬場と葬儀施設	●火葬場が少ない	

《文化・交流機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
図書館・美術館・博物館、音楽ホール、野外劇場等の体験・交流施設等 《施設配置・空間イメージ等》 公園と一体的な整備が求められている等	●海に面した横浜らしい場所を活かしたい ●開港・横浜発祥・埠頭の歴史、都市の記憶の継承 ●若い人に歴史を知ってもらいたい等	●市民と来街者の交流を生む ●子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる ●文化・芸術を楽しめる人を育てる等

⑤交通機能

導入機能・施策(◆施設配置・空間イメージ等)	山下ふ頭である理由	期待される効果
「よこはまeループ」広域からの交通結節点、域内ウォークアブル、バリアフリーの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●陸海空、海外からのアクセスのしやすさを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ●自動運転や翻訳ロボットを回遊させることによって、海外から来た人のコミュニケーションのハードルを下げる ●回遊を生み、にぎわいを創造する
交通ターミナル(LRT、ロープウェイの延伸/ロープウェイの延伸など)	<ul style="list-style-type: none"> ●ふ頭までの交通の利便性が悪い ●既存の交通を利用し、新しい交通システムと結び付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もがどこからでも来やすい、交通利便性の高いエリアになる
多目的な船が入港できる岸壁(客船、練習船など)		<ul style="list-style-type: none"> ●多目的な海上利用が進む
新しい環境に配慮した交通(新世代海上交通、空中交通システム/羽田からのアクセス、高速道路へのアクセス・スマート入場口を用意など)	<ul style="list-style-type: none"> ●羽田からのアクセスがとれる、大黒埠頭と直接結ばれる ●陸も海もアクセス可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外から人を呼び外貨を稼ぐ ●港の玄関口に位置しており、横浜の象徴的な役割を果たす
海からのアクセス ◆先端には海上交通を推進するポートを配置	<ul style="list-style-type: none"> ●立地的に開発可能、利便性が高い ●街の眺望、海の眺望を活かせる 	
エリア内交通(循環バス、観光船発着所、無人運転の実証実験場など)	<ul style="list-style-type: none"> ●奥のエリアへの回遊、利便性が必要(よっぽどのものでなければエリアを使い切れない) 	<ul style="list-style-type: none"> ●集客が見込める
フェリー発着場(お酒を楽しみながら、外国人がやってくるイメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ●大さん橋とは異なる景色がある ●街にダイレクトに訪れたい ●(課題)大さん橋⇄山下ふ頭⇄中華街のトライアングルは回遊性が厳しい 	
地下駐車場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●自家用車で来られるようにしたい。そうでなければ、わざわざ来る場所ではない 	
駐車場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●車の利便性が高い ●市内全体から来やすい(しかし渋滞が心配) ●海と触れ合える自転車道やウォーキング道路もほしい 	
公共交通アクセスの確保(路面電		

車の復活、ユニバーサルデザイン の2階建陸上バス、水上バスなど)		
海からのアクセス(海から川・運河 へのアクセス、羽田空港や千葉な どと結ぶ航路、はしけ的な機能が あると良い)	●海を活かすことで観光客にも喜 ばれる(エンタメとしてはいいが 公共交通としては課題もありそ う)	●シーバスなどをもっと通勤手段 に活用出来る
多彩な交通(ゼロカーボン船の運 航、自転車やマラソンコースになる 水辺沿いの道路、電車の乗り入 れ・車庫の上部を緑の広場に)		
交通システムの充実(ふ頭奥まで のアクセスを確保、水上交通で横 浜やみなとみらい、羽田空港と接 続) ◆ふ頭外周部を新交通で巡れる	●羽田空港からのアクセスが良い ●広い	●陸海空の全ての交通と繋がる場 所となる
AIなどによる混雑緩和システムの 活用	●集客施設があるため、混雑が生 まれる	
交通アクセス・回遊性の創出(シー バスの拠点を増やす、湘南新宿ラ インの京浜東北線への乗り入れな ど) ◆公園、釣り堀、キャンプ、お花畑		
交通(外部からふ頭までのアクセ ス+ふ頭内の回遊) ◆地下鉄の延伸、水上交通、シャ トルバス、LRT等 ◆レンタルセグウェイ、自動運転 バス、水素バス、駐車場等	●アクセスが悪い、交通網が整わ ないと何も始まらない	
交通アクセス・回遊性の創出(シー バスによる水上移動、場内カート による陸上移動)	●既存の交通を生かす	●ふ頭内外の移動がスムーズに なる ●新しい技術を体験できる
ドローンタクシーの導入	●羽田からアクセスに使えると良 い	
海の駅・船着き場の整備(山下→ 晴海→幕張の行き来など)	●山下ふ頭が持つシンボル性	●高速船で外洋に出れる ●交通利便性が向上する
水上交通拠点	●横浜港内を行き来しやすい場 所にある	●横浜港や川を使った交通が活 発化する
交通機能(シーバスを含めた海の 交通とそのターミナル/全自動シャ トルバス、シャトルカー、動く歩道		

<p>のネットワーク、無料電動自転車など)</p> <p>◆ふ頭を回遊するモノレール、海をまたぐロープウェイ、海上交通など</p>		
<p>交通アクセス(エアキャビンの延伸、海、陸、空、様々な交通アクセスを繋げる、成田からのヘリポートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜だけでなく、世界中から人が集まる場所にするには、まずは交通手段を整える ●立地は良いが、アクセスが悪いことを解消しなくてはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜港に人が訪れるきっかけを作ることで、都市など横浜全体に人が循環する ●交通手段も楽しめるものとするここと、移動手段が経済を回すきっかけとなる
<p>スマートモビリティ拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●広大なエリア内の移動手段、周辺エリアもつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ●都心臨海部の個性ある多様なエリアの一躍を担う ●新たな交通システムの実証
<p>海上交通拠点(交易の場)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォーターフロントの拠点として個性を活かす ●「港」を体感できる魅力的で利便性高い移動手段となる ●次世代の海運や検疫の提供 	

《交通機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
<p>交通結節点の整備(陸・海・空)、エリア内ウォークアブル、バリアフリーの実現 等</p> <p>《施設配置・空間イメージ等》</p> <p>ふ頭へのアクセス手段とふ頭内回遊手段の創出 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●陸・海・空、海外からもアクセスしやすい ●市民目線では遠い、広すぎるとの意見もある ●街の眺望、海の眺望を活かせる等 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外から人を呼び外貨を稼ぐ ●回遊を生み、にぎわいを創造する ●海の玄関口として象徴的な役割を果たす ●先進的で多彩な交通を実現する 等

《具体的な導入機能のまとめ》

学術・研究開発機能

先端研究施設、企業と大学の集積等

《期待される理由・効果等》

- 実証実験の場にふさわしい
- 世界的な知名度・ブランド価値の向上
- 羽田からのアクセスが良い
- 教育や文化への投資は持続性ある取り組み
- 教育への投資、若者の定着
- エネルギー問題等への貢献等

先進性

ブランド力の向上

立地特性

教育文化

諸問題への貢献

大規模集客機能

スタジアム、屋内アリーナ、展示場等

《期待される理由・効果等》

- 国内外から人を集められる
- 事業収益が見込める
- 海に囲まれた立地特性(景観、騒音対策等)を活かしたい
- プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい
- 非常時には防災施設になる等

観光

市の収益の向上

立地特性

地域資源活用

防災

公園・レクリエーション機能

親水公園、遊歩道、サイクリングコース等

《期待される理由・効果等》

- 市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい
- 子育てしやすい環境づくりに寄与
- 海と緑を一体的に体感できる場所にしたい
- 山下公園との連続性が大事
- 先進的な自然環境を世界にアピールできる等

市民利用

子育て

立地特性

自然環境

文化・交流機能

図書館・美術館・博物館、音楽ホール等

《期待される理由・効果等》

- 開港・横浜発祥・埠頭の歴史、都市の記憶の継承
- 海に面した横浜らしい場所を活かしたい
- 市民と来街者の交流を生む
- 子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる
- 文化・芸術を楽しめる人を育てる等

歴史

立地特性

市民利用

文化芸術

交通機能

交通結節点の整備(陸・海・空)等

《期待される理由・効果等》

- 陸・海・空、海外からもアクセスしやすい
- 回遊を生み、にぎわいを創造する
- 先進的で多彩な交通を実現する
- 街の眺望、海の眺望を活かせる
- 海の玄関口として象徴的な役割を果たす等

利便性の向上

立地特性